

と修辭速記演說

英和比較英語修辭學講義 増田藤之助 中の 三四三 丸 善 〇、九〇

演說應用修辭學 加藤熊一郎 小中の 四七二 東亞堂 一、二〇

演說と作文の原理及應用を示し古人の文話等も引用せり。
應用修辭學講話 八波則吉 一中 二五三 敬文館 一、二〇

名文の名文たる所以を研究して讀書作文の参考に資せんとす。

新式速記術獨習 熊野健一郎 一中 五四三 博文館 一、六〇

熊崎式速記術の獨習を詳説す、附録に支那速記術あり。

大雄辯學 米、ス、コ、ット 佐々木安五郎譯 一中 三〇八 二松堂 一、二五

雄辯法を心理的、暗示的に研究したるもの。
通俗雄辯術 久留島武彦 小中の 三九〇 廣文堂 一、二〇

雄辯法に關する著者の研究と實驗とを發表す。
テールブル・スビーチ 大日本雄辯會編 小中の 三二五 大日本雄辯會 〇、六〇

政治、軍事、商事、運動、社交等に別ちて卓上演說を蒐集す。

雄辯術精習 蘆川忠雄 一中 五六八 大日本雄辯會 一、五〇

演說を初めて學ばんとする者の修養法を詳説す。
雄辯の修練 村井知至編 一中 四〇〇 大日本雄辯會 一、〇〇

覺米に於ける雄辯術に關する著書の抄譯。
雄辯二千年五百年史 福田吉藏 小中の 三四三 大日本雄辯會 〇、八〇

世界雄辯の發達を詳述せり。

最新式辭と演說 青年雄辯會編 小中の 四一八 二松堂 一、一〇

諸種の典禮儀式に關する式辭と演說とを編せるもの。
式辭及演說 中央書房編 小中の 四八四 中央書房 一、三〇

式辭と模範演說の實例集。
雄辯舌と筆 樋口秀雄 小中の 四〇六 二松堂 一、二〇

辯論と文章とを統一的に研究す。
正式辭と演說 青年雄辯會編 小中の 四六八 二松堂 一、二五

各種の式辭及び式場演說集。

大隈演說と座談 大隈重信 小中の 三四〇 二松堂 〇、八五

内容多方面なるも政治に關するもの最も多し。

- 大隈抱負と經綸 大隈重信 一小 三四〇 二松堂 一、〇〇
- 大隈伯の談話演說等を集めたるもの、政治に關すること多し。
- 演說集 高遠の理想 大隈重信 小 七五〇 早稻田大學 一、二〇
- 政治、經濟、財政等に關する演說集。
- 大正雄辯集 大日本雄辯會編 一中 四四六 大日本雄辯會 一、二〇
- 尾崎行雄外二十四氏の演說集、明治雄辯集の續編とも見るべし。
- 泰西雄辯集 大日本雄辯會編 一小 四八三 大日本雄辯會 〇、九〇
- 西洋各國の代表的演說を譯載す。
- 泰西雄辯集 第二 大日本雄辯會編 一小 四九六 大日本雄辯會 〇、九〇
- 英國首相アスクニス氏の文明の義戰を筆頭とし、英、米、獨、佛、何諸國の名家の雄辯約四十を集む。
- 壇上より國民へ 三宅雄二郎編 小 四一三 文淵堂 一、二〇
- 三宅雄二郎氏の演說を集む。
- 模範名家演說集 足立四郎吉編 一中 四〇七 明治出版協會 一、四〇
- 一般的、青年會、婦人會、父兄母姉會、通俗講演會、在郷軍人會等の講話を集め資料に供す。
- 講演逸話集 大日本雄辯會編 一小 三三〇 大日本雄辯會 〇、五〇
- 話題の材料として東西の短話數百種を集む。
- 通俗講話資料集 第一卷 加藤熊一郎編 一中 一九四 明誠館 〇、六〇
- 第二卷 加藤熊一郎編 一中 一九四 明誠館 〇、六〇
- 始めに講話談を説き、次に偉人の面影、奇行奇談の講話資料を輯めたり。

第七 歴史

い 總 記

- △續 史的 研究 史學研究會編 一中 三四七 富山房 一、四〇
- 幣原坦氏の倭寇に就て其他四篇の講演を集む。
- 縮樗牛全集 第三卷史論及史傳 高山林次郎編 一小 八三四 博文館 一、三〇
- 舊版に無き著者の大學卒業論文古代印度思想概論等を加ふ。
- 東西六千年 山路彌吉編 小 七四〇 春陽堂 一、五〇
- 史論集。
- 内歴史 講談 玉井幸助編 小 五七二 育英書院 一、一〇
- 中等程度の生徒の家庭の讀物。
- 南亭史說集 箕作元八編 一中 五一四 目黒書店 二、〇〇
- 西洋史に關する論文多し。
- 人間生活史 茅原廉太郎編 一中 五三三 弘學館 一、八〇
- 新第三帝國論を附す。
-
- 官立學校 入學試驗 歴史地理試驗問題解答 中本村重彦編 小 四七八 東華堂 〇、六五
- 大正元年より四年に至る入學試験問題を解答す。

ろ世界史

世界近世史	坂本健一	一中	九九〇	博文館	二、八〇
卷頭に近世以前史實の世界的趨向を述ぶ。					
一九一五年世界年史	煙山亭太郎編	一中	五九七	外交時報社	二、五〇
一九一五年中世界各國の重要な出来事を月順に従ひて排列す、卷尾に詳細なる索引あり。					
世界の變局	徳富猪一郎	一中	五五八	民友社	二、五〇
歐洲政局の推移、極東政局の變遷、米國の帝國主義、歐洲大亂開戦の序幕等を論ず。					
大勢史	眼福本	一中	三〇八	至誠堂	一、二〇
伯林會議以後に於ける世界の政治外交を述ぶ。					

新式座	右年表	芳賀矢一編	一大	一三九	文會堂	〇、九五
政治、文學等に分類しあるが故に檢索に便なり。						

歐洲戰亂の真相と交戦列國	板倉卓造	小中	一六二	慶應義塾	〇、六五
戰亂の直接原因、遠因、獨逸の誤算、英佛海軍内約等。					
歐洲大變局	惠美孝三編	一中	三一三	共鳴堂	一、三〇
歐洲の禍源、獨逸の勃興、カイセルの雄飛、日英佛露の聯結、最近國際問題、大戰亂の波動等。					

歐洲大亂史	上卷	小山清一郎	一中	三八二	東亞協會	一、五〇
過去半世紀間の歐洲國際政局の變遷より日本帝國の對獨宣戰に至る。						
歐洲大亂の眞因と交戦列國	附膠州灣處分論	小寺謙吉	小中	三五二	大正書院	一、四〇
大亂の眞因と交戦列國の現代及將來に對する著者の見解を述ぶ。						
×歐洲大亂錄	原田政右衛門	小中	二三三	新潮社	〇、四五	
大亂の主腦人物、列強の國情、軍備等を説く。						
×歐亞世界大戰	軍事研究會編	小中	二五八	日吉堂	〇、四五	
世界大戰の原因と戰況。						

は日本史

一總記

國史叢書	國史研究會編	小中	三	國史研究會	一、〇〇	
南朝太平記、室町殿物語、足利治亂記、異本小田原記、石田軍記、仙道軍記、古今武家盛衰記、源平軍物語一、土佐物語、四國軍記、古今武家盛衰記二、南島變亂記、源平軍物語、頼朝最後物語、八島檢浦合戰記、泰衡征伐物語、源平盛衰記補闕、源平拾遺、曾我物語(大石寺本)、新東鑑一、新東鑑二、美濃國諸蕃記、濃陽諸士傳記、西國太平記、毛利秀元記、會津四家合考一、會津四家合考二、南部根元記、上州坪弓老談記、上州金山軍記、新田正傳記、新田正傳記或問、越後軍記、淺井日記、古郷物語、大友公卿家覺書、從道鑿五代記、芳野拾遺物語、櫻木物語、三人法師、細々要記、底倉之記、千葉傳考記、小田軍記、小田天庵記、房總軍記、里見九代記、武田三代軍記、甲亂記、理慶尼の記、甲陽遺聞錄、關原軍記大成一、關原軍記大成二、關原軍記大成三、四						
歴史講座	第一期	日本學術普及會編	小	五	日本學術普及會編	〇、八〇
第一編	帝	都喜田貞吉	第二編	田沼	時代	善之助

第三編 城廓之研究 大類 仲 第四編 國史問題正面觀側面觀 大森金五郎
 第五編 花園制度之概要 吉田東伍 第六編 勤王論之發達 本多辰次郎

○ 地理的 日本歴史 吉田東伍 中 四七六 南北社 一、八〇
 地理を基礎として説ける日本の歴史。

○ 維新後 大年表 妻木忠太編 小 訂 六〇五 有朋堂 一、〇〇
 大正三年中の出来事を増補し幕末事歴便覽を附す。

○ 新日本歴史 年表 新田徳 小 七〇三 文林堂 〇、三〇
 國史に現れる重要事實を年代順に列記す。

○ 日本歴史 年鑑 山田草人編 小 三四四 岡村書店 一、四五
 中等學校程度の參考書なり上世より大年三年至る。

○ 明治 大年表 小川多一郎編 大 一八〇三 弘文館 一、五〇
 明治年間の百般事項を網羅す。

二 雜書

○ 國史 八面觀 久米邦武 小 四八二 甲陽堂 一、二〇
 主として上古の日本大事件を評論す。

史 說 史話 重田定一 中 六一四 弘道館 二、〇〇
 帝陵私記、鳥形の齊瓶、國柄の古風、國分寺の廢址、正倉院、檜木毛車の檜木其他。

○ 趣味の 日本史 上卷 新保磐次 中 八〇八 金港堂 二、八〇
 古來の傳説を收拾して各時代の人物、事態を生動せしめんとすと云ふ。

○ 情的偉人を 日本側面史 藤森政次郎 小 三五二 歴史研究会 〇、五五
 各時代の代表する偉人の情的評論を中心として日本史の側面を叙せり。

○ 生活と趣味 日本文明史話 吉田東伍 中 四五四 廣文堂 一、五〇
 より觀たる 著者の各所に於て試みたる古來外人の日本詩等二十二篇の講演を編めるもの。

○ 國史 正面觀側面觀 (歴史講座) 大森金五郎 小 三〇二 日本學術普及會 〇、八〇
 國史より觀たる旅館の發達、天朝時代に於ける兵制の沿革、平家の滅亡と鎌倉の滅亡の三篇を收む。

○ 讀史の趣味 (縮刷名著叢書) 萩野由之 小 四一八 東亞堂 一、〇〇
 國史に關する筆のすざび長短數十篇を蒐む、一度雜誌に發表せるもの。

○ 新國勢 力 の 跡 西村眞次 小 三二九 富山房 〇、四五
 波邊華山の人格、水野忠邦の政策、荻生徂徠の學風其他を評論したり。

○ 日本史 蹟集 覽 杉田素三郎 中 五一七 敬文館 一、七〇
 平泉、小田原、鎌倉等日本全國に亘り史蹟五十を集めこれを解説す。

○ 歴史 の 教訓 塚原靖 小 四〇六 東亞堂 一、〇〇
 日本歴史に關するもの、幕末の實況等眼前に展開す。

○ 傳説 歴史 の 謎 高瀬羽皋 小 三三一 東亞堂 〇、六〇
 × 研究 武田信玄、山本勘介、阿部豐後、春日局、眞田幸村、花川戸助六等の逸事。

日本海上發展史 並に日本海軍之發展 足立四郎吉 一中 二五六 二松堂 二〇〇
 海國日本の發達を側面的に觀察し平易に其一斑を叙述す。
 日本 交通史論 日本歴史地理學會編 一中 六八八 日本學術普及會 二、三〇
 藤田明氏の遺稿日本交通史論を主とす。

勤王論之發達 (歴史講座第六編) 本多辰次郎 一小 三二二 日本學術普及會 〇、八〇
南北朝時代より幕末に至る勤王論發達の路を叙述す、殊に江戸時代に就て精細なり。

庄園制度の概要 (歴史講座第五編) 吉田東伍 一小 二五四 日本學術普及會 〇、八〇
庄園制度の名義、沿革等を簡單に説明せり。

清教徒神風連福本誠 小中の 三八八 實業之日本社 一、二〇
清教徒の篤信、黨の諸豪及明治九年熊本に於ける壯圖を叙す。

帝都 (歴史講座第一編) 喜田貞吉 一小 三二〇 日本學術普及會 〇、八〇
歴朝帝都の沿革を通俗的に述ぶ。

南蠻記 新村出 小中の 四〇四 東亞堂 一、五〇
歐洲文物の東漸に關する趣味ある論文數篇を輯めたり、蓋し西力東漸、日本洋學史其他本邦中世の外交史研究者の必讀書。

肥後の勤王後藤是山 一中 二九八 東京出版社 一、一〇
明治維新當時に於ける肥後藩の勤王史。

雷號

三通史

倭寇の事蹟を攻究す。
 寇長谷川正氣 一中 二一六 東京堂 〇、七〇

大日本歴史集成 中、下卷 青木武助 二中 二二三四 隆文館 六、〇〇
鎌倉幕府より明治戊辰の役までを詳叙す。

二千五百年史 竹越與三郎 一中 補七八〇 二酉社 二、五〇
増補と云ふも最近の事實を加へたるためにあらず、徳川幕府の末期を以て終る。

新二千六百年史 白柳武司 一中 九五七 東亞堂 三、五〇
明治天皇の崩御に筆を起し事件の原因を索ねて神代に遡る倒叙體なり。

日本全史 矢野道雄 二中 一五三六 新時代社 六、〇〇
太古より大正五年七月に至る、全編振假名付。

家庭日 本 歴史 内海弘藏 一中 六二四 中西屋 二、三〇
少年向通俗繪入。

日本歴史通覽 高桑駒吉 一中 一一七〇 實業之日本社 四、〇〇
各種高等專門學校受験者及中等教員等の參考用。

校刻日本外史 (附日本外史辭典) 頼野和三郎校訂 小中の 九三〇 潮文社 一、二〇
保岡元吉氏の校訂を校刻せるもの、外史辭典は文潮社の編纂。

雷號

新撰 日本外史 池邊直義 文象 一小 一〇〇八 補五 博文館 一、四〇

今上陛下の御即位禮までを増補したり。
録抄 日本外史講義 淵脇 蓬 小中 一 三〇七五 東京出版社 〇、九〇

漢和 大日本史論叢集 井川光園編 井川作之助譯 一中 六〇二五 大正書院 二五〇
現行の大日本史には削除せられたる贊のみを集めて和譯せるもの。

四上古史

三體 古事記 澁川柳次郎 一中 四六六四 正確堂 〇、九〇
三體とは原文、古訓及著者の俗語譯を云ふ。

五中古史

榮華物語(校註國文叢書 第十册) 池邊義象校 一中 八二六三 博文館 一、〇〇
卷ごとに繪畫を挿入す。

新譯 榮華物語 興謝野晶子 三中 一四七七 文淵堂 八、〇〇
現代語に譯せるもの。

大鏡(同文口譯叢書 第二篇) 芳賀矢一 小中 一 五七六五 文會堂 一、五〇
原文と口譯を對照するに便ならしめ、卷末に註解を附す。

源平盛衰記下卷(校註國文叢書 第八册) 池邊義象校 一中 七四二三 博文館 一、〇〇
原本卷二十六より四十八に至る。

番號

番號

奈良時代史論 日本歴史地理學會編 一中 五四四三 仁友社 二、〇〇
萩野、大森、喜田、天沼、關野、芳賀、高橋、岡部、黒板、藤田、水木諸氏の講演。

平家物語 萩野由之 一中 三六〇四 富山房 一、三〇
平家の史傳を詩化したもの、暮春西行記を附す。

平家物語評釋 内海弘藏 一中 七〇七四 明治書院 二、〇〇
内閣文庫、東京美術學校等の藏書に依りて校訂せりと云ふ。

新譯 平家物語 澁川柳次郎 一中 七七九三 文淵堂 六、〇〇
現代語に譯出す。

平家物語讀本 萩野由之 一中 三六〇四 富山房 一、三〇
平家物語を抜粹し現代語に改めたるもの。

平家物語評釋 内海弘藏 一中 七〇七四 明治書院 二、〇〇
丁寧な語句を解釋し一章毎に評論を附す。

六近古史

安土桃山時代史論 日本歴史地理學會編 一中 四四〇四 仁友社 二、〇〇
内田銀藏氏の「織豊二氏時代に就きて」以下十三氏の安土桃山時代に關する史論を收む。

吾妻鏡の研究 八代國治 一中 一九一二 弘文館 一、〇〇
吾妻鏡の種類、性質、編纂の年代、材料、誤謬等を研究す。

元龜 龜天正 物集 高量 一中 三一六三 嵩山房 一、五〇
元龜天正頃の英雄豪傑が優勝劣敗の跡を指摘す。

奥羽沿革史論 日本歴史地理學會編 中 四三六 仁友社 一、七〇
 原勝郎氏の日本史上の奥洲、喜田貞吉氏の蝦夷の馴服と奥羽の拓殖、岡部精一氏の前九年役と後三年役其他を收む。
 甲斐史 土屋操編 中 五〇四 朗月堂(甲府) 二、五〇
 甲斐國の人文の發達、世運の變遷、治亂興亡の由來などを明にす。
 薩摩と琉球の關係と其事蹟の真相を闡明す。 中 四一六 中央書院 二、三〇

に東洋史

東洋史講義 下卷 河野元三 中 四五二 芳流堂 一、八〇
 本卷は近古期及近世期なり、數葉の圖を挿めり。
 東洋歴史集成 上卷 櫻井時太郎編 中 一〇七六 隆文館 三、五〇
 東洋諸國の盛衰興亡、文化の變遷、英雄聖賢の事蹟等を詳解す。
 自修参考 東洋歴史精義 朱平田徹 中 三六七 博育堂 一、〇〇
 中等程度。
 東洋歴史年表 中村久四郎編 小中 八六五 博育堂 〇、五〇
 評解 東洋歴史年表 島田増平編 小中 八六五 博育堂 〇、五〇
 黃帝の一統より袁世凱の死去に至るまでの事項を詳解す。

ほ支那史 印度史

近世支那十講 稻葉岩吉 小中 四九六 文淵堂 一、五〇
 支那近代思想と革新の將來、支那の經學と政治、康熙大帝等十題あり。
 支那外交史 牧野義智 中 五七六 金港堂 二、二〇
 歐人の來船時代より民國の建立に至るまでの外交史。
 △清朝全史 稻葉岩吉 中 一五四 早稻田大學 五、〇〇
 愛新覺羅氏十二朝の大事を編輯す。
 △滿洲發達史 稻葉岩吉 中 八四八 大阪屋 三、五〇
 滿洲の發達を述ぶること詳密を極む著者多年の研究より成れるもの。
 蒙古通志 中島鍊編 中 八〇六 民友社 三、〇〇
 蒙古の地誌を説き主として清代の事蹟を講究す。
 蒙古白人の世界・黃人の世界 中村久四郎 中 二四四 晋文館 〇、八〇
 蒙古を背景として東西黃白人種の過去に於ける競争状態を叙述す。
 △渤海史考(奉公叢書) 島山喜一 中 三〇五 目黒書店 一、〇〇
 渤海王國の興亡を主として其民族の盛衰等を述べたり。
 印度の古文明 重松俊章 小 一〇九 文正社 〇、二五
 印度アーリヤ人種の社會、宗教、文化を述ぶ。

印度太古史(美術叢書) 英ラブソン 山下祥光譯仲の 二四二 向陵社 一、五〇
次に發行すべき印度美術史の基礎として太古印度の一般思想の徑路を叙述す。

西洋史

西洋史(自修歴史) 横井春野 一小 四四三 博育堂 一、〇〇
獨學にて西洋史の一般に通せんとする者の爲めに平易なる記述を試みたり。
西洋史眼 木村重治編 二小 一四六六 有朋堂 二、九〇
高等専門學校用程度。
西洋時代史觀 中世大類 伸 一中 三八二五 文會堂 一、五〇
此卷に於ては主として中世高潮期とも云ふべき封建時代を論じたり。
西洋上古史 村川堅固 一中 四一九五 寶文館 二、七〇
エジプトの建國時代より西ローマ帝國の滅亡に至る。
西洋史話(國民學叢書) 箕作元八 一中 六二七四 東亞堂 二、五〇
西洋史に關する論文、批評等の舊稿を纏めたるもの。
西洋通史 瀨川秀雄 二中の 九九二五 富山房 三、〇〇
日本の歐洲戰爭参加に筆を擱く。文章平易。
通俗世界歴史第一編英吉利帝國 坂本健一 一中 一四四五 博文館 〇、四五
一讀英國の過去現在を了得せしむ、叙述簡明。

事實西洋歴史年表 島田増平編 二中の 一二七四 博育堂 〇、五〇
埃及の建國より青島の陥落に至る。

現代文明史(現代歐洲叢書) 佛、セーニョボス 大日本文明協會譯 一中 六四二 文明書院 二、〇〇
歐羅巴文明の消長發展を理解せしむ。
十九世紀末年史(現代歐洲叢書第七) 米、ラテイマー 大日本文明協會譯 一中 七五四 文明書院 二、三〇
印度疆界戰、ボア戰爭、米西戰爭其他政治上の出來事等。
歐米最近世史十講 原勝郎 一中 三〇九四 弘道館 一、三〇
セルギア主義と列強の均勢以下歐米最近史上の十題目を講述したるもの。
近世歐洲文化史論(現代歐洲叢書第九) 英、グレイアー 大日本文明協會譯 一中 八二二三 文明書院 二、七〇
「近代歐羅巴の歴史的基础」を翻譯したるもの。
近世歐羅巴の基礎(現代歐洲叢書第八) 匈、ライイヒ 大日本文明協會譯 一中 三六一三 文明書院 一、二〇
近世歐羅巴の急激なる發達の原因を論斷せるもの。
近代文藝之背景(教育講座) 内ヶ崎作三郎 一小 三〇一三 日本學術普及會 〇、七〇
近代歐洲文藝の背景としての歐洲文明史。

伊太利王國 川副嘉一郎 二中の 二二〇五 金城社 〇、八〇
伊太利國の歴史特に勇ましき物語、愉快なる戰爭話を叙す。

埃匈兩國と其皇室(時事叢書) 坪井九馬三 小 一〇三 富山房 〇、二〇

正史上のロマンス 中島茂一編 小 四〇六 早稻田大學 一、二〇

獨逸帝國と佛蘭西共和國 高桑駒吉 中 三三八 尙文館 一、二〇

新獨逸帝國の建設と佛蘭西第三共和國の確立とを述ぶ。 東方問題と巴爾幹半島(時局叢書) 高桑駒吉 中 四二八 尙文館 一、三〇

東方問題と巴爾幹半島(時局叢書) 高桑駒吉 中 四二八 尙文館 一、三〇

獨佛戰爭と外交(時局叢書) 高桑駒吉 中 三〇六 尙文館 一、〇〇

巴爾幹の變遷 長瀬鳳輔 中 四八〇 富山房 一、六〇

勃牙利を中心とし之に塞耳比、羅馬尼、黑山國等を加へてその變遷を叙述す。 武士道の華(西洋史新話) 箕作元八 中 三五七 博文館 〇、八〇

中世の末期に於ける封建制度、戰術、風俗の推移を述ぶ。 世界最古の史乘「ヘロドトス」の譯 坂本健一譯 中 七二八 隆文館 二、五〇

ヘロドトス 坂本健一譯 中 七二八 隆文館 二、五〇

北方の流星王(西洋史新話) 箕作元八 中 二七四 博文館 〇、八五

雷 號

第八傳記

い 總 記

偉人傳叢書 博文館編 二 中 二 博文館 各册 一、〇〇

第一編 諸葛亮 杉浦重剛 第二編 坂本龍馬 千頭清臣

第三編 西郷南洲 猪狩又藏 第四編 奈翁と其元師 千頭清臣

第五編 豐太閤 楠瀬幸彦 第六編 ネルソン 大肝原里清

第七編 熊澤蕃山 奥田義人 第八編 ビスマー 肝付兼行

第九編 吉田寅次郎 世杉浦重剛 第十編 成吉思汗 坂田重季

第十一編 ビット 島田三郎 第十二編 ガンベツ 池田元吉

偉人の私生涯に於ける美點を述ぶ。 傑人佳人大町芳衛 小 三五五 春陽堂 一、一〇

成功世界的人物 第一、二集 龍口了信編 小 三七二 六盟館 一、〇〇

模範 牛島謹爾、アナメーカ、佐久間貞一、森村市左衛門、ロツクフエラ、高峯讓吉、久原房之助、澁澤榮一、エヂソン、田村又吉 十人を評傳す。

世界名士の癖 榎本恒太郎 小 二三四 實業之日本社 〇、四五

東西古今の名士數十名につきて各面白き癖を擧げたるもの。

雷 號

ろ日本人

一 人名辭書 人名錄

- 華族 大系 水野慶次編 一中 九一四 系譜社 五、〇〇
- 華族の家系を正し其勳功を尋ぬ。
- 日本紳士錄 交詢社編 小中の 五〇〇 交詢社 四、〇〇
- 東京、大阪、京都、横濱、神戸、名古屋の紳士を網羅す、銀行會社錄其他數種の附録あり。
- 日本人名辭典 芳賀矢一編 小中の 一七四 大倉書店 三、〇〇
- 名の順に排列し記述簡潔。

二 皇室

- 大日本帝國御皇統大系圖 宮澤祐助編 一大 二四 正史研修會 〇、五〇
- 列聖及御連枝の御系統を詳しき圖表とし、太古より維新前に至る年表と明治、大正の月表とを附す。

- 昭憲皇太后 附女四書 坂本辰之助 一中 四一三 畫報社 一、五〇
- 著者の講述せる昭憲皇太后の御傳記と内外人哀悼の辭と。
- 昭憲皇太后宮洞口獻壽 一中 三一〇 勤業書院 一、三〇
- 昭憲皇太后陛下の御坤徳を講述せり。

三 合傳

- 修養史傳 東亞堂編 中 四 東亞堂 各册 〇、三〇
- 第一編 日蓮大士言行錄 足立四郎吉 第二編 大西郷行錄 鈴木郁翁
- 第三編 山鹿素行言行錄 足立四郎吉 第四編 徳川家康言行錄 百目木智雄
- 第五編 吉田松陰言行錄 武田櫻桃四郎 第六編 新井白石言行錄 藤森政次郎
- 第七編 貝原益軒言行錄 上田良一 第八編 佐久間象山言行錄 笹井花明
- 第九編 勝海舟言行錄 淺海琴一 第十編 水戸黃門言行錄 菅岡清泉
- 日本偉人言行資料 棚田璋左右編 小中の 四 國史研究會 各册 一、〇〇
- 南龍言行錄、千年の松、桃源遺事、西山遺聞、昔咄(抄録)、慶勝公履歷附録、有斐錄、先哲叢談、立花遺香、銀鑿遺事同拾遺、先哲叢談後編、松雲公御夜話、大猷院殿御實記附録、有徳院殿御實記附録、先哲叢談後編二。

○

- 合縁奇縁(傳記文庫) 第一卷 宿利重一 一小 二五五 國民書院 〇、五〇
- 明治時代の名士にして相互に扶助して偉業をなしたる事蹟の多くを記述す。

- 男の中の男 大町芳衛 一小 四三四 東亞堂 一、〇〇
- 男の中の男とも云ふべき山中鹿之助、悪源太義平、無官大夫敦盛等の傳記なり。
- 英雄 雄 史 加藤熊一郎 一中 三三三 中央書院 一、三〇
- 主として古今英雄の信仰を綴す。
- 英雄 雄 史 談 上田萬年 小中の 三四八 廣文堂 一、二〇
- 瓊の浦の海戦と源義經、曾我兄弟と源頼朝、文武の名將加藤清正等を收む。

加藤・福島 高瀬 羽阜 一 中 二七五四 嵩山房 一、〇〇

現代富豪論 山路 彌吉 一 中 三八七三 中央書院 一、〇〇

現代富豪に關する論文を集む。

元快舉真相錄 福本 誠 一 中 九一五三 東亞堂 三、三〇

妄傳、謬説を排し史實を研鑽して其真相を傳ふ。

元四十七・士上編 村上 信 一 中 三九一三 至誠堂 一、二〇

史實に偏せず流俗に媚びざる程度なりと。

古今辭世集 飯田 一 敬編 一 中 三八九四 實業之世界社 〇、七〇

古今の日本名家數百名をいろは順に排列し、一々簡單なる傳記と辭世とを附記す。

薩摩義士錄 小西 勝次郎 一 中 二一八四 須原屋 一、〇〇

木曾川外二川の治水工事に關し割腹したる義烈の薩摩藩士を傳ふ。

三十七八年戰役感狀錄第三編 手塚 魁三編 一 中 六〇七三 手塚魁三 二、五〇

感狀を受けたる將校、下士卒數十名の忠烈錄。

殉志士叫血錄 平井 駒次郎 一 中 三八八四 國民書院 〇、七〇

志士書簡 遠山 操編 一 中 四二〇三 厚生堂 一、二〇

元祿時代より大正に至る勤王誠忠の士の書簡を蒐集す。

時勢と英雄 久米 邦武 一 中 四七八四 廣文堂 一、二〇

神武天皇以下乃木大將に至る日本英雄十數人の評傳を主とす。

新譯 皇朝靖獻遺言 横尾 謙編 一 中 二四〇五 廣文堂 〇、九〇

守屋、鎌足、清原、道真、重盛、正成、義貞、親房八人の傳記。

贈位功臣言行錄 大日本國民中學會編 一 中 四七八五 國民書院 一、二〇

收むるところ北島具行、日野邦光、富士名義綱、名和長重以下百餘名。

歷史 曾我兄弟生ひ立ちの記 大庭 三郎 一 中 二二二五 京橋堂 〇、三五

實話 曾我兄弟生ひ立ちの記 大庭 三郎 一 中 二二二五 京橋堂 〇、三五

興味中心主義の書きぶりなり。

たのもしき婦人(並詠史) 海上 龍子 一 中 二五二四 遼東新報社 〇、六〇

日本古今の烈女貞婦等百人を選びて之を詠じ一々小傳を附す。

士佐偉人傳 寺石 正路 一 中 五〇六三 澤本書店(高知) 一、二〇

國司、國守、戰國武將、藩國名臣、漢學者、書畫家、理學家、工藝家等。

日本女性史 久保田 辰彦 一 中 六七六三 弘道館 二、〇〇

日本各時代女性の特色節操等を論じ其真相に徹せり。

奮闘立志傳 實業之日本社 一 中 六三三三 實業之日本社 一、五〇

村井、高峯、服部、貝島、日高、小林、麻生、川崎、日比谷、岩崎、若尾、其他數十名の傳記。

明治功臣錄 朝比奈 知泉 一 中 一四四二 帝國圖書普及會 三、八〇

西郷南洲以下十八人の功臣傳なり、山縣公等現存せる人も數多あり。

名士の學生時代 讀賣新聞社編 一 中 二八二四 岩陽堂 〇、六五

現代名士の修學時代を記述す、所謂十人十種とどりどりに面白し。

大和民族の犠牲的人格 島内 柏堂 一 中 一〇四八 靖獻社 三、三〇

主として各府縣の神社等に材を取り犠牲的人格を備へたりし三百餘人を収録す。

琉球の五偉人 伊波普猷 眞境名安興 三二八 小澤書店(沖縄) 一、四〇
 政治家羽地朝秀、貝志頭温、宣海朝保、教育家名護順則、産業家儀間眞常五偉人の傳記。
 歴史と人物 (國民學叢書) 三浦周行 中 七二五 東亞堂 二、八〇
 平將門、野見宿禰等數十人の評傳なり、各其時代と社會との關係に論及せるを特色とす。

四各傳

安積良齋 詳傳 石井民司 中 一七四 東京堂 一、二〇
良齋の生ひ立ち、風采性行、儒學、外交意見、家庭等を述ぶ、多年苦心の著述なり。
 家康 康 公中谷徳太郎 中 二五四 増上寺 一、二〇
家康と主なる事跡を平易に述ぶ。
 偉人渡邊華山 伊奈林太郎 中 一五六 寶文館 〇、四五
青年子女に讀ましむる目的にて通俗的に記述す。
 伊東玄朴 傳 伊東榮 中 二六二 玄文社 二、〇〇
徳川將軍の侍醫たりし贈從四位玄朴翁の傳記なり賜天覽とあり。
 岩崎彌太郎 山路彌吉 中 二六二 東亞堂 〇、九〇
土佐の人の話を筆記したるものなりと。
 大石内藏助 福本誠 中 二五九 養賢堂 一、一〇
史實より觀たる大石内藏助傳、山鹿素行論を附す。
 傑大隈重信 後押藤川矢方峯存 中 三二四 中央書院 一、〇〇
評論を主とす。

番號

番號

大隈老伯 渡部外太郎編 中 二六二 衆星社 〇、六〇
簡なれども要を得たり。

伯大隈 横山達三 中 五一五 實業之日本社 一、一〇
大隈伯を中心として評論するも背景は一の明治史を成す。

大隈大谷幸藏 尾崎隈川 中 二六六 大日本實業會 一、〇〇
實界大隈大谷幸藏の傳記、日本實業輸出史とも見るを得べし。

大鳥圭介 傳 山崎有信 中 六二八 北文館 二、五〇
辭職に生れて志を立て獨立獨行幕府の雄將となり、後明治政府に仕へて晩節を完らしたる翁の波瀾ある一生を敘述す。

奥村五百子 渡邊勝 中 四四〇 霞享會(大阪) 一、八〇
小説體に面白く記述す。

貝原益軒言行錄 (修業史傳) 第七編 上田良一 中 一六〇 東亞堂 〇、三〇
貝原益軒の言と行とが一致せる點を特に力説せり。

家庭に於ける貝原益軒 伊東尾四郎 中 八〇三 丸善 〇、八〇
父母、兄に對する孝友、交際等を敘す。

閣老安藤對馬守 藤澤衛彦 中 六〇三 有隣洞書屋 二、〇〇
其功業を敘し冤罪を雪ぐ。

天龍金原明善 水野定治 中 三〇八 積文館 一、三〇
翁の傳記、事業の一斑、訓話、逸事等を記す。

熊澤蕃山 (偉人傳叢書) 第七冊 奥田義人 中 二九二 博文館 一、〇〇
斷簡零墨の類を可及的の多く蒐集して編纂せりと。

栗山大膳福本誠 一中 四〇七 實業之日本社 一、六〇

正史よりも講談等にも有名な栗山大膳の評傳。

黒田如水傳金子堅太郎 一中 七〇五 博文館 二、八〇

黒田如水を評傳し問々評論を加ふ。

自然小村壽太郎 柳本卯平 一中 七三九 洛陽堂 二、五〇

幼より故侯に近侍せし著者が明暗併せ述べたる同侯の公私一代記。

西郷南洲(偉人傳叢書 第三冊) 長谷場純孝 一中 三三〇 博文館 一、〇〇

著者の遺著となれり。

大西郷横山達三 一中 四八一 弘學館 一、五〇

隆盛の評傳なり、型に入りたる如き傳記書とは多少趣きを異にす。

大西郷言行録(修養史傳 第二編) 鈴木郁翁 一中 一六〇 東亞堂 〇、三〇

西郷隆盛の人格を窺ひ得べき事蹟を主として評傳す。

大西郷秘史武俠世界社 一中 三一四 武俠世界社 一、二〇

曾て報知新聞に掲載したる材料を根本とし更に訂正補修す。

巨人南洲山崎櫻岳 二中 二三五 靜思館 〇、七五

興味ある評傳

南洲全集山路彌吉編 一中 六五六 春陽堂 一、五〇

西郷隆盛の年譜、系圖、書翰、遺訓等を集めたるもの。

坂本龍馬(偉人傳叢書 第二冊) 千頭清臣 一中 二八九 博文館 一、〇〇

史實を考證し評論を避く。

佐久間象山象山遺跡表彰會編 一中 二二七 實業之日本社 一、〇〇

中學上級生を標準として通俗的に象山先生の一生を叙述したりと云ふ。

佐久間象山言行録(修養史傳 第八編) 征井花明 一中 一六〇 東亞堂 〇、三〇

簡潔に象山の傳記と其偉大なる功績とを叙す。

征西將軍宮藤田明 一中 七五二 寶文館 三、〇〇

征西將宮懷良親王の事蹟を熊本縣教育會の委囑に依り著者の編纂せしもの。

大將東郷横山達三 一中 六六六 春陽堂 二、三〇

「大將乃木」の姉妹篇にして、著者獨特の斷續的文章を以て世界の偉人東郷大將を眼前に彷彿たらしむ。

高杉晋作 村田峰次郎 一中 二五四 民友社 一、〇〇

高杉晋作の深遠なる才量と偉大なる勳業とを叙す。

高杉晋作 横山達三 一中 五七〇 武俠世界社 一、三〇

高杉晋作の傳記を主とし問々評論を加ふ。

頭山満と玄洋社物語平井駒次郎 一中 三二四 武俠世界社 〇、九〇

頭山満を中心とせる玄洋社物語。

頭山満と玄洋社物語續編 平井駒次郎 一中 三七二 武俠世界社 〇、九〇

徳川家康山路彌吉 一中 七二五 獨立評論社 二、三〇

徳川家の起りより武田氏の滅亡に至る、餘は續編として出さんと云ふ。

×徳川家康言行録(修養史傳 第四編) 百目木智穂 一中 一六四 東亞堂 〇、三〇

時代と生涯、逸話と遺訓の二章より成る。

東照宮御實紀附錄(日本偉人言) 堀田琮左右編 小中の 五四四 國史研究會 二、〇〇
 第一、第二(行資料の内) 三上璋多助編 小中の 五四五
 徳川家康の言行録にして徳川幕府の官撰たる御實紀の一部分とす。
 東 照 公 傳 中 村 孝 也 一中 三三四 鐘 美 堂 一、二〇
 特に少壯時代を詳述し行文趣味に富あり。
 狸 爺 家 康 長 田 權 次 郎 小中の 二一四 成 功 雜 誌 社 〇、七〇
 家康の才智を窺ふを得べし。
 乃 木 院 長 記 念 錄 學習院補仁會編 一中 一二三 三 光 堂 三、〇〇
 主として學習院就任以來の事蹟を編次し、將軍の知人、同院の職員生徒の記述に據りて記事の正確を期せり。
 傳 乃 木 大 將 兒 玉 傳 八 一小 五一九 文 淵 堂 〇、八〇
 大將の一生を叙す。
 通俗 乃 木 大 將 言 行 錄 山 根 正 治 一中 七四五 文 光 堂 〇、三〇
 講話 將軍の家庭、簡易生活、敬神等を述ぶ。
 縮 大 將 乃 木 橫 山 達 三 一小 六六〇 敬 文 館 一、三〇
 斷續的文章を以て乃木大將を評傳す。
 増 補 大 將 乃 木 橫 山 達 三 一小 七四二 東 亞 堂 一、二〇
 例の斷續的短文を以て評傳す。
 乃 木 夫 人 言 行 錄 平 田 勝 成 編 小中の 二五四 平 田 勝 成 一、三〇
 婦人の鑑たる乃木夫人の言行を編めるもの、諸名家の見たる乃木夫人を附録とす。
 伯 爵 後 藤 象 二 郎 大 町 芳 衛 一中 七九二 富 山 房 二、五〇
 詳傳と逸事。

半 生 の 懺 悔 茅 原 廉 太 郎 小 二一四 實 業 之 日 本 社 〇、七〇
 著者の自叙傳なり、幼時より洋行までにて筆を止む、其以後は更に他日書くべしと云ふ。
 平 野 國 臣 傳 及 遺 稿 平 野 國 臣 顯 彰 會 編 一中 五八四 博 文 社 二、五〇
 國臣の忠節を詳叙す、附録に其遺稿あり文章詩歌を多く蒐む。
 福 澤 諭 吉 田 中 喜 一 小中の 三一七 實 業 之 日 本 社 一、二〇
 福翁自傳、福澤全集等を引きて縦横に評論す。
 △ 豐 公 遺 文 日 下 寬 編 一中 六四〇 博 文 館 一、八〇
 豐臣秀吉の書翰を集む。
 豐 太 閎 (偉人傳叢書 第五册) 楠 瀬 幸 彦 一中 三四三 博 文 館 一、〇〇
 専ら青年子弟の爲めに豐臣秀吉の一生を叙したるものと云ふも、史家最近研究の結果を巧みに應用せる點に於て、從來世に出て
 たるものと多少其趣を異にせり、單に青年子弟のみに止まらず、秀吉の事蹟を知らんと欲するものにとりて好著なり。
 豐 太 閎 福 本 誠 小中の 二四五 植 竹 書 院 〇、八五
 評論を主とす。
 源 九 郎 義 經 (英後傳 第一卷) 中 村 孝 也 一中 四五九 大 日 本 雜 辯 會 一、五〇
 稍疑古體の文章。
 義 經 傳 (日本史談 第一編) 黒 板 勝 美 一中 四一三 文 合 堂 一、三〇
 評論通俗的。
 山 岡 鐵 舟 高 橋 立 吉 一中 二〇五 日 東 堂 〇、七〇
 鐵舟居士の經歷逸事等を面白く描きたり。
 山 鹿 素 行 言 行 錄 (修養史傳 第三編) 足 立 四 郎 吉 小中の 一六八 東 亞 堂 〇、三〇
 山鹿素行の正傳を始めとし、其逸話及警箴、士道及學說を掲ぐ。

番號

吉田松陰言行錄 <small>(修養史傳 第五編)</small>	武田櫻桃四郎	小中	一五二	東亞堂	〇、三〇
簡明に吉田松陰の性行、學問、感化等を叙す。					
吉田寅次郎 <small>(偉人傳叢書 第九編)</small>	杉浦重剛	一中	三三四	博文館	一、〇〇
吉田松陰の傳記中主要なる點のみを擧げ問々評論を加ふ。					
茂 睡 考 <small>(成箕堂叢書 第八編)</small>	民友社編	二中	五〇四	民友社	一、五〇
山東京山の茂睡考を再刻し佐々木信綱の解説を附す。					
若 尾 逸 平	内藤文治郎	一中	六一六	博文館	一、〇〇
行文通俗平易小説を讀むが如し。					
我 五 十 年 村 上 信	小中	四二〇	三	誠堂	一、五〇
著者の赤裸々なる自叙傳なり、本書は滿三十歳に至るまでのことを述べ、以下は他日後篇として出でんといふ。					

は外國人

肅 親 王	石川安次郎	一中	一八〇	警醒社	一、二〇
親日主義の人肅親王を評傳す。					
成 吉 思 汗 <small>(偉人傳叢書 第十冊)</small>	坂井重藏	一中	三〇四	傳文館	一、〇〇
成吉思汗の一生を叙述し問々評論を加ふ。					
ウ キ ル ソ ン 横 山 時 彦	小中	二二六	三	養賢堂	〇、七〇
出生より經歷、家庭、政策等を記せる詳傳。					

番號

英 國 の 二 英 雄	大原武夫	小中	二〇八	大日本雄辯會	〇、四五
クライブ及びヘスチングスの傳記、英雄と時勢なる一文を附す。					
エリザベスフライ	英、ルキス、森田松榮子譯	小中	一六九	警醒社	〇、三〇
家庭の人として社會の人として有名なるフライ夫人の傳記。					
生 ひ 立 ち の 記	獨、キニゲルケン、伊原元治等譯	一中	九五〇	興風書院	一、七〇
自叙傳。					
オルレヤンの乙女 <small>(西洋史新話 第七冊)</small>	箕作元八	一中	四四〇	博文館	一、〇〇
ジャンヌダルクの奇蹟的の一生を叙す趣味津津。					
經 世 の 偉 勳	尾崎行雄	小中	四五〇	富山房	一、二〇
三十年前一たび出版したるを改訂す、ヂスレーリの評傳なり。					
成功の大外交家 <small>カヴァール 全 傳</small>	羽田浪之紹	小中	三九〇	警醒社	一、〇〇
伊太利建國の英雄カヴァールを評傳す。					
△ゼエレン、キエルケゴオル	和辻哲郎	一中	六六一	老鶴園	二、五〇
キエルケゴオルの人格、生活、哲學等を紹介す。					
世界大戰の中心人物 <small>(時事叢書 第三編)</small>	田中萃一郎	小中	一三八	富山房	〇、二〇
アスキス、デルカソセ、サザノーフ、ヤーゴを評論す。					
ソ ク ラ テ ス	齋木延太郎	一中	二三四	敬文館	〇、七〇
著者はソクラテスの敬美者として其一生を評傳す。					
獨 逸 皇 帝 <small>(時事叢書 第九編)</small>	煙山專太郎	小中	一三〇	富山房	〇、二〇
簡易なる評傳。					

番 號

獨逸皇	佛、ジエールアレン	山口小太郎譯	中	一九六	情華書院	〇、八五
帝	山口小太郎譯		中	一九六		
獨逸皇帝大野心論	樋口麗陽		中	三三三	日本書院	〇、八五
無遠慮に獨逸皇帝を評論す。						
世界大怪傑カイゼル	北島英一		小中	三五三	春江堂	〇、五〇
戦争と						
大戦争の由来、各國の現状、獨逸の皇帝及國情を明にす。						
野心的カイゼルの裏面	宮家壽男譯		中	二七九	如山堂	〇、九〇
野心的カイゼルの誕生、親王時代、即位、内政外交其他を述ぶ。						
ク ロ ム エ ル 傳	英、カライル	上賢造譯	小中	九三八	警醒社	一、八〇
書翰及び演説を多く引きてクロムエルを評傳す。						
オ、ヘルン 小 泉 八 雲 田 邊 隆 次			中	四九一	早稻田大學	一、八〇
傳記と著書と學校に於ける講義の題目等を記述す。						
奈翁 全 傳	長瀬鳳輔等		中	八〇二	隆文館	三、〇〇
第六卷末路のナポレオン、第七卷ナポレオン史話。						
奈翁と其元帥	千頭清臣		中	三一四	博文館	一、〇〇
奈翁の末路と其部下十四元帥を評傳す。						
最後のナポレオン	山川直五郎		小中	三九一	國民書院	〇、七〇
評論的にナポレオンの末路を描く。						
大帝那翁 第一卷	五來欣造		中	三〇三	養賢堂	一、一〇
大體神史的形式を藉りて那翁を傳せしものにて、曾て讀賣新聞紙上に連載せられて好評ありき、著者は數年間佛國巴里に於て那翁を研究せし人なり。						

ナポレオン 物語	櫻井彦一郎		中	四五九	丁未出版社	一、七〇
英雄の如く又凡人の如き大矛盾の性格を有する那翁の眞面目を描出せるもの。						
ナポレオン 露國遠征論	相馬昌治重譯		小中	二四五	新潮社	〇、七〇
原書はナポレオンの露國遠征をトルストイの評論せるもの。						
ナポレオンの妻	永代靜雄		小中	二三四	實業之日本社	〇、六〇
苦しき鍛鍊を経て人格の光を發揮したる佛國皇后ジョゼフィーヌの一代を叙す。						
女皇クレオパトラ	永代靜雄		中	三六〇	隆文館	一、五〇
クレオパトラを詳傳し讚美す。						
ネ ル ソ ン	大原兼行		中	三一三	博文館	一、〇〇
簡潔にネルソンの一代を述ぶ、文章雄健偉人の面目躍如たり。						
鐵血宰相 ビスマルク 逸傳	西澤富則		小中	三七二	實業之日本社	〇、六〇
逸話の配列は年代順に依る。						
ビ ッ ト	島田元吉		中	三四〇	博文館	一、〇〇
少ビットの傳を主として老ビットに及ぶ。						
ベト オ フ ェ ン と ミ レ エ	加藤一夫譯		小中	三一六	洛陽堂	一、二〇
因襲に支配されず、世に阿ねるを知らざりし音楽家ベトオフエンと畫家ミレエを評傳す。						
ミケ ル ア ン ジ エ ロ	佛、ロラ重譯		小中	三九一	洛陽堂	一、八〇
詳細なる評傳。						
人道のリンコーン 傳	實業之日本社編		小中	三二四	實業之日本社	〇、五〇
文章平易。						

ロイド、ヂョー ルヂ 内ヶ崎作三郎 小の 五三八 文榮閣 一、三〇
 評傳。
 ×ワシントン 一代記 宮地 猛男 小の 二三四 内外出版協會 〇、七〇
 通俗、少年向。

に人物評

奇物 凡物 鶴崎 熊吉 小の 二八〇 隆文館 〇、八五
 三浦梧樓、ツエツベリン伯、張勳等十數名。
 現代の歴史を造る人々 鶴崎 熊吉 小の 二七〇 實業之日本社 〇、九〇
 獨逸の戴冠皇子、數寄なる白耳義國王、希臘のウエニゼロス氏其他の人物評論。
 人物公 開 狀 宿利 重一 小の 四〇五 大日本雄辯會 一、二〇
 山本權兵衛以下現代九名家に與ふる公開狀なり。
 山水と人物 横山 達三 小の 三〇四 以文館 〇、八五
 人物評を主とし隨筆を加ふ。
 時勢と人物 吉野 甫 小の 四九〇 大日本雄辯會 〇、七〇
 政黨地圖の三大色彩以下數篇の政論と矢野恒太以下數十人の人物評論を收む。
 大學と人物(各大學卒業生月旦) 錦谷 秋堂 小の 三九七 國光印刷社 一、〇〇
 初對 面 堀川 美治 小の 四二九 明文館 〇、九五
 井上角河元臣五郎、湯夏目漱石等百十名家への初對面録なり。

番號

番號

人物と事業(縮刷名著叢書) 横山 達三 小の 四二四 東亞堂 一、〇〇
 本書に現はるゝ人物は江川坦庵、家康、本間家、大錦、押川春浪等。
 黨人と官僚 吉野 甫 小の 六三六 大日本雄辯會 〇、九〇
 政界の人物評論を主として政論を交へたり。
 日本富豪の解剖 吉野 甫 小の 四四七 東華堂 一、一〇
 主なる實業家及其使用人等の人物評論。
 筆 彈 鶴崎 熊吉 小の 三三八 甲陽堂 〇、六〇
 井上俊外三十餘名士の人物評なり。
 野人の聲 鶴崎 熊吉 小の 三四六 興成館 一、〇〇
 大隈侯以下二十餘名士の人物評論を主とす。
 陸軍の五大閥 鶴崎 熊吉 中 五〇四 隆文館 一、五〇
 長岡、學閥、兵科閥、門閥、閥閥の陸軍々人二百數十人を評論す。

第九地誌

い總記

愛蔵 網目式地理概説 橋本 常造 小の 二三五 文盛堂 〇、五〇
 自然地理、人文地理を系統的に分類解説す、中等程度。
 受驗 最新地理學 解義 井原 儀一 中 五二七 誠堂 〇、七〇
 諸官立學校の入學受驗用及中等諸學校の參考用。

最新地理實習 西村萬壽 高野次郎 小中の 二五二 三育社 〇、八五
 中學程度諸學校の生徒及小學教師の參考として内外地理、人文、地文地理の實習法を説く。
 動的地理大地理 守屋荒美雄 一大 一〇〇三 六盟館 五、八〇
 政治經濟其他人文的方面の評論多きを特色とす。

○

最新世界地圖 小川琢治編 一大 二〇三 富山房 一、二〇
 世人一般の參考用として二十圖を掲げ裏面に其土地の産業の概要を記せり。

二世世界寫真帖 警眼社編 一大 一四九 警眼社 二、八〇
 今次の歐洲戰蹟及南洋、青島等最新の材料もあり。

續世界山水圖說 志賀重昂 一中 三六二 富山房 一、六〇
 東西兩洋に亘り見聞したるところを面白く描く。

南極 記 南極探検後援會編 一中 四六八 成功雜誌社 二、五〇
 大日本南極探検の經過記録。

○

締盟條約國最近國勢事情 甫守謹吾 一中 三八〇 六合館 一、五〇
 二十四ヶ國の國情一般。

ろ 日本地誌

一 總記

天然記念物三好學 一中 二二八 富山房 一、二〇
 天然記念物の保存は學術攻究上又國民性涵養上必要なりとし、其保存事業の現状并に保存策を概説す。

最大日本地理集成 角田政治 二中 一八二 五隆文館 六、八〇
 新占領地南洋諸島等を附したり。

新撰名勝地誌 卷十四海 田山花錄編 小中の 六二〇 博文館 〇、六〇
 西海道の山系、水系、産業、交通、沿革等。

△大日本地誌大系 御府内備考 日本歴史地理學會編 一中 五二九 大日本地誌大系刊行會 一、五〇
 御府内の大略を示せり、江戸幕府に於て蒐集したる資料を纂録せしもの。

大日本帝國地誌通論 小林房太郎 二中 一〇四 富山房 四、五〇
 地理學の發達進歩を記述し地文地理、人文地理を通論す、著者十數年來の研鑽を經たるもの。

帝國大地誌 野口保興 一中 八三二 成美堂 二、五〇
 帝國概説と本領土の部。

帝國大地誌 拓殖地 野口保興 一中再訂 增補六九八 目黒書店 二、三〇
 臺灣、樺太、南滿州、東蒙古、山東省の土地、政治、生業等を詳記す。

日本産業大地誌 武居賴芳 吉成 一中 八一六 尙文館 二、五〇
 日本各地産業の現状を明にし未來を推論す。

我が國土 小田内通敏 中の 二四二 長風社 一、〇〇

最新日本地圖 富山房編 一大 六四五 富山房 一、六〇
 日本全國を三十餘に區別す、最近の各種統計表を添ふ。
 考大正日本地圖 脇水鐵五郎 一 中 一四〇五 金港堂 一、五〇
 地圖四十四面、附録第一重要統計六一頁、第二地名索引九五頁。

皇陵 (歴史地理) 日本歴史地理學會編 一 中 五八八 地理學會史 一、〇〇
(秋季増刊)
 上古の陵墓(喜田貞吉)中古以降の陵墓(宮地直一)歴代御葬送の沿革(岡部精一)等。

改正市町村便覽 文明堂編 小中の 八九七 文明堂(大阪) 一、六〇
 諸官衙の所在地、郵便局管轄區域、行政警察管轄域も記入せり。
 最近郡區市町村假名引便覽索引 中外出版協會編 一 中 二二三 中外出版協會 〇、九〇
 郡區町村を五十音順に排列し所屬道府縣國郡名を索出するに便す。
 市町村名辭典 杉野耕三郎編 小中の 三二六 博文館 二、〇〇
 全國の郡市町區名をあいいうえお順にす。

帝國市町村便覽 大西林五郎編 小中の 五三一 尙榮堂 一、三〇
 大正三年四月現在の帝國版圖に於ける行政區畫を編したるもの、役場、郵便等の所在地等をも示せり。
 都市と村落 (地人叢書) 地人學社編 小中の 二二八 地人學社 〇、五〇
 石橋五郎、大類伸、小田内通敏、中島信虎、鳥居龍藏等の都市村落に關する論文を集む。
 郷市之紋章 一名自治體の徽章 近藤春夫編 小中の 一九〇 行水社 〇、五五
 日本全國の都市九十餘及外國の二十四都市の徽章を集め、一々これが制定の由來解説批評等を附したるもの、單に讀み物として興味あるのみならず未だ徽章の定めなき市町村等には好參考書ならん。

二 地方誌

江見附寫真帖 向陵社編 一 中 三六五 向陵社 三、〇〇
 明治初年頃の江戸見附三十六圖を收む。
 名勝郊外散步 旅行俱樂部編 一 小 二二八 星文館 〇、五五
 東京傍近の名勝古跡を紹介す。
 最近の東京市 (通俗大學文庫) 阪谷芳郎 一 小 二〇八 通俗大學會 〇、三〇
 平易簡明に東京最近の状況を述べ。
 帝都外の史蹟 安藤祐專編 一 中 二四五 仁友社 〇、五〇
 東京近郊の主なる史蹟の由來を説き解説を試みたり。
 東京寫真帖 附大正博覽會 博文館 一 中 九二三 博文館 〇、二〇
 東京史蹟寫真帖 戸川安宅 一 中 一五八 畫報社 一、五〇
 東京に在る史蹟名木等の寫真數百種。

東京大観 運探金太郎 中 二二四 有文堂 〇、八〇

東京の近郊 田山録彌 小 七〇一 實業之日本社 一、五〇

日和 下 歌 永井 莊吉 小 二〇〇 粗山書店 一、〇〇

伊豆の海 一名伊豆 萩原正夫編 中 四三四 誠之堂 二、二〇

伊豆國の名勝蹟に關する古來の短歌、長歌、文章を輯め郷村、山川、原野、林叢、名社、名刹等に分類す、六國史以下の圖書百數十種を考 引用せりと云ふ。

近海の伊豆七島 里見 謹吾 小 四一〇 放天義塾 一、六〇

伊豆七島の歴史、政治、風俗習慣、産業交通、學事、及著者の視察記等を收む。

南進策と小笠原群島 山田 毅 一 二五六 放天義塾 一、五〇

著者小笠原諸島を視察し其開發策を述ぶ。

信濃の山 津島 壹城 小 一八〇 松陽堂 〇、三五

一名を信州登山案内と云ふ、信濃著名の高山を紹介し登山者の道しるべたらんとす。

日光 史蹟名勝天然紀念物保存協會編 中 二二四 畫報社 一、八〇

本書は徳川賴倫侯、徳川達孝伯外伊東、辻博士等各専門家が各方面より眞面目に日光を研究紹介せるもの。挿畫頗る詳密なり。

東北及東北人 淺野 源吾 中 二六七 東北社 〇、九〇

東北六縣の産業、教育、思想を主題とし東北振興策の一助たらしめんと云ふ。

兵兒の國(薩摩氣質) 平野 秋來 小 二九二 日東堂 〇、九五

薩州の風土人物を紹介す。

大和志 奈良縣編 中 一五〇 奈良縣教育會 七、〇〇

奈良縣下の村里、山川、神社、佛寺、舊蹟、陵墓、城址等を詳説す。

臺灣植民發達史 東 佐藤 邦四郎 實 中 四八八 見文館(臺北) 一、八〇

臺灣の統治組織、過去二十年間の植民事業の發達等を述べたるもの。

天下の朝鮮金剛山寫真帖 徳田 寫真館編 大 五〇五 (朝) 徳田寫真館 三、〇〇

金剛山の絶勝眼前に展開す、印刷鮮明。

最近の支那と滿鮮 杉本 正幸 小 五〇八 如山居 一、二〇

政治上經濟上等より最近の支那と滿鮮を詳述し著者の紀行を附す。

最新支那大地理 西山 榮久 中 一二四 大會書店 三、三〇

著者永く彼地に在て諸般の事物を探究せりと。

消夏支那 中山 成太郎 譯 中 六一九 有斐閣 二、五〇

アンドレース氏の世界貿易地理其他數書を參考して支那、西藏、東蒙古の一般を紹介す。

は外國地誌

一支那

番 號

支那研究 教育學術研究會編 一中 四六四 同文館 一、〇〇

支那の軍事、法政經濟、哲學、教育、文學其他を各專門家が研究せるもの。

△支那政治地理誌 大村欣一 二中 一九九 丸善 六、三〇

東亞同文書院に於て教授したる稿本を基礎とす。

動的支那地理 守屋荒美雄 一大 一九六 六盟館 一、三〇

「動的世界大地理」中より支那の部を抜き、それを聊か修正増補したるもの。

○

最新支那分省圖 西山榮久 一大 五八三 大倉書店 一、五〇

最近の正確なる分省圖二十四。

支那全圖 東亞同文會訂改 一中 一 東亞同文會 二、〇〇

支那の現勢を知り得。

○

現代蒙古 露、ベンニンゲンセン 小中の 二一七 時事彙存社 〇、六五

著者は三ヶ年間蒙古にあつて國情を研究せりと。

東部蒙古(蒙古及蒙 露、ボンドネエフ 一四 七八六 東亞同文會 二、五〇

古人續編) 東亞同文會譯

東 蒙古 關東都督府陸軍部編 一中 四三八 武林堂 二、五〇

明治二十六年原著者の東部蒙古を旅行したる日記を譯出したるもの。

地文地理、人文地理、各部の狀況等に分ち詳説す、實地踏査を基礎とせるものにて信據すべき良著なり。

番 號

滿洲概要 滿洲會編 小中の 二四二 滿洲會 一、〇〇

主として滿洲の交通、殖産、商業に就て詳しく説明を加へたり。

蒙古及滿洲(時事叢書 鳥居龍藏 小中の 一五四 富山房 二、〇〇

主として人種學上より蒙古及滿洲を觀察せるもの。

○

現東部蒙古地圖 東亞同文會編 一中 一四 東亞同文會 〇、六〇

最新の調査に依れりと云ふ。

○

膠州灣 德増塘荷 小中の 一二三 詞林社 〇、三五

山東省及附近詳圖、膠州灣青島詳圖を附す。

膠州灣經營、貿易、産業、交通、防備、青島の市政等の諸章より成る。近時撰出する類書中の白眉。

膠州灣事情 工藤謙 一中 一二六 工藤謙 〇、六〇

最新青島市街附近詳圖等を附す。

膠州灣詳誌 上仲尙明 一中 三二六 博文館 一、〇〇

獨逸の膠州灣占領、土地、衛生、教育、行政、機關、司法等明治四十二年に脱稿せるもの。

山東及膠州灣 東亞同文會編 一中 五八六 博文館 二、〇〇

山東省一般事情、獨逸の經營、鐵道、都市、物産、工業等に涉り、詳細精密。

- 現代 獨逸 (現代歐洲叢書第四) 英、ダウソン 大日本文明協會譯 一 中 七八六 文明書院 二、六〇
- 原書は七年の歳月を費し完成したるものなりと言ふ。
- 獨逸及獨逸人 (時事叢書第六編) 片山正雄 一 小の 一〇八三 富山房 〇、二〇
- 獨逸の過去、現狀及び其國民性を述ぶ。
- 獨逸 研究 教育學術研究會編 一 中 四五八 同文館 一、〇〇
- 獨逸の軍事、經濟、教育、文學、實業、法律等を各專門家の研究せるもの。
- 獨逸の膨脹 佛、アンドリオン 海軍水交社譯 一 小の 四一三五 春陽堂 一、三〇
- 精神、物質兩方面の膨脹と其原因結果を觀察したるもの。
- 現代佛蘭西 (現代歐洲叢書第五) 英、バカ 大日本文明協會譯 一 中 五四〇 文明書院 一、七〇
- 佛國現代の長所短所強所弱所を指摘せり。
- 平和の巴里 島崎春樹 一 小の 二八九四 佐久良書房 〇、五五
- 開戦前巴里に於て著者の眼に見、耳に觸れたる所を趣味ある筆にて寫せり。
- 浦潮斯德事情 濟軒學人編 一 小の 四七〇 巖松堂 一、三〇
- 日露貿易の中心地たる浦潮斯德の梗概を叙す。
- 露國及露國人 昇直隆 一 小の 二八八四 銀座書房 〇、九〇
- 主として露西亞國民性を研究す著者は露西亞文學の專門家なり。

- 伊太利紀行 高木敏雄譯 一 小の 七二四 隆文館 一、八〇
- 伊太利紀行の趣味ある日記。
- 土耳其及土耳其人 (時事叢書第廿四編) 長瀨鳳輔 一 小の 一二六四 富山房 〇、二〇
- 土耳其の歴史的、地理的、民族的、政治的觀察記なり。日本と土耳其の關係を結論とす。
- 白耳義及白耳義人 (時事叢書第四編) 長岡春一 一 小の 一〇六三 富山房 〇、二〇
- 著者が白耳義在勤中の見聞を基として彼國に關する概念を興へんとす。

三 南洋附印度

- 邦人新發展 北ボルネオ 三 藤五郎 一 小の 三三五 東京堂 一、一一
- 地としての最近實地踏査の著者が日記を基礎として移民、産業狀態等を詳しく紹介したるもの。
- 爪哇とセレベス 八 木實通 一 中 三四八 進省堂 一、二五
- 爪哇とセレベスの民俗、生産物等を紹介す、著者は實地視察したる人なり。
- 新南島大觀 庵崎貞俊編 一 中 一四七 南洋研究會 一、〇〇
- 十二名の新聞記者が今春南洋新領島を視察したる記念として編述す。
- 圖南遊記 梶原保人 一 中 五五六 民友社 二、八〇
- 臺灣より香港、爪哇、新嘉坡、馬來半島、柴棍、海防、東京、比律賓等への廻遊記。
- 南海一見 (南洋紀行) 原勝郎 一 小の 二〇四 東亞堂 一、三〇
- 南國記 竹越與三郎 一 小の 四二五 西社 一、六〇
- 曾て好評噴々たりし南國記を縮刷補したるもの。

南洋 (時事叢書) 井上 雅二 <small>小中の</small>	一三四	富山房	〇、二〇
南洋 記 島津 久賢 <small>小中の</small>	二六四	春陽堂	〇、九〇
南洋群島寫真帖 附 南洋事情 伊藤友次郎編	一三三	石川貞次郎	四、〇〇
南洋 諸島 諸島 寺崎 留吉 <small>小の</small>	一六八	國民書院	〇、四〇
南洋諸島に關する一般を知るに便なり。			
南洋 諸島 巡行記 佐野 實 <small>一中</small>	五〇六	東京堂	二、〇〇
農商務省實業練習生としての巡行記なり、賜天覽とあり。			
南洋 談 中井喜太郎 <small>一中</small>	一五二	精業出版部	〇、五〇
新嘉坡及びバタビヤへの紀行談。			
南洋 渡航 案内 吉田 春吉 <small>小中の</small>	三〇四	北村書店	〇、七〇
馬來半島、スマトラ、爪哇、ボルネオ、セレベス、比律賓群島の現状、渡航手續を説き、巻尾に馬來語の簡單なる字書を附す。			
南洋 通覽 保坂彦太郎 <small>一中</small>	九二六	警醒社	四、五〇
關領東印度、セレベス、ボルネオ、ニューギニア、スマトラ等の一般情勢を紹介す。			
奇俗 南洋土人の話 横藤 筑林 <small>小中の</small>	二二四	實業之世界社	〇、五〇
著者南洋に往復すること數回悉く實地の見聞談なり。			
×南洋南米 最新海外渡航案内 的場 逸平 <small>小中の</small>	一九〇	活人社	〇、五五
其他各地 渡航の手續と南洋等の氣候風土等を述べ。			

踏査 南洋の寶庫 神保 文治 <small>小中の</small>	三二四	實業之日本社	〇、八五
特に農業に就ては詳細に説明せり。			
南洋 之 寶庫 南洋貿易調査會編 <small>小中の</small>	二六五	萬卷堂	〇、六〇
南洋諸島の富源を説明せるもの。			
椰子の葉 蔭川上 瀧彌 <small>一中</small>	六三六	六盟館	二、五〇
著者の南洋印度視察記なり、植物、産業に關し研究せるところ最も多し。			
南洋 蘭 領 東 印 度 中山 成太郎 <small>一中</small>	四六五	有斐閣	二、五〇
南洋研究 蘭領東印度の地誌、經濟、政治等を説くこと詳密なり。			
馬來群島の主要部を占むる蘭領東印度の地誌、經濟、政治等を説くこと詳密なり。			
蘭領東印度事情 外務省編 <small>一大</small>	三七七	啓成社	一、八〇
蘭領東印度の地理、氣候、住民、現況等を詳述す。			
我が 南洋 山崎 直方 <small>小中の</small>	二〇八	廣文堂	一、一〇
著者官命によりて南洋諸島を探り、地理學上より平易に説明す。			

今日の印度 山上 曹源 <small>小中の</small>	三三四	玄黃社	〇、八五
印度の教育、思想生活、言語、社會組織、政治、軍政、宗教、文學等を詳説せるもの。			

に 紀行及案内

一 日 本

お札博士の觀た東海道	米、ス、眞、タ	石井眞峯	譯	小中の	二〇二五	大日本圖書株式會社	一、〇〇
著者の東海道旅行日記を和譯したるもの、原文もあり。							
京都及附近	川島元次郎	編	小	三四三	東枝書店(京都)	〇、六五	
簡にして要を得たり。							
霧の王國へ	別所梅之助	小中の	一	三四七五	警醒社	一、〇〇	
一切經山、忘れずの山、出羽の旅、那須のけふり、鹽原の溪谷等。							
全名勝史蹟案内	第二編	石井波路	編	小	一九五五	栗原書店	〇、二五
本編は専ら鎌倉及其近傍に就て説明す。							
臺灣中央山脈横斷記	賀田直治	中	一	一四一三	拓殖新報社	〇、六〇	
太魯閣蕃及び南澳蕃視察概要を附す。							
旅から旅	(大正名著文庫)	加藤熊一郎	小中の	四七二四	至誠堂	一、二〇	
著者の旅より旅に於ける見學感想を主とし各地の風俗等を知らしむ。							
東京案内	實業之日本社	編	小	三一三	實業之日本社	〇、六〇	
遊覽者の便利なる案内者。							
新東京遊覽案内	片桐以直	小中の	一	二五二三	赤山堂	〇、四〇	
名勝舊跡の外人文發達の現状を記述す。							
旅行帝都案内	武藤忠義	小中の	一	三八六三	中興館	〇、九〇	
教育的着眼を以て編輯せり。							
東西南北	坪谷善四郎	小中の	一	四〇六四	博文館	〇、七〇	
著者最近の紀行文集、挿繪鮮明。							

鐵道旅行案内 鐵道院編 小 二八三 博文館 一、二〇

鐵道院所管各線沿道の遊覽案内。							
長崎より江戸まで	和、ケム、フ、エル	衛藤利夫	譯	小中の	五一九四	國氏書院	一、二〇
原著者の長崎より江戸に至る前後二回の旅行記なり、趣味深し。							
漫遊七日の旅	落合浪雄	小中の	一	二九八四	有文堂	〇、八五	
訂正増補して朝鮮滿洲等を加へ大正四年版を出せり。							
奈良と京都	黒田朋信	小	一	二〇四五	趣味之友社	〇、六〇	
奈良京都の美術、奈良の三日、京都より奈良へ、宮島より奈良へ等。							
日本アルプス(第四卷)	小島久太	中	一	三一七四	文榮閣	二、〇〇	
日本アルプス系に關する紀行、論文、隨筆などを集む。							
日本アルプス登山案内	河野三郎	小	一	二四二五	岩波書店	一、〇〇	
著者等長野縣の中等學校に職を奉じ、屢登山して此峻嶺を紹介す。							
日本アルプスへ	窪田通治	小中の	一	二三〇五	天鼓堂	〇、八五	
槍ヶ岳登山記、健岳登山記等を收め、高地にて詠める歌集を附す。							
日本一周	中、後編	田山録	小	一二五〇	博文館	二、四〇	
神戸より中國を経て九州全體を廻り更に四國に至るものを中編とし、關東、奥羽、中部、北陸、北海道を紹介するものを後編とす。							
日本名山敬文館編	敬文館	小中の	一	三六四四	敬文館	〇、七五	
廣く日本全國に亘り山水の名所を紹介す。							
日本名山敬文館編	敬文館	中	一	六七八四	紫鳳閣	二、七〇	
日本の名山數十を擧げ、實際の紀行文と説明とを掲ぐ。							

山境 避暑地案内 名知霞川編 一小 三〇九 三芳屋 〇、四〇
 水郭 避暑地案内 日本各地の名所舊蹟等を簡単に紹介し名家の紀行文を挿む。
 富士山 案内 山梨縣南都留郡 一小 二八〇 東京堂 〇、四〇
 富士山の概観、本體、登山の心得、噴火の歴史、富士文學等。
 僕の 旅 巖谷季雄 小の 三七四 抒情詩社 一、〇〇
 主として日本各地への舊紀行文を編めるもの。
 篠野 椋 十 日本見物 澁川柳次郎 一小 一〇六 誠文堂 一、五〇
 日本見物、世界見物を合本したるもの。
 紀行 山より水へ 佐藤北嶺 小の 三二〇 青年評論社 〇、九〇
 著者の紀行文集なり、東北地方より九州に及ぶ。

二 外 國

アルペン高原の踏破誌。
 海の ロマン ス [著者の世界一週記] 米 窟 満 亮 一中 五七三 中興館 二、〇〇
 刷海の ロマン ス 米 窟 満 亮 一小 六五四 中興館 一、二〇
 歐 米 我 觀 嶋 川 新 一中 三九八 清水書店 一、七〇
 各國の事象並に國民性を研究す。

歐米 とびく 遊記 田川大吉郎 小の 三一〇 二松堂 一、一〇
 歐米都市の見聞記。

我 觀 南 國 山本實彦 一中 四二〇 東京堂 一、五〇
 主として琉球、臺灣、爪哇等への紀行文を集む。

世界かばんの 塵田中一貞 小の 四〇〇 岸田書店 一、二〇
 慶應義塾圖書館長たる著者の歸朝土産なり、觀察奇警、文章流麗、和田英作氏等の挿畫と數十枚の寫眞版とを加ふ。

黒 雲 白 雨 勝田主計 一中 四〇一 興風書院 一、五〇
 本書は著者の支那歐米漫遊記にして、總に「遇戰閑話」と題し、非賣品として僅に知友の間に頒ちしものなるが、同好者の切なる求めにより補正改題公刊せしもの。

湖 畔 の 落 人 太田正孝 小の 二八六 啓成社 〇、六五
 主として著者が戦禍を曲湖に避けたる前後の感想を述ぶ。

三 千 里 續 共 河東乘五郎 一中 一二七 文淵堂 五、〇〇
 全國を遍歴し一日一信と題し日本新聞に掲載したるものを纏む。

祖 國 を 顧 み て 河上肇 小の 三一四 實業之日本社 一、〇〇
 著者大正二年より同四年までの西歐留學見聞感想を録せるもの即ち本書なり。

外 へ 外 へ 三田啓 小の 四七二 洛陽堂 〇、九〇
 主として英獨兩國に滞在中の隨筆。

大 英 遊 記 杉村廣太郎 小の 七五三 至誠堂 一、〇〇
 半球周遊を合本縮冊す。

戦 に 使 して 杉村廣太郎 小の 五三一 至誠堂 一、六〇
 昨半年ばより本年の始めにかけ、朝日新聞通信員として歐洲に派遣せられたる著者の記事なり。

獨逸落ち 小田部莊三郎 中の 三八〇 警醒社 〇、九五

今次の戦亂に際し著者の獨逸に於ける幽閉生活中の見聞談を興味深く記述す。

白中黄記 〔著者の歐米見聞記〕 内ヶ崎作三郎 中の 三五二 實業之日本社 〇、七〇

巴里よ 與謝野品子 中の 四六二 文淵堂 二、〇〇

巴里より日本の新聞雜誌に寄せたる通信を纏む。

半球遊 杉村廣太郎 小 七五三 至誠堂 一、〇〇

大英遊記と合本。

船と 人米窪滿亮 中の 四二五 中興館 一、三〇

海上生活の詩趣。

伯林脱出記 山田潤二 中の 三一八 千草館 一、三〇

伯林脱出を中心として、上は開戦當時に溯り下は英國滞在に及ぶ。

砲聲を聞きつゝ 石川三四郎 中の 二八一 東雲堂 一、〇〇

著者が歐洲にありて大戦勃發以來見聞せるところと感想とを集成す。

放浪漫記 大谷光瑞 中の 四四五 民友社 三、〇〇

印度方面の紀行記。

兩京去留誌 徳富猪一郎 中の 二七四 民友社 一、五〇

東京、京城兩京間を往復の際國民新聞、京城日報等に寄せたる文集。

露西亞紀行 西田博太郎 小 二二六 日本工業通信社 〇、五〇

主として露西亞風習の視察を述べ興味あり。

第十 政治

い 總記

國家及國民論 〔國民時務叢書第一卷〕 市村光惠 中の 四二一 隆文館 一、九〇

國家及國民に就て夫々法律的又は政治的に編述せり、附録として「我が國民性」を載す。

國家之研究 第一卷 寛克彦 中の 四九〇 清水書店 一、八〇

國家を吟味したる論文及び講演を集録す。

△國體憲法及憲政上 杉慎吉 中の 五五〇 有斐閣 二、三〇

國體、憲法、憲政に關する論文を集む。

×立憲國民訓 大隈重信 中の 七〇三 中興館 〇、二五

憲法の大意を通俗に話したるもの。

△政治心理學 〔政治學叢書ノ内〕 稻田周之助 中の 四四三 有斐閣 一、六〇

個人、團體に關する政治心理と變態政治心理を説く。

政治汎論 〔新早稲田叢書の内〕 米、ウイイルソン 中の 一四六 早稲田大學 四、六〇

政治學の全般に亘りて學理と實際を詳論す。

○
 國民政治讀本附英國の政黨政治 板倉卓造 一中 二六二 慶應義塾 〇、七〇
立憲國民の心得べき重要事項を通俗的に説明したるもの。
 △日本の政治哲學 茅原廉太郎 小中の 一五六 益進會 〇、五〇
日本政治史上に於ける思想乃至生活の方向を示したるのみなりと云ふ。

○
 △各國之政黨 外務省編 一中 一二一 清水書店 六、五〇
英國以下十九箇國の政黨の狀況を詳述す、外務省が各其國にある我が大公使館に命じて調査せしめたるもの。
 政争と政黨弊細井肇 一中 三八三 益進會 一、二〇
日本各地の政黨事情を記したるもの。
 政黨と政黨政治 西野雄治 一中 三二七 泰平館 〇、八五
政黨の改善及政黨政治促進の必要を唱導す。

ろ 論說 雜書

△歐洲政治及學說論集 小野塚喜平次 一中 四三六 博文館 一、八〇
英國の婦人參政權問題、獨逸社會黨の緩和的傾向、以國の普通選舉施行、佛國の比例選舉學說其他。
 歐洲政界奇談 英、プロ、キツチ 小中の 三四二 至誠堂 一、〇〇
倫敦タイムズの巴里通信員たる著者の回想記より政治外交に關係ある部分のみ翻譯す。

假名貞觀政要 菅原為長 譯 一中 三五四 民友社 一、〇〇
平政子の依頼に依りて爲長の和譯せるものなりと傳ふ、假名交り文として讀み易くせり。

軍國主義 堀川新 小中の 二九九 富山房 一、〇〇
日本固有の軍精神を説明し、軍國主義の必要を論ず。

現代の政治 吉野作造 一中 三五九 實業之日本社 一、三〇
「民衆的示威運動を論ず」以下十數篇最近政界の主なる出來事を論ず。

現代の青年 尾崎行雄 小中の 一五〇 廣文堂 一、二〇
著者の論文集にして、政治に關すること多し。

憲法及政治論集 齋藤隆夫 一中 二二四 溪南書院 〇、七五
憲法及政治問題に關する著者の論文三十二篇を集む。

權謀術數學(叢書叢書第七編) 伊、マキアヴェリ 小 一二六 植竹書院 〇、五〇
橋田東聲譯 原名を君主論と云ふ、原著者の主義政策を披瀝せる經世論なり。

權謀術數學論 伊、マキアヴェリ 小 二〇二 集團學會 〇、六〇
金生喜造譯 君主論の翻譯。

△膠州灣ノ占領ト樺太ノ占領 川新中 三〇八 清水書店 一、一五
主として膠州灣租借地の性質と之れに對する現在並に未來の處置を研究す。

國防及外交(公民叢書第二編) 犬養毅 一中 一三〇 大日本青年協會 〇、三〇
演說及新聞雜誌に發表したる所説を収録す。

産業帝國主義	榎本卯平	一	二五二	洛陽堂	一、〇〇
時務一家言	徳富猪一郎	一中	二〇五	民友社	一、〇〇
新愛國論	鈴木正吾	小中の	四四二	益進會	〇、八五
新自由主義	米、ウイ、ルン、關、和知譯	小中の	三三〇	勸學社	一、二〇
△人種問題	政治學叢書(第八編) 稻田周之助	一中	二四三	有斐閣	〇、八五
靜	各人種の本源を尋ね之に科學的の解釋を下したるもの。	小中の	三四四	清水書店	一、二〇
政治と民意	獨、デルブリック、後藤新平譯	一中	二五七	有斐閣	一、二〇
第三帝國の思想	益進會編	一小	二二五	益進會	〇、二五
起テ沖繩	男子高橋琢也	一中	二四九	芳流堂	一、〇〇

沖繩縣の社會現象を紹介しこれが改善策を講じたるもの、著者は前同縣知事なり。

皇朝中興鑑言	中島靖九郎編	二中	二一〇	啓成社	一、五〇
肇國の本義	大津淳一郎	一中	一九八	葎木書院	〇、八五
日本膨脹論	通俗大學文庫(第三編) 後藤新平	一小	二二二	通俗大學會	〇、三〇
民衆政治	室伏高信	小中の	二二七	世界雜誌社	〇、五五
政治野	聲 永井柳太郎	小中の	三〇五	莫哀社	〇、七五
輿論の聲	英、ブラ、イス、若林草堂譯	小中の	二九〇	文影堂	〇、九〇
列強の不安と野心	英、パーカー、岡成志等譯	小中の	二〇二	安田書店	〇、六〇

は史傳

歐洲現代政治史(現代歐洲叢書) 佛、セ、ニ、コ、ボ、ス、大日本文明協會譯 二 一四三七 文明書院 四、四〇
 各國政治史、國際政治史を叙述し、歐洲政治の進化を論ず。

十九世紀歐洲政治思想史(現代歐洲) 英、マッククフアソン等
 附 第二十世紀論(叢書第十) 大日本文明協會譯 二八二
 十九世紀の政治思想の大勢を概括し簡潔に評論す。 文明書院 一、六〇

大正政界之裏面 城北 隱士 一小 三八〇 大正書院 〇、六〇
 所謂大正の政變を裏面對比評論せり。

大正政局史論 徳富猪一郎 一中 四〇三 民友社 二、〇〇
 大正四年八月より同五年二月まで國民新聞に連載せられたるもの。

徳川縣治要略 安藤博編 一中 四九〇 赤城書店 一、六〇
 徳川幕府時代の地方吏務の實況より徴租、民簿、褒賞、扶助等縣治の一斑を記す。

民政史鑑 岩田衛 一中 三七八 富山房 一、五〇
 神代より徳川幕府時代に至る民政施設の發展を考究す。

明治憲政史上卷 工藤武重 一中 六三六 中央大學 二、五〇
 本邦憲政の由來と其推移の迹を闡にす。

鷺城式 鶴崎熊吉 一小 三五九 榮文館 一、〇〇
 九分通り人物評論なり。

に 選 舉

帝國議會、府縣 選舉法規 清水書店編 一小 二五四 清水書店 〇、三五
 郡市町村議員 選舉法規を纏めたるもの。

選舉法大意(社會文庫ノ内) 美濃部建吉 一小 二四一 三省堂 〇、五〇
 日本の選舉法理論と列國選舉法の一斑を述ぶ。

番 號

番 號

誰を選ぶべきか 安部磯雄 仲の 一五八 實業之世界社 〇、二五
 政治とは如何なるものかより政黨論に及ぶ、極めて平明に記述せるを以て一般國民の一讀すべき手ごろの書なり。

ほ 典 例

御即位 及 大嘗祭 赤堀又次郎 一中 三〇三 大八洲學會 二、〇〇
 御即位及大嘗祭の事を登極令並に附式に據りて説明す。

御即位勅語謹解 並壽詞解説 龜山興市 仲の 二〇六 育英書院 〇、五〇
 勅語、壽詞共に序説、本説、結説に別ちて謹解す。

御即位 語 釋 義 堀尾太郎 一中 三二四 明誠館 〇、六〇
 大正四年十一月十日御下賜の勅語を簡単に解釋す。

御即位禮と大嘗祭 清岡長言 一大 一九〇 金港堂 二、〇〇
 御即位禮と大嘗祭の由來、衣冠の制等を數多の圖を加へて解説す。

國民御大典早わかり 御大典奉祝會編 一小 一二四 誠之堂 〇、二〇
 平易、正確。

御大禮 記念寫真帖 日本電通通信社編 一大 三〇四 日本電報通信社 六、〇〇
 文部省編纂 御大禮講話 玉井廣平編 一中 五四四 有成館 〇、一三

大禮の要旨參照 御大禮講話 玉井廣平編 一中 五四四 有成館 〇、一三
 御大禮の意味と舉行の順序等を見事にわかり易く平易に説明す。

御大禮 御寫真帖	中村竹四郎編	一大	八〇四	新橋堂	一、二〇
御即位式當日、大嘗宮の儀、東西兩京雜觀等數面、卷尾に簡明なる記事あり。					
御大禮 圖譜	今池邊義象編	一中	一四四	博文館	二、五〇
上古より明治天皇の御即位に至る圖譜。					
大御即位記念録	石川松溪編	一中	八〇四	國民書房	二、五〇
御大禮、御盛徳、皇室に關する諸制度、各國の戴冠式等を記す。					
即位禮大典 講話	關根正直	一中	三二七	寶文館	一、二〇
御大禮の起原沿革を述べ、今回の御儀式の由來する所を知らしむ、繪入。					
御即位大典 通義	山田孝雄	一中	一八八	寶文館	〇、五〇
御即位大典の大體に通じ其本旨を知らしむるを目的とす。					
×大禮と國民芳賀	矢一	小中の	四三四	富山房	〇、一〇
簡單明瞭に御即位禮及大典を講じ國民の心がけを説く。					
大典 要義	牛塚虎太郎	一中	一三八	博文館	〇、五五
即位の禮及大典に關する平易の説明。					
即位大典 禮史 要義	櫻井秀	一中	三三七	博育堂	一、三〇
本邦儀禮史の部分的叙述とも見るべし云々。					
東宮冊立史	箕輪治三郎	一中	二八一	大日本帝國壯丁教育會	一、五〇
立太子に關する古今の沿革、典禮を叙す。					
立儲 要義	牛塚虎太郎	一中	一三二	博文館	〇、八〇
皇位繼承の大義を述べ、立太子式の儀禮に就き其綱要を示す。					

番號

行政

歐洲市政論	米、マンロー 村田岩次郎譯	一中	四三六	艮山書店	一、五〇
英、佛、獨三ヶ國の市政府の組織權限を概説し米國の都市と比較對照す。					
地方自治制釋義	島村他三郎	一中	六六〇	芳流堂	二、五〇
關係法規を解釋すると共に法理の綱領を研究す。					
倫敦地方行政	東京市役所編	一中	二九四	清水書店	一、〇〇
倫敦の沿革、地域、諸官衙の組織、財政等を明瞭に了得せしむ。					
郡に在りし頃	田子一民	小中の	一九八	田子一民	〇、七〇
著者が山口縣郡長たりし頃の官海及び家庭に關する追懷録。					
自治民育十二講	村田字一郎	一中	三六八	寶文館	一、三〇
二宮尊徳翁の農民道を小學教育に活用する實驗を講ず。					
×泰西に於ける自治民育美談	生江孝之	一中	三五二	洛陽堂	一、三〇
著者の視察せる泰西諸國の農村振興、田園都市、青年會、少年義勇團、富豪の地方開發等に關する美談を集め、間々我國との對照を試みたり。					
×地方改良の話	山崎延吉	小中の	三〇〇	裝華房	〇、五〇
某所に於ける講演を修正したるもの、卑近なる例を引きて地方改良の急務を説く。					

番號

地方改良本義	小橋 一太	中	三一三	中央報總會	一、〇〇
地方自治の本義、地方事務の要綱、地方財政の要綱。					
地方自治の改善	佐上 信一	中	二八〇	洛陽堂	一、二〇
地方改善、農村の振興策を論ず。					
都市より田園へ	天野 藤男	小中の	四三六	洛陽堂	一、〇〇
著者の都市觀察記なり、田園に對する感想を背景とす。					
模範的都市經營	米、ハ、牧野 實一	ウ、中	二五〇	博文館	一、〇〇
原書は歐洲の都市經營と題せるも内容は主として獨逸都市の紹介なり。					
自治話 優良村巡り	中 川 望	中	三六四	洛陽堂	一、五〇
實際の視察録を主とす。					

と 各國政治事情

最近の支那と滿鮮	杉本 正幸	小中の	五一八	如山居	一、二〇
政治上經濟上等より最近の支那と朝鮮とを詳述し著者の紀行を附す。					
支那帝政論	稻葉 岩吉	中	二四二	目黒書店	一、〇〇
支那帝政復舊の由來と袁世凱の登極問題等を論ず、卷首に内藤湖南氏の支那將來の統治と題する一文あり。					
支那論	内藤 虎次郎	中	三九七	文會堂	二、〇〇
君主制か共和制か、領土問題、内治問題に編を分ちて支那の政治を論述せり。					
支那論	山路 彌吉	小中の	三二七	民友社	〇、六〇
主として政治上より支那の近事を論じたるもの。					

支那論	集市村 廣次郎	中	三一七	富山房	一、二〇
支那の國民性、支那革命論、支那の分裂と統一、中華民國の前途等の論文を集む。					
支那革命迷宮	支、德、佐藤 知恭	小中の	二四四	日東堂	〇、八〇
西太后の侍續たりし德菱女史が清國宮中の内幕を記したるもの。					
滿蒙策論	小野 謙一	小中の	二〇四	小野謙一	一、〇〇
著者彼地を視察して將來の對支政策を論じたるもの。					
滿蒙と山東	小川 運平	中	三三九	泰東日報支社	一、二〇
滿蒙問題、山東問題を論じ外篇として對支政策の結論を添ふ。					
我が觀たる滿鮮	中野 正剛	中	三九四	政教社	一、二〇
著者の對滿鮮政策と稱するを得べし、著者彼地に滞在すること一年有半、其間の見知より得たる總督政治論、滿州遊歴雜錄等を收む。					
歐洲戰局の現在及將來	吉野 作造	中	三〇二	實業之日本社	一、三〇
歐洲戰亂の突發後大正四年の暮に至る間に雜誌等にて發表せる戰局關係の論文を集む。					
歐洲戰局の將來	田尻 稻次郎	中	三一五	同文館	一、五〇
開戦後の英、米、獨、佛諸國の經濟界を比較研究し、其現在及將來を評論す。					
歐洲文明の没落	遠藤 吉三郎	小中の	一二〇	富山房	〇、二〇
主として歐洲騷亂と戦争後の諸問題を論ず。					
世界一回轉	浮田 和民	小中の	一三八	富山房	〇、二〇
今回の大戦争は人類大聯合の動機なる所以を説く。					

戦争 是非 英、ドイツキンソン 小の 一三四 慶應義塾 〇、三五
原著者の「戦争と之より脱するの途」を譯出す。

英國の憲法政治 英、マリオット 中 四八四 慶應義塾 一、五〇
英國憲法史並に英國現在の政治組織を平明に述べたるものと各國政治事情、著者は英國牛津大學ワースター、カレッジの近世史及政治學の講師なり。

比較歐米及日本の政治 藤原喜代藏 中 五〇三 大日本圖書株式會社 一、三〇
英米獨佛の憲法、政治、内閣制度、選舉、政黨等に關し實際事情を闡明して相互に比較し批評を加へ傍ら日本に及べり。

國家の青年獨逸 獨、ゴルトツ等 小の 二四八 興國社 〇、八〇
國家の興亡はベルンハルディ將軍の著、青年獨逸はゴルトツ元帥の著、前者は軍國主義の獨逸を説き、後者は軍隊的獨逸青年教育論なり。

新獨逸 尾原亮太郎 中 五二八 同文館 二、〇〇
獨逸の國體及歴史的觀察、獨逸の統一勢力たる普魯西、内政及經濟政策、外交政略及軍制を述ぶ。

世界統一 獨、ホルウエツヒ 中 三七八 博盛堂 〇、九〇
カイゼルの世界統一計畫を説明したる秘書が佛人の手に入り更に日本語に重譯されたるものなり。

戰時の獨逸國民 湯原元一 小の 二五八 中央報德會 〇、八〇
主として獨逸の國民性、内政若しくは思想に關したる方面の事を述ぶ。

興國か滅亡か 獨、ベルンハルディ 小の 一七〇 同文館 〇、八〇
獨逸と次の戦争、我國の將來二書の世評に對する辯妄書とす。

獨逸國民の將來 獨、ベルンハルディ 中 二〇二 川流堂 〇、七〇
獨逸國民に軍國主義、侵略主義を鼓吹したるもの。

獨逸戰前の真相 白、ペーエンズ 小の 三六二 早稲田大學 〇、八五
開戦前の獨逸の皇室、陸海軍、議會等を説き、モロツコ問題、近東問題に及ぶ。

獨逸對列強の抗争(時事叢書) 阿部秀助 小の 一八三 富山房 〇、二〇
新獨逸の意義、外交、大戦役に對する態度等。

獨逸と歐羅巴附録 英、アレン 小の 三五六 二松堂 一、一〇
大英國と次の戦争、加藤元志譯、戦争後の歐羅巴を論ず、附録はコナンドイルが「獨逸と次の戦争」を駁したるもの。

獨逸の誇大妄想 洪、エミールライヒ 中 二九二 博文館 八五
内田貢譯、獨逸の民族的自負、政治的現勢、其他現時戦争の批評あり。

汎獨逸主義 佛、ナンドレル 小の 三二九 黒潮社 一、〇〇
大原里靖譯、汎獨逸主義と方法を論じたるもの、トライチケの獨逸の軍國主義を附録とす。

米國の朦朧主義 原田棟一郎 小の 三〇八 政教社 〇、九〇
墨西哥の騒亂、巴拿馬運河、南米諸國の發達、歐洲戰亂、支那革命等米國のモンロー主義と關係ある諸問題を論ず。

米國膨脹論 正岡猶一 中 六二二 隆文館 二、〇〇
米國の生長發達を論じ太平洋に於ける日米の利害關係に及ぶ。

ち 外 交

現各國條約全集	有斐閣編	一大	一九三	有斐閣	〇、八五
萬國聯合條約、各國條約及諸制及渡航、在留に關するもの。					
現代米國外交論	島谷亮輔	小中	三二一	公民同盟出版部	一、一〇
北米合衆國民主黨の政權を握りしより一九一五年末に至る國際事件及政策を論評す。					
國際關係地圖	第三、四	外交時報社編	二	中	三、四
主として最近の國際問題に關係ある地圖十八枚より成る。					
最近の歐洲外交	林毅陸	小中	二一八	慶應義塾	〇、七五
世界外交の大勢と最近の歐洲外交。					
戰後露國の外交及軍事	外交時報社編	一中	二七四	外交時報社	一、〇〇
露國の外交軍事及一般政治を詳叙解剖す。					
大戰外交史	長岡春一	一中	四〇〇	外交時報社	二、四〇
歐洲大戰前後に於ける列國折衝の梗概を叙す。					
獨逸外交政策	附ウイヘルヘルム第二、世治下の獨逸	間崎萬里	一七六	博文館	〇、六〇
獨逸の對外政策を詳論す。					
日支關係條約總覽	支那研究社編	小中	四六三	支那研究社	〇、四〇
兩國關係の條約及文書類を蒐集し、支那稅關手續及注意を附す。					
日支交涉論	吉野作造	一中	二八八	警福社	〇、八〇
今回の日支交渉の由來、經過、成果等を解説す。					
日支新交	帝國の利權	松本忠雄	一	中	二五八
山東省、滿蒙問題、漢冶萍公司問題及後日商議すべき各項を説明す。					

番號

日米問題	米、ギユリック	小中	三五二	警福社	〇、八五
米國に於ける東洋問題以下十九章より成る、所謂排日問題に關し彼我兩國の間に紛糾せる物議を具體的に解決せんとする著者の誠意は各章に之を見るを得べし。					
米國より日本へ	米、ラツセル	小中	五六一	警福社	一、〇〇
米國の諸名士が日米親交に關する意見を述べたるものを編めり。					
北米の日本人	末廣重雄	一中	二七六	二松堂	一、二六
著者が親しく視察したる、北米各地の排日問題に關する地方色を明らかにし、且將來に對する意見を述べたるもの。					
列強の外交政策	蜷川新	一中	三八八	實業之日本社	一、五〇
土耳其を中心として列強の外交策を評論す。					
露國の武斷外交	(原名、列強) 露、ツルベッコイ	小中	二四〇	民友社	〇、五〇
露國の露國(間の露國) 並木仙太郎	譯				
外交は武力を待たずして始めて有効に行はるゝを論ず。					

番號

第十一法律

い總記

法政經濟叢書	松堂編	小	巖松堂	〇、六〇	
第一編 商法總論	青山 衆司	第二編 相續法要論	柳川 勝二	第三編 保險法論	粟津 清亮
第四、五編 民事訴訟法論	板倉松太郎	第六編 物權法前編	横田 秀雄	第七編 社會保險論	堀川 美哉
第八編 海商法論	市村 富久	第十編 親族法要論	牧野菊之助	第十一編 簿記學原論	兒林百合松
第十二編 行政法總論	島村他三郎	第十四編 手形法論	須賀喜三郎	第十五、六編 民法總論	嘉山 幹一
第十七編 會計學綱要	太田 哲三	第六、七編 民法總論	鳩山 一郎		

△最獨和法法律經濟辭典 井上 忻治 一小 一一八三 東海堂 三、〇〇
 法律、經濟、商業用語六萬餘。

○
 小學材 料編入法 制經濟綱要 大元 茂一郎 一中 二一八四 實文館 〇、七五
 小學教員、師範學校生徒等の參考用。

法制經濟大資料 實文館編 一中 三八〇四 實文館 三、五〇
 國民教育の立脚地に基き、法制、經濟を平易に解説す、教育家の實地教授資料にして、又一般斯學研究者の入門書たり。
 考法 制 精 說 河副 重一等 一中 四六四三 敬文館 一、七〇
 國民教育上法制的知識に必要な事項を蒐む。

法 學 原 論 英、テ、リ、館、譯、一、中 七四四三 法文館 三、五〇
 法律の概念に就き解説せる英法の參考書、本文は謄寫版なり。

△法 律 原 論 英、テ、リ、館、譯、一、中 七一九三 清水書店 三、五〇
 法律の一般原理を詳論す。

△權 利 爭 鬭 論 獨、イ、エ、リ、ン、グ、三、村、立、人、譯、一、中 一八五四 清水書店 〇、六〇
 法治國民の權利觀念を普及せしめんとするが原著者の論旨なり。

人 權 伸 張 論 大 場 茂 馬 一中 二八二四 廣文堂 一、二〇
 人權擁護問題と其根本策以下政治刑法等に關する著者の論文約二十篇を集む。

△法 理 學 西 洋 哲 理 上 卷 寬 克 彦 一中 六七二二 有斐閣 三、〇〇
 第二卷 西洋の思潮及哲理を論ず。

△法 律 行 爲 論 (法律學經濟學研 究叢書第十四冊) 岡 松 參 太 郎 一中 二一〇三 京都法學會 〇、八〇
 法律行爲の性質種類及び意思表示を論ず。

○
 △私 法 論 文 集 第一、二卷 松 本 丞 治 二 中 一四一四 巖 松 堂 四、六〇
 明治四十三年以後の諸雜誌類に發表せる著者の法律論稿を輯集す、私法界に商法に關するもの最多數を占む。

△倍 湫 論 集 鶴 澤 總 明 一 中 九七七五 春 秋 社 二、八〇
 過去十餘年間著者の雜誌等に發表せる論文を集めたり、法律に關するもの最多し。

△宮 崎 教 授 記 念 論 文 集 中 田 薰 編 一 中 八四七三 有 斐 閣 二、〇〇
 在職二十五年 小野塚、石坂、立、松波、河津、牧野、高橋、上杉、中島、松本、神戸、野村、松岡諸博士等の論文集。

法 窓 夜 話 穂 積 陳 重 小 中 三七八五 有 斐 閣 一、八〇
 法律に關係ある雜談集なり、談は古今東西に亘り、法律家以外の人にも興味あるもの多し、

○
 高等文官列 檢事辯護士 試 驗 答 案 集 飯 倉 快 堂 編 一 中 三三六五 有 斐 閣 〇、九五
 最近合格者の答案を蒐む。

最新普通文官 受驗準備全書 列任文官養成學會編 小中の
 最近試驗概況、程度、受驗資格、手續、試験問題及解答等を收む。 三五二 三友堂 〇、六五

日本 辯護士 史 奥平昌洪 中 一四三九 有斐閣 五、〇〇
 代官人の制定より明治四十五年に至る辯護士の變遷發達を叙す。

△ウルピアース法範 並十二表 羅、ウルピアース 中 三四八 有斐閣 二、五〇
 法全文 末松謙澄譯

△ガリーウス羅馬法解説 羅、ガリーウス 中 四八二 有斐閣 三、〇〇
 末松謙澄譯

△ユスチニアース帝欽定法學提要 末松謙澄譯 一中 五〇一 帝國學士院 三、〇〇
 羅馬法學提要を註釋す。

ろ 雜 書

恩 給 大 鑑 伊藤正徳 小中の 一〇〇一 巖松堂 二、五〇
 現行恩給、退職料に關する一般法規、公文書、判例等を網羅す。

△公 證 人 法 論 綱 長谷川平次郎 一中 五七三 巖松堂 二、五〇
 公證人法及關係法令を詳解す。

△戰 争 と 契 約 穂積重遠 一中 五九〇 有斐閣 二、八〇
 民法及法理學上より戰爭を研究す。

通 無 盡 法 講 義 林 儀一郎 小中の 二八一 修學堂 一、五〇
 第三十六帝國議會を通過したる無盡法に通俗的の註解を施したるもの。

土 地 收 用 法 釋 義 樋口祐造 一中 三六五 清水書店 一、二〇
 主として土地收用法を解釋す、判決例と書式を附したり。

無 盡 と 貯 蓄 銀 行 法律新聞社 中 二八八 法律新聞社 一、〇〇
 無盡と貯蓄銀行の取締改正法律が實施せられんとするに際し立法の趣旨及其精神を明かにす。

日 本 著 作 權 法 要 論 荒木虎太郎 一中 一七六 至誠堂 一、二〇
 著作權法を略説す。

家 族 間 の 法 律 顧 問 佐々木修治編 小中の 三〇六 榮文館 〇、九〇
 主として親族、相續に關係ある法律の解釋。

金 錢 物 債 權 債 務 者 顧 問 武知彌三郎 小中の 二六一 日本書院 〇、五〇
 信用又は物件擔保を以て金錢貸借をなす人の參考となることを實例を引きて述べたり。

金 錢 物 買 買 貸 借 者 顧 問 龜谷正司 小中の 四四二 岡村書店 〇、六〇
 不動産物買買貸借に就て心得べき事項を説きたるもの、法律百事問答を附録とす。

債 權 者 の 活 顧 問 筒井格 堂 小中の 六四四 榮文館 一、五〇
 債權者を保護し債權の效力を充分ならしめんとす。

債権者の権利と損害豫防策 難波誠四郎 小中 六〇四 廣文堂 〇、九〇
 金銭、物件、土地、貸借、買買等に關する債権者の権利と損害豫防策を述べ、訴訟、仲裁手續、強制執行法を添ふ。
 諸貸金と貸倒れ復活策 武知彌三郎 小中 六九六 榮文館 一、三〇
 貸金取立法貸倒れ復活策を法律上、實際上より説明し、債権者の顧問たらしめんとするもの。
 諸債権取立及回收策 柳田國之助 小中 五一八 文正堂 一、五〇
 取立回收に關するもの、外廣く實務家に必要なる法律一般を通俗的に説明す。
 土地建物契約顧問 佐々木修治 小中 四五三 榮文館 一、〇〇
 實例及判決例を掲げて土地建物契約に關する心得を示したるもの。
 婦人の心得べき法律 鮎田董 小中 一九四 大日本雄辯會 〇、六〇
 婚姻、出産、相続等に關係ある法律の解釋。

は憲法

△憲法 篇(國法學) 清水澄 一中 二四九 清水書店 四、五〇
 憲法書中の精細なるものなり、近年憲法の解釋に關し疑義を生じたること内外共に少なからず、爲に改訂増補したる點多く、十年前の初版に比し面目を一新せり。
 △帝國憲法綱領 上杉愼吉 一中 一四三 有斐閣 〇、五〇
 著者の學說の要領を示せり。
 △帝國憲法述義 上杉廣吉 一中 增六〇六 有斐閣 二、八〇
 一般國民に憲法の知識を得しめん爲に言文一致にて述べたるもの。
 △帝國憲法の話 清水澄 一中 二六〇 實業之日本社 〇、六五
 國民の常識修養の一端とし憲法を講ず、叙述平明。

△帝國憲法論 市村光惠 一中 九九四 有斐閣 三、五〇
 外國の憲法學說も間々比較紹介せり。

に行政法

△行政法原理 市村光惠 一中 增一四九 寶文館 三、八〇
 法令の改正と研究の結果とに伴ひ改訂したるところ多し。
 △行政法大綱 野村信孝 一中 二九一 有斐閣 一、五〇
 初學者の爲に行政法理の一斑を講ず。
 △日本行政法 第三、四卷 美濃部達吉 二中 八八四 有斐閣 三、八〇
 警察法、公企業法、公物法及其各論。

ほ民法

△中島民法釋義 卷之二上下 中島玉吉 二中 一一九 芳流堂 五、三〇
 川名物權總則、占有權、所有權、地上權、永小作權、地役權、留置權等を解説す。
 △日本民法 第三編、債權 石坂音四郎 三中 一三三 有斐閣 五、〇〇
 債權の變更より契約の解除まで。
 △民法學通論 今井嘉幸 一中 六二八 有斐閣 二、八〇
 民法學理の根本的概念を明かにせんとすと云ふ。
 △民法原論 第二卷 富井政章 一中 七五三 有斐閣 三、二〇
 判決例瑞西新民法等を参照す。

番 號

△民法 研究 第三卷 石坂音四郎 一中 五二五 有斐閣 一、八〇

民法 講義 第一卷 日常的法律 國民大學會編 一中 四一四 國民大學會 一、五〇

民法 正義 總則及物權編を講ず。

民法 正解 法曹關編 三小 二一〇 竹内書店 二、五〇

民法 總論 後編 (法政經濟叢書) 鳩山一郎 一小 一九五 巖松堂 〇、六〇

民法 總論 前編 (法政經濟叢書) 鳩山一郎 一小 一九五 巖松堂 〇、六〇

民法 法論 文集 中島玉吉 一中 五五六 芳流堂 一、八〇

民法 代理に就て 以下二十一篇を諸雜誌に掲載せし年次に依りて排列す。

法律 質疑 應答 民法之部 平井彦三郎編 一中 二九〇 日本警察新聞社 〇、七五

日本警察新聞の質疑應答を纏めたるもの。

△擔保 物權 法 三 瀧信三 一中 五一六 有斐閣 二、五〇

主なる學說、判決例等を引用して擔保物權法の解釋論と立法論とを試む。

△物權 法 大意 横田秀雄 一中 四七七 清水書店 二、一〇

物權法の大意を知らんとするものゝ爲に、其原則及應用の概略を説明す。

△物權 法 提要 第一册 三 瀧保三 一中 一六三 有斐閣 〇、七〇

著者が東京帝國大學等に於て爲したる講義より要項を採録す。

△物權 法 要論 川名兼四郎 一中 三一〇 芳流堂 二、〇〇

著者の遺稿中の一部分なり。

△債權 各論 村上恭一 一中 一〇〇六 巖松堂 三、〇〇

民法々典の債權編契約以下に解説を施せるもの。

△債權 法 要論 川名兼四郎 一中 七五〇 芳流堂 三、〇〇

故著者の東京法科大學に於ける講義を整理せるもの。

△日本民法 瑞西債務法 水口吉藏 一中 二五八 清水書店 〇、八〇

△日本民法 瑞西債務法 水口吉藏 一中 二五八 清水書店 〇、八〇

△日本民法 瑞西債務法 水口吉藏 一中 二五八 清水書店 〇、八〇

△日本民法 瑞西債務法 水口吉藏 一中 二五八 清水書店 〇、八〇

△日本民法 瑞西債務法 水口吉藏 一中 二五八 清水書店 〇、八〇

△日本民法 瑞西債務法 水口吉藏 一中 二五八 清水書店 〇、八〇

△日本民法 瑞西債務法 水口吉藏 一中 二五八 清水書店 〇、八〇

△親族法 相續法論 仁井田益太郎 一中 七二五 有斐閣 三、〇〇

親族法相續法の規定、理論を説明し民事訴訟等との關係を明にす。

△契約 總則 (註釋民法全書) 第八卷 神戸寅次郎 一中 四一七 巖松堂 一、七〇

外國法を對照して契約總則を論ず。

番 號

◎無過失損害賠償責任論 岡松參太郎 一中 八六〇五 京都法學會(京都) 三、八〇
法律學經濟學研究叢書の第十八冊なり。

△改戸籍法解説 繁田保吉 一中 一三六五 巖松堂 三、八〇
戸籍に關係ある一切の法令を解説したるもの、著者は判事なり。

改戸籍法詳説及書式 安部安道 小中 二五二三 榮文館 〇、七〇
附施行細則、寄留法、手数料。

改戸籍法註解 澤野民治 一中 三九七三 有斐閣 一、二〇
改正戸籍法の逐條解釋。

改戸籍法註釋 戸籍法學會編 小中 三一三三 盛文館 〇、四五
實用的に平易に解釋す。

改戸籍法要義附改正届出書式例 鈴木好清 小中 三〇七四 岡村書店 〇、五〇
新戸籍法に就て一々書式を示して説明せるが故に實際應用に便なり。

戸籍法正義 山内確三郎 一中 三六五三 帝國地方行政學會 二、〇〇
改正戸籍法は著者の起案を基として成れるものなり。

新舊戸籍法通解 荒川五郎 一中 三六六四 清水書店 〇、八〇
新戸籍法を條を追ひて簡単に解説し舊戸籍法を對照す。

へ商法

△商行爲法 松本杰沼 一中 三〇八三 巖松堂 一、七〇
條文に從て次を逐ふて解説す、大審院判例を多く引用せり。

商法講義 第一卷商人及商業 國民大學會編 一中 三九四三 國民大學會 一、五〇
商人及び商業の法律的解釋。

△商法總則論 片山義勝 一中 四二四三 有斐閣 一、五〇
著者の研究したる學說を發表す。

商法總論 西本辰之助 一中 三二四三 綴山書店 一、三〇
商法の總則を簡単に説述せり。

新商法釋義 青木徹二 一中 增七四〇 同文館 二、八〇
實際の運用に便ならしむるやう解釋したるものなれば實業家等の好參考書なり。

株式會社法實務篇(法律實務叢書第一編) 宮田暢 小 五八二四 實業之世界社 一、五〇
成るべく學理を避け實務家の同伴たるべき目的に會社法を解説す。

保險法 松本燕治 小中 三二八四 中央大學 一、七〇
商法中保險の章及之と關係ある保險法等を論ず。

△保 險 法 論 上卷 村上 隆吉 中 五三〇 法政大學 二、七〇
本卷の取扱ふところは法險法の概念と保險契法論の前半なり。
 △保 險 法 論 水口 吉藏 中 八七五 清水書店 三、五〇
明治大學に於ける講義を骨子としたれど法典の註釋のみならず問々評論を加へたり。

△松波 改正日本手形法 松波 仁一郎 中 一四六九 有斐閣 四、三〇
最近の學說判決例等を掲げ改正手形法を解釋す。

△手 形 法 論 水口 吉藏 中 七八七 清水書店 三、二〇
立法例を参照し判例學說を引照す。

△統 一 手 形 法 論 毛戸 勝元 中 三七八 有斐閣 一、八〇
統一手形法成立の由來と其爲替手形、約束手形を研究す。

△海 商 法 松本 蒸治 中 二五二 中央大學 一、五〇
海商法に對する論評と解釋と。

△破 産 法 講 義 加藤 正治 中 六一三 巖松堂 二、八〇
破産法草案を基礎とし現行法を比較して講述す。

と 刑 法

刑法學說 實例 警 眼 社 編 中 七四四 警 眼 社 二、〇〇
明治廿五年一月より大正四年六月に至る刑法の學說、判例等を輯めたり。

△刑 法 原 理 山岡 萬之助 中 七七四 日本大學 三、二〇
犯罪要素論等に増補を試みたりと云ふ。

△刑 法 原 論 岡田 庄作 中 六一三 明治大學 二、五〇
逐條講義。

刑 法 實 論 各論 櫻田 忠美 中 三一五 法制時報社 一、一〇
特色は學術的に法理を研究せんとするに非ずして、其名の如く司法警察官等實際家の同伴たらしめんとするにあり、

△刑 法 叢 書 恐喝の罪 大澤 唯治郎 中 一四三 清水書店 〇、五〇
分り易く一通りの法理と實際問題を説く。

刑 法 總 論 大場 茂馬 中 一〇九三 中央大學 四、二〇
概論より犯罪態樣論まで。

△刑 法 大 要 泉 二 新 熊 中 四七五 有斐閣 二、五〇
刑法の意義、沿革等を述べ、總論と各論の大意を講ず。

△日 本 刑 法 分册第一 牧 野 英一 中 二〇八 有斐閣 一、〇〇
現行刑法を序列す、大正五年度東京帝國大學法科大学の講義なり。

△日 本 刑 法 泉 二 新 熊 中 一四七〇 有斐閣 五、三〇
本版に於ては刑法學說の沿革、錯誤、刑の執行、賭博罪、加重強盜等に關する説明を補正す。

△理論 日本刑法通義 日本法學會編 中 六二七 日本法學會 二、五〇
學理と應用との調和を全からしめんことを期したりと云ふ。

△刑事政策策學 山岡萬之助 一中 六〇七 巖松堂 三、〇〇
 犯罪と刑罰を研究す。

△刑事政策策論網 菊池軍平 一中 一八二 巖松堂 一、〇〇
 所謂社會刑法學派の保護刑主義を駁したるもの。

刑政に關する緊急問題 江木 衷等 一中 二八〇 中央書院 一、四〇
 江木、鶴澤、大場、原諸博士の論文を集む。

△刑法と社會思潮 (刑事學叢書) 牧野英一 一中 二九四 有斐閣 一、〇〇
 著者が歐洲留學中日本に寄せたる刑法と社會思潮に關する通信文を集む。

人生と犯罪 花井卓藏 一中 二九五 廣文堂 一、二〇
 犯罪、刑罰等に關する著者の談片、論說等を蒐めたるもの。

犯罪科學の研究 山田一隆 小中 四五九 清水書店 二、〇〇
 犯罪を檢舉するに必用なる科學の研究。

ち訴訟法

△強制執行法義海 板倉松太郎 一中 一二七 巖松堂 四、七〇
 動産、財産權不動産及船舶に對する強制執行等を説明すること詳密を極む。

△刑事訴訟法 牧野英一 一中 三二四 有斐閣 一、五〇
 東京帝國大學に於ける大正四年度の講義を筆記せるもの。

不動産競賣手續便覽 關谷善一 一中 二二一 巖松堂 一、〇〇
 實際家の便宜を主とす、裁判例を添ふ。

△民事訴訟法原論 岩田一郎 一中 一三六 明治大學 四、五〇
 現行民事訴訟法の原理と解釋の一斑を論じたるもの。

り判決例

△刑法判決實例 巖松堂編 小中 七四五 巖松堂 一、八〇
 明治四十一年十月より大正四年末に至る判決例を採集す。

△商法判決實例 巖松堂編 小中 九一四 巖松堂 一、八〇
 法規實施の當時より大正三年上半期に至る。

△大審院刑事判例要旨類集 大審院編 小中 一五三八 中央大學 三、〇〇
 明治二十四年より大正二年十二月に至る。

△判決要錄 第五、六卷 法律新聞社編 小中 一八九 法律新聞社 五、〇〇
 大正三、四年中の大審院、各裁判所、行政裁判所の判決々定の要旨等を輯録す。

△法律學說判例要旨集 第一卷 法律評論社編 小中 二〇六 法律評論社 四、二〇
 最近四ヶ年間の判例と學說の要旨を網羅せり。

△法律學說評論全集 第二、三卷 高窪喜八郎 二中 五三〇 法律評論社 九、八〇
 大正二年三月より四年三月に至る二年間學者の發表せる法律論說及大審院、裁判所の判例を論評解説す。

民法判決實例 巖松堂編 一六八〇 巖松堂 二、八〇 番號

△陪審制度論 大場茂馬 一中 二五八 中央大學 一、五〇
陪審制度の概念、沿革、趨勢及び之が利弊を比較研究す。

ぬ 國際法

△國際公法論 中村進午 一中 一〇〇八 清水書店 四、〇〇
平時及戰時の國際公法を詳述せり、附録として數十種の條約等を添ふ。

△國際法原論 英、ローレンス 二中 一三〇〇 清水書店 四、七〇
小山精一郎譯
系統的に國際法學の綱領を述ぶ。

△國際法提要 遠藤源六 一中 四八八 清水書店 二、一〇
一般國民として知らざるべからざる國際法の規則慣例を概説す。

△支那國際法論 第一卷 今井嘉幸 一中 四八四 丸善 一、二、五〇
本卷には外國裁判權と外國行政地域を論ず、著者は支那政府に聘せられ彼地にありて久しく本問題を研究せる人なり。

△戰時國際法 立 作太郎 一中 七六六 中央大學 二、八〇
大學に於ける講義を基とす。

軍國戰爭と國際法 遠藤源六 一中 二〇〇三 讀書會 〇、六〇
一般人に戰爭と國際法に關する概念を會得せしむるを目的とす。

△戰爭と國際法 立 作太郎 一中 六二〇 外交時報社 三、五〇
今回の戰爭より生じたる國際法上の新現象を研究す、自耳義の中立、獨逸參謀本部の見たる陸戰法規等の附録あり。

△日本國際私法論 分冊第一 山口弘一 一中 二五一 巖松堂 一、二〇
國際私法の定義、沿革及國際民法等を述ぶ。

△平時國際法 第一論 國際法ノ基本觀念 立 作太郎 一中 一二〇 中央大學 〇、五〇
法理の綱要。

△倫敦海戰法規 長岡春一 一中 二二三 清水書店 一、五〇
明治四十二年倫敦に於て開催の海戰法規會議にて制定したる法規を註解す。

ろ 法令附書式

現法令輯覽追録 大正四年 内閣記録課編 一大 四四〇 有斐閣 二、〇〇
大正三年五月より大正四年四月に至る間に公布されたる法令を輯録す。

現行時効便覽 農美重由編 一小 一〇〇 東京堂 〇、三〇
現行法中時効に關係ある部分を抄録し之に解釋を加へたるもの。

支那重要法令集 東亞同文會編 一中 三七九 東亞同文會 一、五〇
支那現行法令中重要なものを日本文に譯したるもの。

朝鮮法令輯覽 朝鮮總督府編 一大 二〇〇 巖松堂 一、二、〇〇
大正四年五月一日現行の法令、例規を蒐集す。

日制裁法規 清水書店編 一小 一〇九 清水書店 二、五〇
制裁に關する法律、勅令、省令等を採集す、明治元年より大正四年に至る。

判例 日本六法註釋 波邊萬藏 一中 二三〇三 求光閣 六、五〇
 書式 逐條平易簡明なる註釋を加ふ。
 模範書式 六法全書 林増之丞 一中 九五〇四 天地堂 一、四〇
 卑近實用の説明を加ふ。

現契約書式大全 龜谷正司 小中 四三二 東亞堂 〇、九〇
 物權上、債權上の契約を説明し其書式を掲ぐ。

法令 現行願届文例 井上爾樓 一中 一四六 東京法政會 〇、二五
 参照 飲食店、古物商、醫師、代書、理髮、宿屋、戸籍等に關する願届文例。
 註釋書 式大成 石川勝彌 小中 五七六 榮文館 一、二〇
 實例 契約、登記、訴訟、催告、諸願、諸届、申請の書式を網羅す。

第十二 經濟 財政

い 經濟 濟

一 總記

通俗經濟文庫 自第一卷 日本經濟叢書 小中 三二〇 刊 日本經濟叢書 一、二〇
 至第五卷 刊 行會編 三二〇 刊 行會
 一、金持重實記、商人黃金袋、町人常の道、新撰養蠶秘書、商賈教訓鑑、米穀賣買出世車、町人身體はしら立。立身始末鑑。
 二、諸人儉約重實記、生財辨、教の小櫃、胡布重實記、百姓話訓、現銀大安賣、財寶速著傳、渡世傳授車積德叢談。

三、商家見聞集、田畑重實記、渡世肝要記、家業相續力草、貧福辨。
 四、かねもうかる傳授、商人家職訓、肝要工夫錄、農術鑑正記、世話多理草、養生女之子算。
 五、渡世商軍談、農業要集、富貴自在集、出世醜千代家土産、雨のはれ間、珍寶山金のなる木。

△經濟大辭書 第七、八册 同 文館編 二大 一〇〇四 同 文館 一、二、〇〇
 收むるところトチよりニ至る、各題目の末に執筆者を記入す。

△經濟學研究 福田徳三 二中 一八二 同 文館 五、
 改定版に於ては内容の性質に従て類を分ち順を立て、多少系統ある一卷となしたり。

△經濟學原論 河上肇 一中 一三〇 有斐閣 一、一〇
 京都帝國大學に於ける學術講演會の講演筆記。
 經濟學の本體、結構、科學としての經濟學等を詳説す。

△國民經濟學原論 山田伊三郎 九中 四一六 富山房 一四、七〇
 經濟學の概論要素、組織、運営及び總覽。
 △國民經濟學原論 津村秀松 二中 一四三 寶文館 五、七〇
 國民經濟發達の要件、生産、交易、分配、價值を論ず、極めて系統的なり。
 シーガー氏經濟原論 米澤久五郎 一中 六一〇 敬文堂 二、五〇
 原著者が大學々生の爲に講じたもの。

普通經濟學原論 米、イ、李、太郎 譯 一、一〇
通俗的に經濟學の一般を設けるもの、譯者の記述せるところもあり。

經濟及金融 井上辰九郎 一、三〇
信託要義を附す。

國際經濟論 服部文四郎 一、六六
主として國際放資の方法、其國民經濟に及ぼす影響を研究せるもの。

日本經濟論 神戶正雄 一、四五
京都帝國大學金曜特別講演に於てなせる著者の講演を筆記す

最近支那經濟地圖 外交時報社編 一、三三
支那本部交通圖以下三十三圖より成る、支那現今の物産、貿易の狀況、生産力等瞭然たり。

世界物産誌 野口保典 一、五〇
世界各地の物産に就き著しきものを擧げ、其要領を系統的に記述す。

二 論說 雜書

戰時經濟財政 堀江歸一 一、七八
歐戰時と經濟財政の關係を論ず。

△歐洲戰爭と獨逸の食料政策 渡邊鐵藏 一、二〇
戰時に於ける獨逸の食料問題に關する施設政策を述ぶ。

財政經濟と生活問題 實業之世界社編 一、四九
福田、關、堀江、氣賀、津河、津村、神戶、戸田、河上、田中、阪谷、小村諸博士等の論文を集む。

時事連想 田尻稻次郎 一、八八
組合、工業、金融、收入、公債、歲計、食料、水理に關する最近の研究。

世道と經濟 松崎藏之助 一、三五
經濟、財政に關する著者の論文十數種を收む。

戰時經濟講話 上田貞次郎 一、二二
戰時の英獨兩國經濟事情を紹介し、日本に於ける反響を添ふ。

戰後の經濟政策 服部文四郎編 一、四一
救はれたる日本(天野爲之)戰後の生活問題(阿部磯雄)戰時戰後の外國貿易(淺川榮次郎)其他。

地下水利用論 田尻稻次郎 一、三三
世人の未だ注目せざる地下水利用に就き、著者の熱心なる研究を發表せるもの、近來の好著なり。

獨逸の經濟的勢力 伊藤文吉 一、三〇
主として獨逸産業發達の原因、沿革、現況等を述べ、多くの統計圖表を附す。

國家富強策 添田壽一 一、二六
主として經濟上より内外の形勢を觀察す。

本邦經濟社會の重要(教育新潮叢書) 堀江歸一 一、二八
我國經濟社會の現狀に於て國民の注意を要する問題即ち輸出入貿易と國際、貸借、國產獎勵説、歐洲戰爭と世界經濟の變局等を説明せり。

△和田垣教授在職 經濟論叢 矢作榮藏編 中 一〇五五 有斐閣 二、七五
 二十五周年纪念 桑田、神戸、高岡、河上、戸田、氣賀、田中、井上、小川、山崎、河津、松岡、内田諸博士等の論文集。

三史傳

日本經濟年鑑 大正三年 帝國通信社編 一大 三 帝國通信社 一〇、〇〇
 統計を主として我國の財政經濟に關する事項を輯録す。
 米價變動史 石原保秀 一中 一四四三 矢來堂 〇、七〇
 上古より大正三年に至る米價の變動を表示す。
 マルサスとリカルド 米、バ、ツ、テン 小中 六八五 上部書店 〇、三〇
 マルサスとリカルドに就て評論せるもの。

四土地人口労働分業

△支那古田制の研究 (法律學經濟學研 加藤 繁 一中 二五七五 京都法學會(京) 一、〇〇
 完叢書第十七册) 周及其以前の土地制度を研究す。
 本邦人口の現在及將來 (通俗大學文) 高野岩三郎 一小 一八八五 通俗大學會 〇、三〇
 庫第八編) 我國人口の現状を述べ將來の改良方針に及ぶ。
 △分業論 (法律學經濟學研 高田保馬 一中 一九七二 京都法學會(京) 〇、八〇
 完叢書第十三册) 分業の意義、統合、成立の過程、原因、結果を論ず。
 ベルンハルツ氏 労働功程論 矢島家幸 譯 一中 一七四三 實文館 〇、六〇
 主として労働時間の短縮を論ず。

五銀行金融

△銀行及外國爲替 水島鐵也 一中 四〇八 同文館 一、五〇
 主として本邦に於ける商業銀行及外國爲替銀行の實務を簡明に記述す。
 △銀行原論 服部文四郎 一中 一〇四二 同文館 三、四〇
 本版に於ては本書全部に亘りて誤植脱漏を改正し又訂正したる所も多し。
 △銀行論 堀江 歸一 一中 六二九 同文館 二、二〇
 米國聯邦準備金法の制定、歐洲交戰國中央銀行に關する立法の改正等を改訂す。
 △銀行論 佐野善作 一中 二九九 同文館 一、八〇
 著者の東京高商學生に講述せる稿本を基礎とす。
 コナント氏銀行論 米、チャールズ 高島誠一 譯 一中 五四〇 隆文館 二、五〇
 銀行の本質及運用の真相を力説す。
 △獨逸の大銀行及金融 富岡久次郎 一中 六五一 有斐閣 二、八〇
 獨逸大銀行の發達、業務を説く。
 佛蘭西の銀行及金融 豐崎善之介 一中 六〇四 大倉書店 二、〇〇
 佛國に於ける各種銀行の特性、營業の狀況及金融市場の有様等を敘す。

銀行法規提要

帝國地方行政學會編 小 一六〇五 帝國地方行政學會 三、〇〇
 大正五年六月現行の法令中より關係あるものを彙集分類す。

歐洲戰後の財政及金融 田尻 稻次郎 一八七 誠文堂 一、二〇

日本財政經濟の現在及傳來を説き歐洲大亂の財政金融界に及ぼすべき影響を説く。

金融の原理 附歐洲戰爭の金融問題一斑 高島 佐一郎 三九八 寶文館 一、五〇

金融及爲替の原理を解説し各國金融事情を比較す。

經濟 及 金融 融 井上 辰九郎 四〇六 大學館 一、三〇

信託要義を附す。

最歐洲列強の財政及金融 松崎 藏之助 五三四 博文館 二、三〇

戰爭前に於ける各國財政の狀況及戰爭に對する財政準備等本年二月までの材料に據る。

庶民金融 融 談 小林 丑三郎 三六四 明治大學 一、三〇

本邦庶民金融に關する調査。

信用 及 擔保貸付論 深 堂 宗助 一七六 巖松堂 一、二〇

主として銀行の貸付方法、擔保品の價值注意等を論ず。

六 貨幣 貯金 爲替

△貨幣及物價の原理 高島 佐一郎 編 三五五 寶文館 一、三〇

泰西の諸名著に據りて編めるもの、列國幣制の新傾向と歐洲戰爭を附録とす。

貨幣 幣 論 堀江 歸一 五四三 同文館 二、〇〇

貨幣の概念爲造流通に關する一般の原則を説明す。

△貨幣 幣 論 青木 得三 三八五 巖松堂 一、五〇

貨幣の靜態、動態及紙幣を論ず、著者の專修大學に於ける講義を基礎とせるもの。

原色 大日本帝國貨幣古今集 東 光 園 編 一五 東 光 園 五、〇〇

古今の貨幣四百六十三圖を集む。

貯 金 獎 勵 論 下 村 宏 一 四八四 東 亞 堂 一、八〇

一名を貯蓄と國民性と云ふ。

貯 金 と 無 盡 東京法制研究会編 六〇四 東京法制研究会 〇、二五

無盡業法、改正貯蓄銀行條件を簡單に解釋す。

×貯 金 の 秘 訣 安 田 操 一 二七六 東 亞 堂 〇、五〇

通俗平易に貯金の必用心得等を説く。

外國爲替矯正策 東 田 藤 吉 一 六八五 大阪高等商業學校(大阪) 〇、五〇

外國爲替の根本政策を研究したるもの。

最新外國爲換論 奥 田 操 一 一八六 有 斐 閣 一、〇〇

外國爲替の簡明なる解説。

△實踐 國際 爲 替 小 林 綠 一 一〇一 寶 文 館 三、八〇

主として外國爲替の實務を解説す。

七 保險 組合

官營簡易生命保險通解	小野 塵一	小中の	九六五	文陽堂	〇、二五
簡易生命保險を平易に解釋す。					
現行保險法令集	伊東 秀壽	小中の	三〇一五	巖海堂	〇、八〇
内地、臺灣、關東州に現行の保險に關する法令を集む。					
處世と人生	栗津 清亮	小中の	三五〇四	廣文堂	一、二〇
著者が機に觸れ時に應じてなせる談論武士道と實業以下數十篇を收む保險に關する記事多し。					
△生命保險數理一斑	中村喜代治編	小中の	二〇九五	保險新聞社	一、三〇
通俗的に保險數理の原則を解説す。					
生命保險と火災保險	關 伊右衛門 松本 高門	小中の	三七八二	保險銀行通信社	一、二〇
生命保險、火災保險及び代理店に就て詳細に説明す。					
○					
産業組合の設立と經營	石田 傳吉	一中	二八八三	有隣堂	〇、八〇
地方自治團體の爲になせる講演草稿を訂正せるもの。					
通俗産業組合	左子 清道	一中	三一四三	警眼社	六、六五
専ら産業組合の目的趣旨の闡明に務む。					
本邦企業者聯合及合同	佐野 次郎 垣内 幸太郎	一中	四四二	實文館	一、三〇
本邦の企業者聯合及合同に關する學問的研究。					

八 植 民

樺太 殖民政策	谷中英三郎	一中	六二七	拓殖新報社	二、〇〇
樺太の土風、天産、制度を説きて殖民政策に及ぶ。					
新 渡 航 法	永田 稠編	小中の	四八〇五	日本力行會	〇、七五
編者は十年前海外に渡航して種々の苦樂を嘗めたる人なり。					
帝 國 南 進 策	副島 八十六	小中の	三三六	民友社	一、〇〇
主として印度南洋方面への殖民政策を論ず。					
蘭領印度殖民史	佐藤 四郎	一中	九九五	東京堂	〇、五〇
蘭領印度殖民の歴史と現況を簡単に述べ。					

ろ 財 政

一 總 記

△最新 財政學	松崎藏之助	一中	七四三	有斐閣	五、〇〇
歲計豫算論には大正四年度の豫算案をも引用せり。					
財政と金融	田尻稻次郎	二中	一七四〇五	同文館	五、〇〇
廿七版に多少訂正増補す。					
財 界 訓	蒙田尻稻次郎	一中	七五四三	同文館	二、四〇
「財政と金融」の節略。					

日本財政論 小林丑三郎 一 中 三八四 隆文館 一、八〇

歐洲戦後の財界と日本之將來 田尻稻次郎 小中 二六四 克禮堂 〇、九五

歐洲戦後の財政及金融 田尻稻次郎 小中 一八七 誠文館 一、二〇

公債の沿革、定義、本質、種類等を論ず、著者を改造したるもの。 田中穂積 一 中 一八六 寶文館 〇、八〇

最近歐洲列強の財政及金融 松崎藏之助 小中 五三四 博文館 二、三〇

戦争と外資 服部文四郎 小中 二〇八 富山房 〇、八五

大日本地方財政史(經濟全書) 第六卷第八編 中島信虎 一 中 一九九 寶文館 〇、七〇

地方財政史の概略を述べ、最近の記事は大正元年に止めたり。 帝國歳計沿革史 鈴木敬義 編 一 中 一七六 麒麟閣 七、〇〇

第一回帝國議會以來二十有餘年間の財政計畫推移の跡歴々掌に指すが如し。

日露財政比較論 堤康次郎 一 中 二二三 博文館 〇、七〇

二 諸 稅

正營業稅法釋義 武木宗重郎 一 中 四一三 文盛堂 一、〇〇

△社會政策よ 稅制問題(社會政策學會) 社會政策學會編 一 中 二九五 同文館 一、二〇

見たる 稅制問題の討議報告及講演を編輯せるもの。 地租所得稅營業稅 稅法便覽 島延由編 小中 三五一 啓成社 〇、五〇

印紙稅登錄稅附加稅 現行諸稅法を網羅し、其の中世人の解し易からざる點は、行政實例、訴訟裁決例等を引き參照に供す。 納稅施設例彙 東京稅務監督局編 一 中 四六〇 東京稅務監督局 一、五〇

稅務施設例を彙む。

最新關手續 久保田啓藏 一 中 四八三 山陽社 二、八〇

△支那關稅及釐金制度 吉田虎雄 一 中 一二五 北文館 一、三〇

支那關稅及各省の釐金制度を詳説す。 世界關稅大全(大正三年) 日華新報社編 一 中 一三九 日華新報社(神戶) 一、三〇〇

世界各國の關稅制度を闡明す。

三會計

會計學 論叢第一、二集	神戶會計學會編	二中	四一五	寶文館	一、三〇
神戶會計學會長東與五郎氏外數氏の會計學に關する論文を蒐めるもの。					
會計法規 通論	武藤榮治郎	一中	六四七	寶文館	二、五〇
會計法規の研究問題を解決し、實地運用者の好指針たらしめんと云ふ。					

第十三社會

い總記

社會學近世の問題(教育新潮叢書 第二期第一卷)	遠藤隆吉	一中	二八八	教育新潮研究會	〇、六〇
日本に於ける社會學上の最近問題を論ず。					
社會學原理と應用	米崎直三	一中	四〇三	二松堂	一、五〇
社會學原理と應用社會學との概念要旨を簡明に説明す。					
社會學綱要(經濟學叢料第三册)	伊、高田保馬	一中	二四八	有斐閣	一、〇〇
伊太利社會學の趨勢をトすべき代表的著作なりと。					
社會力(大日本學術叢書 第四編)	遠藤隆吉	一中	三一八	大日本學術協會	一、八〇
社會學の中心問題は社會力なりとし其性質等を明かにせり、朝鮮社會發達の由來を附す。					

△ワオードの社會學 藤森達三譯 一中 三六八 巖松堂 一、五〇
 社會學の範圍、其科學的基礎、原理原則、目的等を叙述す。

歐米社會と日本の社會	小林照朗	一中	三六六	日本學術普及會	一、五〇
舊著「日本之社會」に歐米社會の視察記を加ふ。					
社會	會遠藤隆吉	一中	三三六	星文館	一、三〇
男子の本懐と道德の標準を主とす。					
生活及社會觀	湯原元一	一中	三六三	寶文館	一、二〇
國民生活と社會に關する論文集。					
西洋	中遠藤吉三郎	小中	三六五	二西社	一、二〇
西洋に倣ふべからざることも多くあるを示す。					
縮世界列國の大勢	建部進吾	小中	一〇五	同文館	一、五〇
列國の地勢、政治、社會觀察等。					
戰爭乎平和乎	原口竹次郎	小中	三六五	同文館	一、三〇
戰爭の害毒、利益、平和運動の現勢等を論ず。					
文明	の世浮田和民	小中	四七二	博文館	一、二〇
社會進化論、國家道德論、新道德論、文明歸一論、精神變動論等を收む。					

△隱

隱居制は著者の二十年來研究せるところ、内容は贅言を要せず。

論 穉 積 陳 重 一 中 七八三 有 斐 關 三、五〇

番 號

二八四

る 社會問題

最近の社會問題(警世叢書 第三編) 安 部 磯 雄 小中の 一八六 日 月 社 〇、六五
貧乏の原因、慈善事業、資本と労働の調和等社會問題の大體を説明す。

英國 勞 働 不 安 土 屋 興 小中の 三三四 慶 應 義 塾 一、〇〇
著者英國に在りて目撃したる労働不安の状態を傳ふ。

△職 工 組 合 論 山 縣 憲 一 中 二九四 寶 文 館 一、二〇
職工組合の本質、手段、價值等を研究するもの、著者の東京高商専攻部卒業論文を基礎とす。

貧 困 の 研 究 日 吉 明 助 小中の 二五九 佐 藤 出 版 部 〇、八〇
貧に關する常識的感想。

勞 働 争 議(社會政策學會論叢 第七册) 社會政策學會編 一 中 二六七 同 文 館 一、二〇
社會政策學會の研究報告三種、講演九種の速記録。

勞 働 問 題 と 温 情 主 義 鈴 木 恒 三 郎 一 中 二二〇 用 力 社 〇、七〇
著者が自ら日光電氣精銅所を管理せし實驗に基き、所謂温情主義を力説す。

番 號

エレンケイ思想の眞髓 本 間 久 雄 小中の 三二四 大 同 館 〇、九〇
エレンケイの戀愛觀、結婚觀、母權觀等を紹介し其生ひ立ちを附録とす。

社 會 廓 清 論 山 室 軍 平 小中の 四八〇 警 醒 社 一、〇〇
主として公娼廢止を主張す。

男 女 對 等 論 米、デンスモア 小中の 三七〇 南 北 社 一、二〇
麻生正藏等譯
男女性質異同、婦人能力、婦人職業、結婚等の諸問題を解決す。

婦 人 問 題 早 わ かり 高 野 重 三 一 小 一四〇 警 醒 社 〇、七〇
婦人問題を極めて平易に解説せるもの。

家 族 制 度 の 將 來 吉 田 静 致 一 中 四一八 寶 文 館 一、五〇
將來の家族制度は如何なるものを理想とすべきかを論ず。

社 會 主 義 と 社 會 的 運 動 神 戶 正 雄 一 中 一七九 廣 文 堂 一、二〇
ゾムバルトの演述を骨子として譯出せるもの。

社 會 問 題 煙 害 論 鈴 木 千 代 吉 一 中 五八三 肥 料 研 究 會 二、〇〇
主として煙害の學術的研究を發表す。

小 農 保 護 問 題(社會政策學會 論叢 第八册) 社會政策學會編 一 中 三一六 同 文 館 一、二〇
小農保護問題に關する高岡熊雄外十數氏の論叢。

は 職 業

二八五

番 號

×獨立營業開始案内 第六、七編 石井 研 堂	小中の	三七四	博文館	〇、五〇
活版業、石版業各種製版印刷業、寫眞業、質屋業、金貨業、貸地業。				
×成立志 職者の顧問 鈴木 文 治	小中の	二七一	産業書院	〇、八〇
小學、中學卒業生程度の人の就職案内書。				
大營 業 便 覽 上 卷 東京書院編	小中の	三四六	東京書院	〇、五〇
各種商業資本利益、時期場所等を説明す。				
東京に就職と其成功 藤 井 衛 編	小中の	二四七	雄文館	〇、五〇
職業の種類、名稱及就職の方法などを詳述せり。				
普通 文 官 就 職 顧 問 林 儀 一 郎 編	小中の	五五〇	戸取書店	〇、五〇
數種、普通文官應募、手續、試験問題及其解答を掲ぐ。				

に 處 世

×社會學 馬 の 目 萬 丈 洞 主 人	一 中	二五八	東 亞 堂	〇、九〇
世間に行はるゝ好策を記して之に警戒を與ふるもの。				
十八名士學問及職業の選擇 福 原 元 編	小中の	一五八	實業之世界社	〇、三五
如何なる學問を修め如何なる職業に従事すべきかに關し、平田東助、大隈重信、秋元與朝等十八名士の意見を集めたるもの。				
簡 易 生 活 法 西 村 才 助	一 中	三五二	大 日 本 圖 書 株 式 會 社	〇、八〇
・理論、實際兩方面より簡易生活を説く。				
處 世 術 三 輪 田 元 道	小中の	二九五	實業之日本社	〇、六五
實例を本とし平易に處世術を説きしもの。				

番 號

世 間 學 村 上 信	一 中	三〇一	大 阪 屋 號	〇、九五
世間ありのまま、赤裸々を見、高尚なる理論を除却せりと云ふ。				
退出より 充 實 生 活 丸 野 内 人	一 小	二三五	日 東 堂	〇、五〇
時間的基礎の上に築かれたる生活法を論ず。				
×ニコニコ式處世法 牧 野 元 次 郎	一 小	三〇三	春 秋 社	一、〇〇
著者の主唱せるニコニコ式處世法を通俗に説明す。				
凡 人 の 處 世 策 山 崎 龍	小中の	三四六	千 草 館	一、〇〇
著者自身の處世策、對家庭策を述べたるもの。				

ほ 社 交

心得て居ら 社 交 禮 法 別 府 熊 吉	小中の	二八五	實業之日本社	〇、九〇
ねばならぬ 公私の集會等に於ける禮儀作法の心得を詳述す。				
社交 舌 三 寸 の 活 殺 横 溝 蘇 堂	小中の	三三四	東 亞 堂	〇、五〇
座談の閉却すべからざる所以を説く。				

へ 國 民 性 民 族 性 傳 説

俗 國 民 性 講 話 加 藤 熊 一 郎	一 中	二四四	明 誠 館	〇、六〇
地理、歴史の二方面より國民性を研究す。				
獨 逸 の 國 民 生 活 英、ダ ッ ソ ン 徹 譯	一 中	三二九	洛 陽 堂	一、三〇
獨逸國民生活の實情を悉くせり。				

日本國民性の研究(教育新潮叢書第六卷) 野田 義夫 一中 三二〇 教育新潮研究會 〇、六〇
 日本國民性の長所及短所を評論し、日獨の兩國國民性を比較したるもの。
 善悪 日本人心の解剖 元田 作之進 小中の 二四〇 廣文堂 〇、八〇
 長短 特に日本人の短所は忌憚なく言明せり。

人間細君百癖 堀内 文麿 小中の 三七二 日東堂 一、二〇
 酒の好きな女、縫針の達者な女等百人百癖を收む。

歐洲の傳説 松村 武雄 一中 五〇一 文淵堂 一、八〇
 泰西の傳説を集む。

山島民譚集(一) 柳田 國男 小中の 一九四 甲寅叢書發行所 〇、五〇
 河童と馬蹄石の二篇を録す。

植物妖異考 自井 光太郎 小中の 三四三 甲寅叢書刊行所 一、〇〇
 祥瑞、靈異、怪異、變異、變生の植物を叙述す。

と風俗

近古以來 服裝沿革略 錦 織 竹 香 一中 一四二 實文館 〇、五〇
 徳川幕府の盛時を中心とし明治及現代の男女服裝を略述す。

年中行事 飯田 傳一 小中の 二八三 金港堂 〇、四五
 朝廷に行はるゝ公事をはじめ民間現行の主要なる行事を説明す。

ひげの研究と最新毛生法 鴨田 倫治 小中の 一四八 日本藥學協會 〇、五〇
 ひげに關する古今の逸話、雜觀等を掲げ毛生法を簡單に説明す。

第十四 統計

統計學研究 高野 岩三郎 一中 六五四 大倉書店 二、五〇
 統計に關する著者二十年來の論文二十四篇を纏めたるもの。

大數法論(法律學經濟學研究叢書第十六册) 高田 保馬 一中 三三四 京都法學會(京) 一、二〇
 理論統計學の根本的原理たる大數法の適用範圍を明にす。

日本帝國統計年鑑(第三十二) 内閣統計局編 一大 一〇一八 東京統計協會 三、五〇
 諸種の事項を綜合して三十六科目とす。

第十五 數學

い 總 記

初等數學叢書(自第一編至第十一編) 大倉書店編 小中の 六 大倉書店
 自第一編至第七編算術、自第八編至第十六編代數學、自第十七編至第二十五編幾何學、自第二十六編至第三十一編三角法。
 新主義數學 上卷 獨、ペーレンドセン等 中 三九七 國定教科書 一、〇〇
 近時歐米の中等教育界に於ける數學教授上唱道せらるゝ新主義の下に編纂せしもの、上卷は下級用なり。

番 號

受験 數 學 講 義 原 濱 吉 一 中 一一二〇 芳 流 堂 二、五〇

必携 數 學 叢 書 自第一編 大倉書店編 一九 五 大倉書店

第一編方程式第一、第二編幾何學初等作圖不能問題、第三編不等式、第四編幾何學初等軌跡問題、第五編方程式第二、第六編公算論、第七編行列式、第八編微積分學の基礎、第九編幾何學初等極大極小問題、第十編方程式應用問題、第十一編算術四則問題第一、第十二編數の概念、第十三編順列論、第十四編級數概論、第十五編幾何學原理、第十六編算術四則問題第二、一、第十七編算術四則問題第二、二、第十八編おられる代數學不定解折論、第十九編數學史。

數 學 史 (數學叢書) 佛、ギアイエー 林 勉 一 譯 一 中 二三五 大倉書店 一、五〇

古代より十九世紀に至る歐洲各國の數學の沿革を述ぶ。

算手 必携 此 は 調 法 小澤啓太郎 一 中 一二八 平 凡 社 〇、六五

基礎計算の諸表、應用算の諸表、基礎計算の便法に分つ。

官立學校 算術、代數分類問題集 長澤龜之助編 一 小 四七三 東 海 堂 〇、八〇

入學試驗 幾何、三角 大正二年より溯りて十七年間の問題を蒐集し嚴密に分類す。

最近十年 入學試驗 數學問題の解き方 林 茂 増 一 小 一〇二五 日 進 堂 一、五〇

明治三十七年より大正貳年に至る試験問題の解答。

最近十三年間官立數學問題解答 青 木 安 治 一 小 九八四 尙 榮 堂 一、〇〇

諸學校入學試驗數學問題解答 青 木 安 治 一 小 九八四 尙 榮 堂 一、〇〇

明治三十五年より大正三年に至る。

ろ 和 算

文部省教員檢 問題解義集 東物理學校同窓會編 一 中 六四五 東 京 物 理 學 校 同 窓 會 二、五〇

定試驗數學科 最初より大正元年までの試験問題を蒐集し之を解答す。

新 實 習 珠 算 全 書 齋藤森北編 一 小 三四六 東 盛 堂 〇、六〇

四則より開平開立まで連算法練習問題等に熟達する方法を説く。

正 殊 算 教 本 小澤啓太郎 一 小 二〇二四 誠 之 堂 〇、四五

中等程度諸學生の參考用。

珠 算 教 本 本 四野宮朝治 一 小 二五四 博 文 館 〇、四八

最初に和算史の概要を述べ次に加減乗除の日用問題を説けり。

自修 珠 算 教 本 三餘學寮編 一 小 二七〇四 偉 業 館 (大) 〇、三〇

問題の撰擇等専ら實用を主とせり。

珠 算 提 徑 石橋梅吉 一 小 一五八四 晋 文 館 〇、四〇

珠算の算法を習熟せしむるを目的としたるもの、算盤運用の圖解及説明もあり。

五十日 珠 算 自由自在 石井民司 一 小 二〇二五 佐 藤 出 版 部 〇、四〇

親切に珠算の獨修法を教ゆ。

珠 算 通 解 石橋梅吉 一 小 三四〇五 文 陽 堂 〇、七五

速算及實用計算に習熟せしむるを以て編纂せるもの。

新 手 珠 算 の 秘 訣 佐々木政吉 一 小 一〇〇五 文 正 堂 〇、五〇

加減乗除を簡單迅速に行ひ得べき方法を説く。

早く珠算の覺方中大熊市助 一八四 平和出版社 〇、六〇
珠算に關する一般的知識と習熟の方法とを教ゆ。

は算術

覚え算術の解き方岡田昇一 一七五 正文堂 〇、五五
説明平易。

系統的に排比及比例應用問題阪田關藏 一四六 中興館 〇、四〇
列したる應用問題の解法。

受験参考 研究的算術 長澤龜之助 二七五 寶文館 〇、七五
自習之友 高等専門學校受験程度とし入學試験問題を引用せり。

試験算術一週間調べ菅 隼人 二九三 精文館 〇、三〇
主として中等學校入學受験者の爲に講述せるもの、大正四年度の全國著名中學校入學試験問題集を別冊として附せり。

算術演習書 森 岩太郎 三八一 目黒書店 一、二〇
問題の演習を目的とす。

中學校算術應用問題正解 數學教授法研究會編 二六〇 二松堂 〇、七五
數科用 中等學生の練習又は獨學者の參考用。

算術解法自由自在 數理研究會編 四三一 盛文館 一、〇〇
自修用。

分類算術解法の研究 宗 末治 二五七 大同館 〇、八〇
直接解法、間接解法に區別して研究せり。

番 號

番 號

算術 自習書 吉田好九郎 四一三 芳流堂 一、三〇
中等程度。

算術四則問題第二ノ(數學叢書) 第一六、七編 林 鶴一 二一六 大倉書店 四、〇〇
分數計算を包含せる四則題等。

算術圖解的模範解法 眞村邊丑太郎 二一八 廣文堂 〇、七〇
小學校教員檢定試験問題等を載せたり。

考へ方と算術の力驗し 菅 隼人 二二二 精文館 〇、五〇
模範問題の考へ方解き方を示し其次に力驗しの問題を掲げたり。

算術 四則(初等數學叢書) 大塚 駒太郎 一三八 大倉書店 〇、三五
理路の一貫と變化の連続とに十分の注意を拂ひたりと云ふ。

算術模範例題解法 野口 秀敏 五三五 敬文館 〇、八五
中等教科書にある難問を網羅す。

算術問題精解 中等理學會 一八〇 光世館 〇、七五
中等教科書の問題及試験問題を解答す。

×受験算術問題通解 三餘學寮編 三六〇 岡本偉業館(大) 〇、四五
中學校、高等女學校等の受験用に於ける中學校其他の試験問題を類分に從つて輯め、下卷に之れが解答を與へたり。

結合算術問題と其解法 岡本 貞夫 二四七 二松堂 〇、七五
主として現行諸教科書が漫然として組織立たざるもの多きを救ひ、力めて統合主義を採りたりと云ふ。

模範算術問題分類集 稻生 政次編 九二 文盛堂 〇、三六
最近十ヶ年間の官立高等諸學校入學試験算術問題を分類詳解したるもの。

難問算術要義	松村定次郎	小の	三二八	日進堂	〇、七〇
最近數年間諸官立學校入學試験問題を解釋せり。					
修算術講義	松村定次郎	一中	七八六	日進堂	一、八〇
初學者のため平易に講述せり。					
師範入學受驗算術解法指針	國民教育研究會編	小の	一七六	東京出版社	〇、三〇
基本問題と解法を示し練習問題を多く掲ぐ。					
初算術講義	根津千治	一中	二九二	日進堂	一、〇〇
初學者に適するやう、簡單明瞭に講述せり。					
獨習新撰算術	藤村秀麒編	小の	四八二	光世館	〇、八八
問題には解法も注意すべき要點を公式として附す。					
中等入學準備算術自習書	初等學術研究會	小の	二二二	日進堂	〇、四五
實用新案登錄の練習法を卷末とす。					
幼年、師範、中學、算術受驗力の	小倉隆	小の	一六八	三友會	四、九
高女、農商、工校つけ方					
要するに入學受驗算術獨習書なり。					
○					
神尾式速算法	神尾錠吉	一中	一七五	南北社	一、〇〇
算盤に依らざる速算法。					
國定系統的暗算教程	龜井弘	小の	三七二	明誠館	一、〇〇
尋常小學校の暗算教授法を説き、系統的に問題を排列す。					

に代數

×實用	算法	石橋梅吉	小の	九三四	日東堂	〇、二五
請算の必用と加減乗除の諸算法とを説く。						
實用計算法秘傳	佐々本政吉	小の	一〇四	文正堂	〇、五〇	
珠算を廢し筆算による實用計算法を説く、著者は久しき經驗を積めりと云ふ。						
因數分解研究法	水田文平	小の	九五五	光明館	〇、二五	
問々入學試験問題を挿みて因數の分解法を講ず。						
中學生因數分解法並其應用	根津千治	小の	一五〇	共同出版社	〇、三〇	
△おられる不定解析論(數學叢書第十八編)	佛、オイレル	一中	一九二	大倉書店	〇、九五	
整數論の一部。						
受驗參考自習之友	研究的代數學	長澤龜之助	一小	寶文館	〇、八五	
問題解決の指針を示せり。						
高等現代ノ代數學解法考案	長橋瀧藏	小の	三四八	明誠館	〇、八〇	
内容を必須事項、解法考案、默想録、練習問題の四段に分ちたり。						
最新代數問題正解	伊藤豐十等	小の	一三七	二松堂	二、〇〇	
現行中等代數教科書にある問題を網羅しこれに正解を附す。						
參代數學講義	根津千治	一中	三五六	尙文堂	二、〇〇	
中等程度。						

考代 數學問題通解 教學教授普及會編 小₁の 五六八 修學堂 一、二〇

中等教科書問題の解説。

自代 數學講義 松村定次郎 二中 九四五 日進堂 二、七〇

中等程度、講述平易。

初代 數學講義 根津千治 一中 四四五 日進堂 一、四〇

初學者も了解し得るやう卑近平易に説明せり。

代 數學(數及代數式ノ四則) 藤原倉平 小₁の 一六三 大倉書店 〇、三五

各種の問題に詳細なる例解を示せり。

代 數學(初等數學叢書第八) 藤原倉平 小₁の 一六三 大倉書店 〇、三五

代 數學(二次方(初等數學叢書) 伊藤新重郎 小₁の 一八六 大倉書店 〇、三五

摸範例題を掲げ其解法に則りて解き得べき問題を載せたり。

代 數學因分解法通義 原濱吉 小₁の 一九七 芳流堂 〇、三五

因數分解法を精解して好評ありしもの、誤植等を訂正して三版を出せり。

代 數學學習の仕方と問題の解き方 伊藤豐十 小₁の 二七九 二松堂 〇、六五

卷頭に受験準備の注意などを掲げたるを特色とす。

實業代 數學教科書 原濱吉 小₁の 二一六 研數會 〇、六〇

中學程度の實業學校用教科書として特に分類的に記述せり。

代 數學研究と受験新法 松岡文太郎編 小₁の 四〇五 文魁堂 〇、八五

先づ代數學研究の方法と受験の秘訣を述べて本題に入る。

代 數學智識之整理 森田幸次郎 小₁の 三〇三 研文館 〇、〇五

代數の知識を整理し應用能力を養成するを目的とす。

代 數學學習方考へ方と解き方 藤森良藏 小₁の 六一四 山海堂 一、三〇

總論、式の變形、方程式、平易なる不等式以下對數まで。

代 數學問題解義 數理研究同志會編 小₁の 一一〇 一文盛堂 一、六五

現在中等諸學校に多く採用さるゝ教科書の問題を集め之を解説す。

模範代 數學問題通解 東京數學研究會編 小₁の 九六〇 盛林堂 一、五〇

主として中等諸教科書にある問題又は類似問題を通解す。

代 數學問題通解續編 石野勝五郎 小₁の 七二六 山海堂 二、〇〇

千木氏初等代數學、藤澤氏續初等代數學等の解。

模範代 數學問題分類集 稻生政次 小₁の 三六二 文盛堂 〇、五〇

官立學校入學試験問題を分類して解説したるもの。

代 數學有名問題模範解 橋仁三郎 小₁の 一九二 高岡書店 〇、四〇

中等學校の上級生及入學試験に應ぜんとする學生の參考として、代數學中各章より基礎的にして有名なる問題を選定し解釋せるもの。

代 數學の講義 天野一之丞 二中 八八七 敬文館 二、五〇

代數の入門書。

代數は斯の如く解義せよ 眞邊仙一 二小 一〇八 敬文館 一、六五

中學卒業程度、官立學校試験問題を加ふ。

幾 何 學 平面の部 獨、トロイトライン等 二中 六三九 有朋堂 二、五〇

原書は獨逸流幾何學を代表したるものと稱せらるゝ名著なり。

番 號

幾何學學習の仕方と問題と解き方 伊藤 豊 十 小中の 二五八 二 松 堂 〇、五五

平面幾何、立體幾何の學習法を説き基礎的問題を多く掲ぐ。

幾何學考へ方と解き方 藤森良藏編 小中の 訂 二九〇 文 魁 堂 〇、六〇

本書が受験學生に如何に歓迎せられたるかは舊版二十六版を賣盡し、改訂後二ヶ月に滿たずして既に六版を重ねたるを見て之を知り得べし。

幾何學研究と受験新法 松岡文太郎 小中の 五〇〇 文 魁 堂 一、一〇

幾何學の速成法、理解法、研究の方針、受験の要領を明かにす。

補習用幾何學新講義 第一篇 山内 久五郎 小中の 一〇五 高岡書店 〇、三〇

此篇は軌跡問題證明法並軌跡發見法なり。

幾何學定理及問題 佛、カ、タ、ラン 小中の 七五六 國定教科書 三、〇〇

長澤 龜之助譯

幾何學問題分類集 稻生 政次 小中の 一四八 文 盛 堂 〇、三三

平面より立體に涉り幾何學に於けるあらゆる事項を網羅す。

模範幾何學問題分類集 各部類に範例を掲げ其模範解答を記載す。

幾何は斯の如く解せよ 眞 邊 仙 一 小中の 五五〇 敬 文 館 〇、九〇

基礎的問題を解説し共通なる性質を有する練習問題を掲げたり。

最新幾何學要義 高見 豐 編 小中の 二三二 若 松 堂 〇、五五

高等豫備校、中學校補習科の教科書並に専門學校入學志望者の自習用書。

考幾何學問題通解 數學教授普及會編 小中の 五五〇 修 學 堂 一、二〇

主として中等教科書の問題を解釋せり。

自幾何學講義 松村定次郎 小中の 八一六 日 進 堂 二、二〇

獨習者の爲に中等程度の幾何學を講ず。

番 號

△ル、コンプ、ル、ス、初等幾何學 佛、ル、シ、エ、等 二中の 一八八 山 海 堂 八、三五

卷首に幾何學發達史等あり。

初等幾何學講義 第一卷 柳 原 吉 次 一中の 五六五 山 海 堂 二、五〇

るしえいこんぶるす初等幾何學第一卷の演習問題と其關係事項を收む。

初等幾何學講義 根 津 千 治 一中の 三五六 日 進 堂 一、二〇

獨修者又は初歩を學ぶ人々の參考書。

ては平面幾何學研究 佛、テ、ボ、リ、ツ 一中の 三〇二 富 山 房 一、六〇

吉田好九郎譯

初等幾何學に於ける命題の全般を概括的法則的に叙述す。

受験 平面幾何學詳解 中等理學會編 小中の 三三三 光 世 館 〇、八〇

補習 中學卒業又は同上級生程度。

平面幾何の話 (中學數學叢書) 第三編 荒 井 常 一 小中の 四七〇 英、語、研、究、社 〇、八五

中等程度、獨習に便なる様記述せり。

立體幾何學 (直線及初等數學叢書) 尾 崎 敏 郎 小中の 一〇四 大 倉 書 店 〇、三五

平面 (書第三編)

初等立體幾何學の基礎となるべき直線及平面に就て簡易に説明せり。

へ 三 角

三角法—三角函數 (初等數學叢書) 林 鶴 一 小中の 一四一 大 倉 書 店 〇、三五

三角法の入門として函數の基本概念を平易に説明せり。

三角法 三角函數及 (初等數學叢書) 蓮 池 良 太 郎 小中の 二一六 大 倉 書 店 〇、三五

三角方程式 (書第三編)

弧度法及三角函數三角方程式三角不等式極大極小及び消去法を論述す。

三角法解法講義 根津千治 小中の 三〇六 高岡書店 〇、五〇

受驗 教科書の參考、獨學用、受驗者用の目的にて編纂せりと云ふ。 豫備 三角法學び方考へ方と解き方 藤森良藏 小中の 二七九 山海堂 〇、六〇

著者の所謂系統的學び方を教へたるもの。 自三 角法講義 松村定次郎 一中 三五三 日進堂 一、二〇

說明平易にして懇篤なり。 平 面 三 角 法 佛、デボ、ト、ツ 山下安太郎 譯 中 四〇三 有朋堂 一、五〇

原著は高等専門學校入學試験に應ずる者の爲に著はさる、本書は其全譯なり。 平 面 三 角 法 精 解 有賀午之丞 小中の 三四五 晉文館 〇、九五

各種高等専門學校入學試験に應ぜんとする者の爲に難問を解釋したるもの。 離問 平 面 三 角 法 要 義 松村定次郎 小中の 三八一 日進堂 〇、八〇

高等學校の受驗準備用。 受驗 模範三角法問題解義 宮本藤吉 小中の 四一〇 隆文館 〇、六〇

著者が十餘年間反復講義したる草案を基礎とす。 著者 模範三角法問題解義 宮本藤吉 小中の 四一〇 隆文館 〇、六〇

と解析幾何

△圓錐 解析幾何學 英、サ、イ、モ、ン 小倉金之助 譯 一中 七六三 山海堂 三、三〇

同一の定理が種々の異なる方面より説明せらる。 ちす氏 解析立體幾何學 英、アル、ヂ、ス 長澤龜之助 譯 小中の 二八一 武藏屋 一、二〇

むづかしき問題には解き方を示せり。 初學者の爲に周密なる講義をなせり。

△電氣學、磁氣學に於ける解析數學應用 (科學名著集) 第五册 荒木吉次郎 譯 一中 一九一 丸善 一、二〇

電氣、磁氣的流體の平衡現象を解析的數學に従はしなる試驗。 平 面 解 析 幾 何 學 菊池大麓 一中 三七八 大日本圖書株式會社 二、五〇

初學者の爲に編纂したるものなれば坐標の如きも主として直坐標に就て説けり。 平 面 解 析 幾 何 學 講 義 刈屋他人次郎 一中 五一三 芳流堂 二、〇〇

初學者の爲に周密なる講義をなせり。

ち微分積分

△函 數 論 吉川實夫 一中 二七〇 富山房 二、二〇

函數の解析的幾何學的研究方法を説述せり。 △ばーと 積 分 學 獨、キ、イ、バ、イ、ト 吉田好九郎 譯 一中 七四六 富山房 二、八〇

高等學校程度。 △ばーと 微 分 學 獨、キ、イ、バ、イ、ト 吉田好九郎 譯 一中 八四五 富山房 三、〇〇

微分學を平易に講述せるもの、高等學校程度。 △微 分 積 分 學 河合第二 一中 四六〇 實文館 二、五〇

故著者の第二高等學校に於て教授せるところの教案を基礎とす。

第十六 理 學

い 總 記

科學名著集

丸善株式會社編

丸善

番號

- 第一冊 力の保存に就て 獨、ベルムホルツ 第二冊 發教及吸收論 獨、ホルネツフ
- 第三冊 渦動論集 獨、ベルムホルツ 第四冊 地磁氣論 獨、ガウ
- 第五冊 電氣學に解析數學應用論 英、グリー 第六冊 電波に關する論文集 獨、ヘ
- 第七冊 解析力學抄 佛、ラグランジュ 獨、部

△應用實驗學梗概

波多野貞夫 一 中

岩波書店 一、二〇

△應用材料資料集成

鍾美堂編 二 中

鍾美堂 四、〇〇

△科學の價值

佛、ポアンカレ 一 中

岩波書店 一、三〇

×科學の天地

小林豐次郎 一 中

文陽堂 一、〇〇

最近科學の進歩

(新知識叢書) 青柳有美編 一 中

實業之世界社 〇、二〇

△最近の自然科學

(哲學叢書) 田邊元 一 中

岩波書店 一、二〇

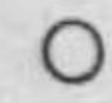
科學の進歩

柳原友吉編 一 中

文盛堂 〇、二〇

日本及歐米の發明に就て著名のもの四十五を簡單に解説せるもの。

- 國民理化精義 水津嘉之二郎 一 中 三四〇 文永館 一、五〇
- 小學理科書中物理及び化學の教材に就きての講演筆記。
- 普通顯微鏡實驗圖解 福内山田惟吉 一 中 一三九 化學之友社 一、〇〇
- 顯微鏡使用の心得と實驗上の注意。



- 通俗花鳥風月 枝元長夫編 一 中 五三五 弘道館 〇、九五
- 講話 本多靜六氏の梅の花の話を始め諸大家の科學に關する講話九十題を收む。
- 觀天窺地 横山又次郎 一 中 三五三 鳳鳴社 〇、八〇
- 地理、地質、天文等に關する講話を集む。
- 縮常識之基礎 加藤熊一郎 一 小 七三二 東亞堂 一、三〇
- 宇宙篇、地球篇、生物篇、人類篇、社會篇の五篇より成る。
- 世界に於ける自然の奇蹟 横山又次郎 一 中 三八八 廣文堂 一、五〇
- 世界唯一の大搖ぎ岩、瑪瑙の林と瑪瑙の橋、米國の天然橋等と人文に關するもの二三篇を添ふ。
- ×科學世界の奇蹟 横山又次郎 一 中 三三二 松堂 〇、九五
- ×趣味 隨て出來た地下の町等小説の如く面白き世界の奇蹟、事實を通俗的に述べたるもの。
- ×知識のくら 藤井義二男 一 小 五二八 榮文館 一、二〇
- ×知 天文地電氣海洋等に關することを通俗的に解説す。
- ×珍らしき自然世界の現象 横山又次郎 一 小 三五四 誠文堂 一、〇〇
- ×主として天文地電等に關する世界の珍らしき現象を述べ。

×林 檜の落つる音 渡邊 忠 音 小中の 二六九 大成堂 〇、七五
興味ある筆致を以て動植物、天文、物理其他廣く科學一般に關する記述を試む。

ろ 物 理

△太田代定量物理学 太田代唯六 一中 二六四 東京出版社 一、四〇
實驗の精神を高等學校程度以上の學生に傳へんとする目的なりと云ふ。

理論 最新物理学精義 柴田初治郎等 二中 八八〇 日進堂 二、八〇。
高等專門學校入學受験者の準備書。

受驗 最新物理学要義 田邊 尙 雄 小中の 一四七 二松堂 〇、四〇
困難なる問題には特に其解を附す。

諸官立學校 物理学模範答案集 柴田初治郎 小中の 二四八 寶永館 〇、六〇
明治三十九年より大正四年に至る十ヶ年の物理学試験問題を集め、之を學術系統的に分類して答案を附したるもの。

新式物理学要領 柴田初治郎 小中の 二二四 二松堂 〇、五五
物性、力学、熱學、音響の説明。

新撰物理学問題詳解物理学部 櫛引純二郎 中の 一二八 大正書院 〇、五五
受驗用。

普通物理学講義 上卷 中村 清二 一中 六七三 富山房 二、二〇
日常遭遇する物理現象の眞理を了解せしめんとす。

問題物理学解法講義 高垣雷太郎 小中の 六五七 高岡書店 一、五〇
千二百餘の物理学問題を解説す、主として官立學校入學受驗用。

物理化学問題詳解 近藤清次郎 小中の 五一四 東華堂 一、〇〇
官立學校入學試験問題の解答。

問題物理学計算法 中里左右太編 小中の 二五八 山海堂 〇、四五
高等專門學校入學試験を受けんとするもの、獨修用に適す。

問題物理学計算要義 山下安太郎 小中の 三三九 日進堂 〇、六〇
松村定次郎 小中の 三三九 日進堂 〇、六〇
力学編は特に材料を豊富ならしめたりと云ふ。

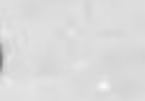
最新物理学講義 木下豊太郎 一中 三六三 正文館 一、五〇
小學校に於ける物理教授参考用を主とす。

物理学初等實驗集 佛、アブラム 二中 八五二 國定教科書 二、〇〇
長岡半太郎譯
簡單なる器具材料を用ひて簡易なる實驗を行ふ方法を示す。

△物 理 學 通 論 本多光太郎 大 四三四 老鶴園 三、五〇
北川清編
物理学各論を學ばんとするものに必要なる物理学の基礎的事項を説明せり。

類物理学理論計算講義 近藤清次郎 小 六七七 高岡書店 〇、九〇
物理学全體特に理論及計算に關する事項を講義し且問題により練習する方法を採る。

物理實驗室案内 棚橋源太郎 小中の 一五四 實文館 二、四〇
理科の實驗室教授法。



△渦 動 論 集 (科學名著集) 獨、ヘルムホルツ 中 一九一 丸善 一、二〇
第三册 荒木吉次郎譯
渦動に關するヘルムホルツ氏の論文一篇、同タムソン氏の論文二篇を收む。

結晶光學講義 (現代科學叢書) 中村 清 二 一七二五 現代之科學社 〇、三五
某講習會に於て講述し又實驗して示したる事項の筆記。

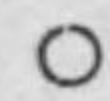
△原子 論 水野 敏之丞 一大 二八五三 丸 善 二、五〇
原子の構造及作用に關する實驗的及理論的研究。

△續 原 子 論 水野 敏之丞 一大 二四〇五 丸 善 三、〇〇
原子番數と振動數、光電効果、螢光及燐光、可壓縮原子其他。

發散及吸收論 (科學名著集) 獨、キルヒネツフ 一中 八二二 丸 善 〇、六五
光及熱の發散と吸收との關係に就て外二篇の論文を收む。

△ポテンシャル論 (科學名著集) 獨、ガウッス 一中 一八四三 丸 善 一、四〇
距離の二乗に逆比例して作用する引力及び斥力に關する一般の定理(ポテンシャル論)

△ラムゼー「元素と電子」 英、ラムゼー 一中 二四三 老 鷗 圃 一、〇〇
原子分子の成立假説並に電子論の進歩に關する概要を紹介す。



△解析力學抄 (科學名著集) 佛、ラグランジュ 一中 二五二五 丸 善 一、六五
原著者は流體力學等に大なる解析力を奮ひ、一般坐標を力學問題に利用する方法を創案せる人なり。

△力 學 森 總之助 一中 五一三四 丸 善 二、八〇
中學卒業程度の數學を修め、更に重學の理論と應用の一斑を知らんとする者の參考書、例題及解釋を附す。

中等教育を卒へ理工科の學問を修めんとする者に、力學に關する正確なる觀念を興ふるを目的とせるもの。

△高等 物理 學 講 義 田中三四郎 一中 六九〇五 芳 流 堂 三、〇〇
中等程度の物理學を修めたる人々の爲に其基礎學科たる力學を解説したるもの。



趣味の電氣 木村 駿吉 一中 二七九三 老 鷗 圃 一、五〇
家庭にて電氣を利用する有ゆる方面を通俗平易に述ぶ。

△實用 電 氣 叢 書 木村 駿吉 三大 五八〇三 老 鷗 圃 四、三〇
第一册 レジスタンス 第二册 イムピーダンス 第三册 ボテンシオメートル
電機器製造の參考書。

電氣通論 (電氣工學 初等叢書) 建築書院 編 小中 二一五 建築書院 〇、五〇
磁氣、靜電學、電流に就き通俗的に説明せり。

△電波に關する論文集 (科學名著集) 獨、ヘッル 夫 譯 一中 三三五四 丸 善 一、八〇
原著者は始めて電波の實驗立證をなせる人。

は 化 學

問題 化學 解法 講義 池 田 清 小中 八二八五 高 岡 書 店 一、五〇
先づ物質の製法、性質等を説明し次に入學試驗問題等を詳解せり。

問題 化學 計 算 法 中里 左右太 編 小中 一二〇四 山 海 堂 〇、二五
大正三年度官立諸學校入學試驗計算問題等を附録とす。

解法 化學 計算問題集 寺 井 幹 編 小中 一五五四 文 盛 堂 〇、三三
中等學校卒業程度。

番 號

△化學の原理 獨、オストロルド 一 三七九 丸 善 二、二〇
 物體、形種其他を通じて一貫せる普通の原則、根本的基礎を論ず。
 化學は斯の如く練習せよ 小林 盈一 一小 五四二 敬文館 〇、九〇
 高等専門學校入學準備の化學練習法を説く。
 △化學 本論 片山 正夫 一中 九九三 老鶴 同 五、〇〇
 廣く化學一般に亘る根本的關係を説述す。
 豫備化學問題解説 近藤清次郎 小中の 四八三 日英堂 〇、七五
 入學受験者の參考用。
 △參近世化學講義 長 俊 治 一 一二三 寶文館 四、五〇
 化學の基礎概念より有機化學に入り理論化學の一斑にて結ぶ綜合的化學講義。
 應用 最新化學集 上巻 水津嘉之一郎 一中 七一三 隆文館 三、三〇
 上巻には物理化學、無機化學、有機化學等を收む。
 受驗 最新化學要義 服部春之助 小中の 一五七 二松堂 〇、四〇
 計算問題には例解を示せり。
 新中等化學通解 榑引純二郎 一中 四八二 老鶴 同 一、八〇
 第一總説、第二各論とし各論は更に無機編と有機編とに分け、説明丁寧親切なり。
 △最新有機化學 吉田彦六郎 二中 二二四 金港堂 七、〇〇
 脂肪屬化合物と蛋白質芳香屬化合物等を解説す。
 諸官立學校入學試驗化學模範答案集 柴田初治郎 小中の 三〇六 寶永館 〇、六〇
 入學試験問題約一千を集めこれを分類して解答を附す。

物理化學問題詳解

官立學校入學試験問題の解答。

近藤清次郎 小中の 五一四 東華堂 一、〇〇
 河南 休男 一 七八六 丸 善 三、五〇

番 號

△新無機化學

無機化學の根本原理を解説せるもの、高等學校程度以上。

英、キウビンゲ等 一中 七八六 丸 善 三、五〇
 原田安治等 一 二六九 盛林堂 〇、四五

模範化學問題詳解

東京理化研究會編 明治四十四年以後の官立學校入學試験問題其他中等教科書の問題を解説したり。

一 二六九 盛林堂 〇、四五

ウオルカー氏物理化學

物理化學の解説書、一般化學的職業に従事する者に適す。

英、ウオルカー 一中 八二六 丸 善 二、八〇
 湯田重太郎 一 三〇三 寶文館 一、〇〇

物理化學要論

物理化學の原理を通俗的に紹介す。

阿部 隆次 一中 三〇三 寶文館 一、〇〇

化學實驗案內

豫備實驗、非金屬元素、金屬元素、有機化合物に分つ。

棚橋源太郎 小中の 二四〇 大倉書店 〇、七〇
 森次郎 一 一六五 大日本圖書 〇、七〇

生徒化學實驗指針

化學實驗上の諸注意。

萱島 榮 一中 一六五 大日本圖書 〇、七〇

鹽類と水に關する通俗的の説明

鹽類と水に關する通俗的の説明。

大幸 勇吉 一中 一〇六 富山房 〇、七五

番號

化學史及化學大家傳 久木田隊伍 一中 一八一 多良木出版所 〇、七五
 原子量、化學記號其他化學一般の進歩と變革とを叙しそれら關係ある大家を略傳す。
 化學學と人生 龜高徳平 一中 五四四 丁未出版社 一、八〇
 化學上より燃料、食料、染料、インキ、曹達等を説明す、行文平易。
 日常生活の化學 富永齊 小中 一六二 現代之科學社 〇、五〇
 日常生活上ありふれたる現象に就て説明す。
 容易に化學 百戲 菱山衛平 小中 一八一 三友堂 〇、四〇
 興味ある化學の實驗百種。
 ラヂウム、電子、エマナチオン等に就き理論、應用の兩方面に互り平易に講述す。

天文

宇宙進化論 新城新藏 一中 二七四 丸善 一、七〇
 宇宙の構造、天體の運動及物理的狀態等を講述す。
 宇宙之進化 蘆野敬三郎 一中 二五二 岩波書店 二、〇〇
 宇宙萬有の過去進化の跡を究め將來を推さんとす。
 △宇宙發展論 瑞、アレニウス 一中 三五九 大倉書店 一、八〇
 宇宙の進化に關する説明。
 趣味の天文 一戸直藏 一中 二二五 現代之科學社 一、二〇
 前著星に多くの修正を加へて改題したるもの。

番號

誰にも必用な星の圖 小倉伸吉 一中 四六二 現代之科學社 〇、三八
 太陽系及星に關する圖數十。
 天文講話 横山又次郎 一中 二六九 早稻田大學 一、三〇
 天體に關する知識の梗概を授けんとす。

ほ地學

最新批判地理學 山上萬次郎 一中 四〇三 育英書院 一、五〇
 地球の眞形、運動、時の差異及び日附の變更、地磁氣地圖學、水陸の配列等を敘述す。
 地學概論 横山又次郎 一中 二七八 早稻田大學 一、三〇
 早稻田講義録に載せたる地文學に改訂を加へたるもの。
 地球物理學 寺田寅彦 一中 二六二 文會堂 一、五〇
 地球内部の狀態に關する物理學的研究を平易に紹介したるもの。
 地學地熱の作用 井原儀 一中 四〇三 大同館 一、三〇
 地文科の參考用として地熱學の一斑を説述す。

氣象學講話 岡田武松 一中 二三四 丸善 一、三〇
 大氣、溫度、濕度、氣壓等氣象學の一斑を通俗的に講述す。
 實用氣象學 中川源三郎 一中 五四三 裳華房 三、五〇
 大氣の溫度、壓力及流動、水分、變動、天氣及氣候、天氣豫報及避害等。

日本氣候學 中川源三郎 中 四一五 裳華房 二、五〇

番號

△雨

雨、雪、雹、霰、霜、露其他に就て主なる事實と學說とを述ぶ。 岡田武松 小中 三六一五 丸 善 一、五〇

通俗潮の理 小倉伸吉 一中 一一四三 現代の科學社 〇、六〇

通俗を旨とし潮、汐の現象を説明す。 海氣と人語 若林 欽 一中 三五三四 兵林館 一、二〇

兵事、科學、通商其他各方面の海に關する雜語を集む。

△生物

生物學講話 丘淺次郎 一中 二五開成館 三、五〇

生物の食ふこと、生むこと、死ぬことに關して多くの圖を挿み平明なる講述を試みたるもの、近時出色の好著とす。

生物學の一般概念を趣味ある筆致にて叙述す。 生物學と哲學との境 永井 潜 一中 六六二五 洛陽堂 三、八〇

生物學と哲學との關係、生活現象等を研究せるもの。

○

人性論 永井 潜 一中 三七〇五 實業之日本社 二、三〇

太古の日本住民、男性美と女性美、生理學上より見たる力士、色彩と人生其他の論文を收む。

生命の起源(新知識叢書) 第七編 佐藤綠葉編 小中 一一六四 實業之世界社 〇、二〇

英、ムリア氏の生命の起源及其本質を骨子とす。

生命論 永井 潜 一中 五七〇四 洛陽堂 三、三〇

生命なる六ヶ敷き問題を成るべく通俗的に解説したるもの、改版増補。

進化の話(學生文庫) 第五編 加茂熊太郎 小中 一八二四 國民書院 〇、三五

生物進化の理を簡明に記したり。

進化論講話 丘淺次郎 一中 七五三四 開成館 三、五〇

進化論の骨髄を平易に講述せり。

人類進化の研究 丘淺次郎 小中 三四六四 大學館 一、〇〇

生物學、人類學、進化論等に關する著者の講述を蒐めたるもの。

人類の過去及未來(教育講座) 第三編 丘淺次郎 小中 二九〇三 日本學術普及會 〇、七〇

所說平易、専門學上の詳細なることは省けり。

人類の祖先(新知識叢書) 第十二編 小野秀雄編 小中 一四四四 實業之世界社 〇、二〇

ダーウイン、ヘッケル等の著書を基礎とす。

生物進化論 丘淺次郎 小中 三五〇四 大學館 一、〇〇

進化に關係ある著者の論文等を編めるもの。

三一三

番號

内観的人類進化説 玉利 喜造 一中 一三四 育英書院 〇、五〇
人體内には靈氣と邪氣とあり、此二氣の消長如何は人類進化に密接の關係あることを明らかにす。

遺傳學教科書 田中長三郎 一中 一八〇 丸山舎 〇、七五
中等程度の農學校、蠶業學校、師範學校等の教科用として著述したるもの、此種の教科書としては本邦最初のものならん。

遺傳進化學 見波定治 一中 三二三 成見堂 二、〇〇
遺傳の進化、變異を研究す。

遺傳の語(學生文庫) 山内繁雄 小中 一八三 國民書院 〇、三五
平易簡明に遺傳學の初歩を説く。

遺傳論(大日本學術叢書) 山内繁雄 一中 三五六 大日本學術協會 一、六〇
發育、遺傳と發育の細胞的基礎、遺傳の三大別に從て記述せり。

現代の遺傳進化學 阿部余四男編 小中 二九三 老鶴園 一、〇〇
遺傳學を中心として進化論、人種改良等との關係を述ぶ。

細胞と遺傳 山内繁雄 一中 二四二 大日本圖書株式會社 二、〇〇
細胞及び細胞研究上より見たる遺傳の事實に對する解釋の一斑。

人種改造學(新知識叢書) 高島素之編 小中 一四九 實業之世界社 〇、二〇
人種の進化と遺傳、淘汰、人種改造學的政策等を説く。

優生學 齋藤茂三郎 小中 二九五 不老閣 一、二〇
一名を人類の遺傳と社會の進化と云ふ、人種改良の必要を説きしものなり。

と動物

動物辭典 中西準太郎編 小中 五八二 成美堂 一、五〇
本邦産及渡來せる動物等につき分類、形態、習性、分布、稱類等を説明す。

諸官立學校動物學問題模範答案集 鶴田定方編 小中 二五二 寶永館 〇、五五
入學試験動物學問題模範答案集 明治三十三年より大正三年に至る最近十五年の問題を解答す。

參考動物學講義 山鳥吉五郎 一中 四九六 寶文館 二、二〇
中等學生の參考用。

動物學講義 上、中卷 石川千代松 二中 八八一 芳流堂 六、三〇
挿圖を多くして動物上の問題を簡單明瞭に説明す。

動物學綱要 高橋堅 一中 二六五 成美堂 一、五〇
高等專門學校程度。

動物分類表 谷津直秀 一大 二六八 丸善 一、五〇
動物の分類、類名、代表者の學名、屬名を正確に表示す。

内外普通動物誌 無脊椎 秋山蓮三編 一中 一九三 興風社 〇、四五
節足動物、軟體動物、蠅形動物、棘皮動物、腔腸動物、海綿動物。

昆虫生活(學生文庫)

昆蟲の習性と生活ぶりを説明す。

須藤 莊一 二〇五 東京國民書院 〇、三五

生物界之智囊

動物篇 松山 亮藏

中 三五二 中興館 一、八〇

動物と人生

宮島 幹之助 猿、馬、牛、犬外六種の動物と人生との關係を詳述す。

中 四五〇 南山堂 三、〇〇

杜鵑研究

川口 孫治郎 著者の實驗を主とし先進學者の説を引用して杜鵑を研究す。

小中 四〇八 寶文館 一、二〇

郭公の蕃殖に關する研究

仁部 富之助 本邦産郭公の蕃殖に關する實地研究なり、黒田長禮氏譯の歐洲産郭公の研究を附録とす。

中 九三四 日本鳥學會 〇、三五

日本鳥類圖說

附圖共 内地に棲息する一切の鳥類を圖解す。

内田 清之助 二大 五七一 警醒社 一〇、〇〇

日本鳥類圖說

續篇 内地に棲息する一切の鳥類を圖解す。

内田 清之助 一大 二六四 警醒社 四、〇〇

臺灣と朝鮮産の鳥類全部を記述せり。

必携 通俗蝶類圖說 岡崎 常太郎 主として東京附近の平地に普通なる種類を選んで簡明に圖解せりと云ふ。

小中 七八五 三松堂 〇、七〇

ち植物

新撰植物漢和字典

漢字の植物名を頭文字の畫數順に排列す。

八木 邦造 小中 二五〇 山海堂 一、二〇

植物名彙

前編 漢名之部 松村 任三編 漢名は本草藥名を主とし、經書古典より現今の俗名までを包含す。

中 四〇五 訂九 善 二、八〇

ストラス植物學

獨、ストラスブルガー等大 上卷第一册形態學、上卷第二册生理學、下卷第一册隱花植物。

三 六三一 隆文館 六、二〇

植物學講義

第七卷 本卷は植物分類學の第一なり。

牧野 富太郎 一中 一〇六 大日本博物學會 〇、四〇

植物系統學

池野 成一郎 分裂植物、粘液菌、鞭毛蟲、接合植物、綠藻、車軸藻、褐藻、紅藻、藻菌囊子苗等。

二大 八七〇 裳華房 一〇、〇〇

植物細胞及組織學講義

田原 正人 化石學講話を附す。

中 一九六 中興館 一、二〇

植物生産原理

菊地 謹彌 専ら植物生理學を述べたるもの。

中 二六〇 丸山會 一、二〇

植物の遺傳と變異

永井 威三郎 植物の遺傳及變異に關する諸學者の研究を紹介す。

中 四一〇 隆文館 二、四〇

植物の構造と生殖

石川 光春 植物の内部構造、生殖作用に伴ふ變化の有様を通俗的に記述す。

小中 二七六 老鶴園 一、〇〇

○

歐米植物觀察 三好學 一中 三四六三 富山房 一、八〇

著者の實地觀察記。

教科學生の植物界 三省堂編 小中 二八八三 三省堂 〇、五〇

摘要學生の複習用、練習用。

生物界之智囊 植物篇 松山亮藏 一中 三四六三 中興館 一、五〇

應用植物の見地より植物の用途を詳述す。

△箱根植物 神奈川植物調査會編 一小 二〇〇二 三省堂 〇、四〇

箱根の特殊植物を紹介す。

リ 地質 附考古

面白き地質現象 辻野周治編 一中 一八四三 興風社 一、〇〇

地質學上面白き材料を蒐集して平易に説明す。

實用の地質學(社會文) 神保小虎 一小 二一〇三 三省堂 〇、五〇

地質構造の實用、地面や地中に生ずる變遷、日本の地質構造と有用礦物等。

普通地質學講義 横山又次郎 一中 三九八三 富山房 二、二〇

地相、勢力を詳説す。

ぬ 礦物

日本考古學 八木英三郎 一中 三六三三 富山房 二、〇〇

我が國に於ける古物遺跡研究の結果を概括す。

教科學生の礦物界 三省堂編 一小 二〇四三 三省堂 〇、五〇

中學諸學校の複習用とす。

礦物界實驗手引 和田八重造 小中 一一四三 大日本圖書 〇、五〇

卑近なる材料に就き、礦物界を觀察するに適當なる方法。

△實用礦物學講義 岩崎重三 一中 八四八五 老鶴園 四、〇〇

前半に於ては礦物學の通論を草した後半に於て應用礦物學を講ぜり。

△大礦物學 中卷 佐藤傳藏 二大 五一四四 六盟館 三、〇〇

高等師範生徒に口授したる原稿を基礎とす。

タングステンとモリブデン 豊原信一郎 小中 一〇八五 工學書院 〇、六〇

タングステン及モリブデンの沿革、性質、定性試験と定量分析法等を述べたるもの。

△日本鑛石學 第一卷 石炭篇 岩崎重三 一中 五四二五 老麵園 二、八〇

全部を改版し石炭層、炭田の記事等をも加へたり。

有用礦物の産地及用途 吉村萬治編 小中 三四五五 丸善 一、五〇

實用金屬及非金屬礦物に就きて其用途、産地其他の必要なる事項を述べ。

第十七 醫學

い 總 記

獨和醫文獨習	村田正太編	一中	二七三	精華書院	一、七五
獨文讀本第二程度以上。					
×誰にも醫者と	杉田中司等	小中の	三二四	章文堂	一、〇〇
衛生上の心得より内外科の諸病を通俗的に説明し看護法に及ぶ。					
△獨和對譯病歴文選	野田政治編	一中	六五三	南山堂	二、三〇
獨逸語にて二百餘種の病歴を書き、一々之に和譯を附したるもの。					
理論實際臨牀叢談	菅井竹吉	一中	二九八	吐風堂	一、三〇
著者二十年間の實驗及研究の記録。					
天才論(植竹文庫第二編)	伊、ロンプロオツオ	小	三五〇	植竹書院	〇、九五
天才の特徴、天才の起因、狂天才、綜合、天才の變質的心微の諸章よりなる。					
△老人病學下卷	入澤達吉等	大	一一〇〇	南江堂	六、〇〇
老人の血行器、呼吸器、消化器、泌尿生殖器、神經性、腦脊髓、急性傳染性新陳代謝機能に關する疾患を論ず。					
臨牀症候學	角田孫一編	小中の	四九七	南江堂	二、〇〇
臨床症候による類症鑑別法。					

ろ 解剖組織生理病理醫化學

△解剖	第一 高峰博	中	五五四	金原書店	二、五〇
本卷には先づ骨、靱帶、筋脈管、神經を説く、實習用、參考用を兼ね。					
解剖生理及體育	川瀬元九郎	中	五二〇	老鶴園	二、八〇
本版には筋の作用する實例、運動の選擇、身體検査に關する注意等を加へたり。					

△組織學總論	二村領次郎	一中	三三〇	金原商店	二、〇〇
挿圖等を増加す。					

△運動生理學	吉田章信	大	六一三	南江堂	三、八〇
主として運動の身體に及ぼす諸影響に關して研究調査せるもの。					
教科學生の生理衛生	三省堂編	小	二二五	三省堂	〇、五〇
中等教科書に記載の條目を簡明に網羅せり。					

新撰生理衛生	松下禎二	中	一一八	裳華房	三、七〇
中等教育程度の學校に於ける生理衛生科受持教員の教授參考用として編纂したるもの。					
生理學講義	糸左近	中	三五六	芳流堂	一、〇〇
言文一致體にて平易に生理の一般を講ず。					

△生理綱要	岩川友太郎	中	二八六	水野書店	一、〇〇
高等専門學校程度。					

×兒童の人の身體 堀 七 蔵 一中 三一三 同文館 一、〇〇〇
 身體に關し兒童の發する疑問を簡單明瞭に説明す。
 普通生理衛生學 大森 千 蔵 一中 四一四 三 松 堂 二、〇〇〇
 人身生理衛生の概要を初學者に授く。

△最近寄生原蟲學 小 泉 丹 一中 六九八 南山堂 四、〇〇〇
 寄生原蟲の發育、分類種別等を詳述す。

△病原絲狀菌及病原酸酵菌學 里 見 三 男 一中 一六二 三 南 江 堂 〇、八〇〇
 絲狀菌、酸酵菌の形態、生理及びそれに因する疾患等を述ぶ。

△臨床必携鏡檢圖鑑 田 中 義 雄 一中 二〇一 五 博 信 社 三、〇〇〇
 寄生蟲の卵を檢査するに際し本書を参照せば其卵の何處に屬するやを鑑別し得べし。

△醫化學提要 梶 内 川 三 宗 郎 雄 一中 六五八 克 誠 堂 三、六〇〇
 醫化學の綱領を説きたり。

△ラント生理化學實驗法 佛、ベルトラン 關 根 恒 三 譯 一中 四一五 四 裳 華 房 二、三〇〇
 生物學者、醫學者、農藝化學者等の生理化學實驗指針たり。

は内科

△新内科全書 卷一 橋 本 節 齋 編 一大 八三九 南 江 堂 五、〇〇〇
 本卷は傳染病、新陳代謝疾患中毒篇とす。

△内科診斷及療法(近世臨床醫學叢書 第二編) 松 井 正 作 一中 七二八 四 近 世 醫 學 社 二、八〇〇
 實地醫家の同伴たるべき目的にて著せりと云ふ、内容簡明。

△内科治療全書 上、中卷 本 村 德 衛 等 二大 一五九 〇 三 南 山 堂 一〇、〇〇〇
 呼吸器、泌尿生殖器、循環器、血液及所謂血管腺疾患、代謝疾患の療法。

元氣 強勢 健 腦 術 金 杉 英 五 郎 小中 二二四 五 廣 文 堂 〇、七〇〇
 積極的に健腦の根本義を説く。

×腦の衛生 生 梶 田 十 次 郎 一小 二二六 實 業 之 日 本 社 〇、四〇〇
 平易に腦の健全法、養生法を述ぶ。

腦力經濟の秘訣 河 合 三 郎 一中 一四〇 四 東 亞 堂 〇、五〇〇
 通俗平易に腦力の經濟法を説く文に興味あり。

強肺 健胃法 遠 山 椿 吉 小中 二五二 五 廣 文 堂 一、一〇〇
 強肺健胃の方法即ち冷水摩擦、深呼吸、食物の注意等を説明す、言文一致の講話體なり。

強肺術と肺病全快談 杉 村 廣 太 郎 小中 四六三 三 丙 午 出 版 社 〇、九〇〇
 強肺術、肺病全快談二書の合冊。

×呼吸器對抗養生 石 神 亭 一小 一八二四 東 亞 堂 〇、六五
 通俗的に肺病の原因、養生法、治療法を説きしもの。
 通 俗 肺 病 療 法 菅 井 竹 吉 一中 一八四二 南 山 堂 〇、九〇
 結核癩の豫防法、治療法を學理と實驗上より説く。
 肺 と 健 康(社會文庫の内) 志 賀 潔 一小 二四二三 三 省 堂 〇、五〇
 肺結核の傳染徑路を明かにし其豫防法を講ず。

△心臟病診斷及治療學 吳 健 一大 五五八四 南 山 堂 三、八〇
 著者は心臟病に關する論文を提出して博士となれる人なり。

×胃 腸 の 衛 生 野 田 太 市 一小 二九五四 實業之日本社 〇、五〇
 平易に胃腸の衛生法、健全法を説く。

×家庭醫學叢書 胃 腸 病 の 話 南 大 曹 一中 一二三五 新 橋 堂 〇、六〇
 特に日本人の胃腸病養生法及胃腸病に關する一般概念を示したるもの。
 ×効驗 胃腸病食餌療法附手帳デラス 井 上 正 賀 小中の 三〇一三 大 學 館 〇、七〇
 著者の研究せる食餌の作用に依り、一切の胃腸病を治し得べき確信を以て世に問ふ。
 脚 氣 病 食 物 療 法 井 上 正 賀 小中の 三〇二四 大 學 館 〇、七〇
 食物の方面より脚氣病の原因を研究し之が療法を説く。

神經衰弱營養療法 附睡眠療法 井 上 正 賀 小中の 三〇六四 大 學 館 〇、七〇
 著者實驗の結果、神經衰弱は完全なる營養と充分の睡眠とに依りて治せらるべきものなりと云ふ。

神經衰弱の治療及健腦法 齋 藤 紀 一 一中 一六一五 南 江 堂 〇、七五
 神經衰弱の本態、原因、種類及症狀、治療法、豫防法等を力めて平易に叙述す。

×神經衰弱の話(家庭醫學叢書内) 山 田 鐵 藏 一中 一一三五 新 橋 堂 〇、六〇
 神經衰弱の本態及其豫防治療法を説く。
 神經病の精神的療法(新知識叢書) 米、マ、ル、ト、ン 小中の 一三八四 實業之世界社 〇、二〇
 誤れる習慣より生ずる煩悶を研究し其療法を説く。

△臨床傳染病論 前編 志 賀 潔 一中 四一二五 南 山 堂 二、〇〇
 本編には赤痢、コレラ、チフス等を含む、著者は傳染病研究所技師たりし人。

發 疹 チ フ ス 内務省衛生局編 一中 五四三三 南 江 堂 〇、三〇
 發疹チフスの原因症候、療法豫防法消毒法等。
 △福 原 傳染病及血清學總論 福 原 義 柄 一大 七一三四 南 江 堂 四、六〇
 大阪高等醫學校に於て、斯學の教授を擔當する著者が研究の結果を發表せしもの。

に 外 科

番號

△外科的疾患と日光療法(三輪外科叢書第十五編) 三輪 徳寛 一中 二二〇四 吐風堂 一、三〇

外科的結核其他に對し日光療法の有効なる理由を實驗其他に依りて説明す。

△傳達麻醉法(近世醫學叢書第七十三編) 頓宮 寛編 一中 九八四 南江堂 〇、五〇

神經幹を中斷して間接に手術野の麻酔を得る、所謂傳達麻醉法を各種の手術に應用する方法を説明す。

ほ 産科 婦人科 小兒科

△近世産科學 後編 山崎 正董 一大 七二四 南江堂 四、五〇

本編は妊娠、分娩、産褥の病理及療法を論ず。

新助産婦學 緒方正清 二中 九二九 丸善 四、五〇

各編に改訂せること多く、本版に於て始めて掲げたる圖譜もあり。

×妊婦必讀 安産の心得附育兒法 吉田 賢子 一中 一三八 平安堂 〇、四五

著者は婦人科小兒科専門の女醫なり。

安産のしるべ 岩崎 直子 小中 三二六 日進堂 〇、九五

著者の實地経験を主とし安産の心得を丁寧親切に説きたり。

×お産の話(家庭醫學叢書内) 吾妻 勝剛 一中 一二〇 新橋堂 〇、六〇

妊産婦の攝生及其取扱に就ての注意を述べ。

×結婚と安産 竹中 益之助 一中 二五四 博文館 〇、六〇

婦女の攝生法、妊婦の養生法、産婦の養生法、褥婦の養生法等に分ち、平易丁寧に説明せり。

×初産婦の心得 高橋 政秀 小中 二三四 東亞堂 〇、七五

平易簡明に初産婦の心得を説く。

△日本婦人科學史 緒方正清 二中 四四〇 丸善 二、八五

神代の古風より歴世の産事、女科、女科醫の沿革發達等を叙す。

家庭小兒科醫典 島崎 昭 一中 四五一 富山房 一、五〇

小兒の養育法、病狀、治療法等を細大洩らさず記述す。

珍兒科治療書 齋藤 秀雄編 小中 二八〇 吐風堂 〇、八〇

小兒の疾病治療に適切なる事項を簡単に叙述す。

△新生兒病學 笠原 道夫 一中 二七六 南江堂 一、五〇

新生兒の生理、病理、養護法、治療法を述べ。

×小兒病の話(家庭醫學叢書内) 唐澤 光徳 一中 一一四 新橋堂 〇、六〇

育兒法、小兒病の心得に關する談話を集む。

へ 眼科

△獨和眼科ワデメクーム 小川 三善編 小中 二八九 克誠堂 二、三〇

眼科學に關する獨羅兩語の紹介及び近世眼科學の綱要。

番號

△近世眼科細菌學 宮下左右輔 一中 四〇八 牛田屋 三、三〇

免疫血清學を附す。

眼と神經衰弱 前田珍男子 小中の 三一二 實業之日本社 〇、七〇

×眼の衛生 生井上温 小中の 一三二 東亞堂 一、三二

と皮膚科 花柳病科

△皮膚科 學士肥慶藏 二大 九三〇 土肥慶藏 八、〇〇

皮膚に關する解剖生理及病理。

△花柳病診斷及治療法 山旭 憲弘 倫吉 一大 四二四 南山堂 四、〇〇

本版には梅毒病原菌純培養法、腦脊髄梅毒診斷法等を増加す。

ち泌尿器科 耳鼻咽喉科

△膀胱鏡検査法 朝倉文三 一大 二一八 吐鳳堂 一、五〇

膀胱鏡の構造、臨床的應用、輸尿管膀胱鏡、腎臟機能診斷法。

△耳鼻咽喉科診察法 神尾友修 一中 二七三 克誠堂 一、五〇

診察法と類症鑑別法。

り精神病科

×耳鼻咽喉病の話(家庭醫學叢書の内) 千葉真一 一中 一七六 新橋堂 〇、六〇

素人に向つて平易に口述したるもの。

天才と狂人 伊、ロンブロッソ 小中の 三六七 文成社 一、一〇

天才の特質、天才の原因、精神病者に對する天才を論ず。

△白癡及低能兒(日本小兒科叢書第一〇編) 三宅鏡一 一中 二二〇 吐鳳堂 一、二〇

白癡の原因、病理一般、心理等に重きを措きて記述す。

ヒステリーの研究と其療法 杉江董 一中 一七四 文盛堂 一、〇〇

通俗的にヒステリーの本態を説き之が豫防治療の方法を論ず。

ぬ齒科

△口腔病理學 永澤盛 小中の 四四六 克誠堂 二、〇〇

齒科病理、口腔外科的疾患等を詳説す。

齒海の指針 北村宗一 小中の 一七五 文光堂 〇、三五

齒科試験委員及齒科醫の試験に合格したる人々の談話、答案等を編めるもの。

△齒科學說彙纂 鈴木俊樹 編 一中 四三八 齒科新報社 一、五〇

二十餘家の斬新なる學說を集む。

△齒科技工學 附齒冠繼架工學及材料治金學 稻見角次郎 盛編 一中 三四四 克誠堂 二、〇〇

齒科技工學の理論と實際とを述ぶ。

△齒科 診斷學 佐藤 運雄 一中 六七三 齒科學報社 三、〇〇

△齒科 表解叢書 高橋 謙齋 編 小中の 一三四 日本專門學校 〇、六〇

第一編齒科生理學表解、第二編齒科藥物學表解とす簡單明瞭。

△珍臨床齒科學全書 永澤 盛 編 小 一一四 日本專門學校 三、〇〇

齒科醫學の全般に涉り其要を抜きたるもの、衛生法規、試験規則を附録とす。

る 治 療

△最「レント」放射線之原理及使用法 白木 正博 一中 四一六 南江堂 二、五〇

「レント」線應用の根本的知識を得るに便す、故に電磁氣學の梗概を附せり。

△レント ドゲン 療法 藤 浪 剛一 譯 一中 三四九 南山堂 二、〇〇

レントゲン療法之理論の概略と治療術の全般を説く。

○

治療 全書 卷三、四 山谷 徳治郎 編 二大 一四九九 日新醫學社 一、二〇〇

食道、胃腸、肝臓、膵臓、腎臓、氣管、氣管技肺疾患等の治療法。

家庭治療と調劑 滑川 舜次郎 等 小中の 九一九 日本藥學協會 二、八〇

重要な各種の疾病を十七部門に分ち、各病に就て原因、症候、治療並に調劑法等を詳説す、家庭に於ける衛生思想の普及を目的としたるものなれば行文平易なり。

有效民間療法 法 伊藤 尙賢 一中 三八五 新橋堂 一、〇〇

一般治療法と藥の效能と日常食品の藥效とを述ぶ。

番 號

番 號

實驗 食療法 東京食養研究會編 小中の 三〇五 弘學館 一、〇〇

食物養生法と食物治療法とを説く。

臨床寶典 養生 松本 シカ 一中 四六六 輝文館(大阪) 一、五〇

病入料理 臨床上拾餘年間實驗の病人料理種々。

藥物諸病食餌療法 井上 正賀 小中の 二八九 大學館 〇、七〇

不用 素人の食餌療法も説く、文章平易。

斷食療法 西川 光次郎 小中の 一九二 北文館 〇、七五

斷食療法を説明し病苦に對する抵抗力を強くすること治療力を盛ならしむることを知らしめんとす。

短期斷食療法と其實效 宮原 立太郎 小 二一四 廣文堂 〇、六〇

實驗 斷食による諸病治療法を説く。

科學的病氣と食物 衛生新報社編 小中の 三二五 丸山舎 〇、七五

實驗 食餌に關する一般的研究と、病の食養に就ての記述とを收む。

轉地山と海 竹中 繁次郎 小中の 二二一 洛陽堂 〇、七〇

體質と疾病の種類に依り轉地療養には山と海の何れを選むべきかを教ふ。

を 看 病

家庭看護の栞 吉岡 彌生 小中の 四〇三 華文社 一、二〇

實用を旨とし平易に家庭の看護法を述べたり。

家庭看病法 大關 和子 小中の 二四三 日進堂 〇、八〇

主婦に向つて一通り家庭の看病心得を説きたるもの。

看護婦の試験、心得、消毒法等を収む。

看 護 婦 小池金之助 小中の 一七二 誠文堂 〇、四〇

最新看護學 岡垣松太郎 一中 四九八 丸善 一、八〇

新纂看護婦學 長尾折三 小中の 五〇九 南江堂 一、〇〇

丁寧親切に看護法を圖解す、卷首に看護婦十戒を掲げて人格修養の大切なることを説く。

わ 衛 生

△衛生試驗法 小山 散編 一中 一四八 丸善 五、五〇

空氣、土壤、水、飲食物、衣服、住所、需用品等の衛生試驗法を詳説す。

△社會衛生學 福原 義柄 一大 五一七 南江堂 三、〇〇

著者の大阪高等醫學校に於ける講義を基礎とす。

家庭衛生醫典 越澤 滿 滿 一中 四四六 大倉書店 一、五〇

家庭の日常に必用なる衛生に關する事項を網羅す。

改造科學的統一法 檢山 鏡 小中の 一八〇 研精社 〇、六〇

心身改造に關する學理と實驗を述ぶ。

簡易家庭衛生及治病 高木 兼寛 小中の 二九四 大學館 〇、八五

實用増進法、食物衛生、疾病豫防法、帽子全廢論等。

基礎健康法 日比野 寛 小 二二五 實業之日本社 〇、五五

著者の多年實行せる躰歩が身心の健康に著大なる効果あるを説きたり。

國民健康の話を 入江 彌太郎 小中の 三二四 通俗圖書中央 〇、八五

國民の心得べき衛生上、健康上に關する事項を懇切に説明す。

修養的健康法 糸 左 近 小中の 五二〇 芳流堂 〇、六五

精神上より肉體の健康法を説く。

國民保健論 米、フイシヤ、内田、嘉吉、譯 一中 四三八 民友社 一、〇〇

原書は國民の活力其の消耗及保持と題し、延命保健は國家の大問題なりとして論述したるもの。

最新健康法 全書 西川 光次郎 小中の 三二五 丙午出版社 一、〇〇

本能の教ふる健康法、光線療法、運動療法、水治療法、食養の話等あり。

通俗四季の衛生 枝元 長夫 編 小中の 四六二 弘道館 〇、八五

緒方正規氏の湯に入る時刻以下數十大家の談話を集めたるもの。

簡易實用的強健法 伊藤 銀二 小中の 三六一 實業之日本社 〇、六五

心身の緊張と弛緩より考へ出したる一種の強健法なり。

比較七大健康法 松尾 榮編 小中の 三九六 萬卷堂 一、〇〇

二木、岡田、藤田、岩佐、高野、川合諸氏及び白隠禪師の健康法を比較研究す。

實心身強健術 川合 春充 小中の 四二〇 武侯世界社 〇、九五

椅子運動法と自己療養法を附す。

立世 實 驗 心 身 鍛 鍊 法	足 立 四 郎 吉	小中の	二 三 八	興 成 館	〇、六 五
我國近世に行はれたる養生書中より古人の實驗せる心身鍛鍊の諸説を採擷したるもの。					
疾 病 と 衛 生	落 合 惣 助	小中の	四 九 三	文 明 社	一、五 〇
解剖、生理、病理療法等の一斑を記述す。					
治 病 大 博 士	鴨 田 脩 治	小中の	四 八 三	日 本 藥 學 協 會 出 版 部	一、三 〇
諸病の病原、療法、攝生法、豫防法等を通俗的に解説す。					
強 い 身 體 を 造 る 法	川 合 春 充	小中の	四 九 六	武 俠 世 界 社	一、七 〇
著者の實驗と研究とによりて身體の強健法を説く。					
抵 抗 養 生 論	高 野 太 吉	一 中	二 七 四	仙 掌 堂	一、三 〇
著者の實行しつゝある粗食按腹の原則を説く。					
日 光 浴 と 長 命 法	柳 澤 米 子 譯	小中の	二 〇 二	文 昌 閣	〇、四 〇
抵抗力の養成が即ち長命法なりと。					
體 力 無 病 生 活 法	天 野 馨 編	小中の	四 三 八	廣 文 堂	一、三 〇
身體の運動、食物の衛生、傳染病の豫防法等。					
効 驗 裸 體 身 心 剛 健 術	井 上 正 賀	小中の	三 〇 五	大 學 館	〇、七 〇
裸體鍛鍊に依る身心剛健法に就て著者の信ずるところを述ぶ。					
安 眠 術	土 田 卯 三 郎	小中の	二 八 二	實 業 之 日 本 社	〇、六 五
熟睡の必用と其方法とを通俗平易に説明す。					

安 眠 法 門	脇 眞 枝	一 中	二 五 〇	博 文 館	〇、六 五
實例を多く擧げて安眠の方法を易懇切に説明せり。					
安 價 生 活 法 額	田 豐	小中の	四 二 四	政 教 社	〇、八 五
食品經濟學にして、安價にして滋養ある食物を攝取する方法を研究す。					
安 價 食 物 の 研 究	伊 藤 正 毅	小中の	二 五 八	實 業 之 日 本 社	〇、六 五
化學的に又經濟的に食物を研究す、文章平易。					
實 驗 食 物 改 良 論	小 室 眞 咲	小中の	一 九 六	成 美 堂	〇、五 〇
食物調理法を附す。					
諸 病 滋 養 食 品 詳 説	井 上 正 賀	小中の	三 〇 三	大 學 館	〇、七 〇
x 各種の滋養食品を通俗的に詳説す。					
粗 食 主 義 蠶 勇 生 活	井 上 正 賀	一 小	三 八 五	東 亞 堂	〇、八 〇
著者の實驗せる粗食主義を鼓吹せり。					
通 食 物 講 話	澤 村 眞	一 中	四 二 四	弘 道 館	〇、九 〇
衛生上經濟上の兩方面より食物に關する事柄を詳細に説明せり。					
乾 浴 長 生 術	石 原 保 秀	小中の	一 五 四	矢 來 堂	〇、八 〇
著者は乾浴長生術の有効なるを實驗せりと云ふ。					

家庭衛生 四十より一名老人學 糸左近 一中 二八二 芳流堂 一、〇〇

四十歳以後の男女が心身の健康を保つ方法を平易に説明す。

人壽百歳以上 大隈重信 小中 二一三 眞人社 〇、八〇

百歳以上の長壽法を力説せり。

人生二百年 渡邊喜三 一中 三二五 洛陽堂 一、二〇

科學的根據より人生二百年を高唱す。

病根掃滅 長壽靈劑製法 鈴木治三郎編 小中 一七三 榮文館 〇、五〇

活力増進

メチニコロフ博士發見、乳酸の簡易製法。

不老不死 青柳有美 一中 二〇四 實業之世界社 一、〇〇

精神、肉體、食養等の方面より不老法を説き長壽者の實例を擧ぐ。

岡田靜坐 三年 岸本能武太 小中 五一九 大日本圖書株式會社 一、〇〇

著者の三年間に得たる經驗感想等を述ぶ。

×呼吸靜坐法 (體力養成叢書第六編) 伊藤尙賢編 一中 五九四 新橋堂 〇、二五

呼吸靜坐の方式、效果、修養法を簡單に説く。

縮息 心調和法 中傳藤田靈齋 小中 三二七 三友堂 一、〇〇

「心身強健之秘訣」を全部改訂したるもの、附録に數十人の本法に依れる治病實驗談等あり。

吾輩の心身頑強法 黒田清 小中 三一六 國民書房 〇、八五

一種の腹式呼吸法。

か藥學

△藥理學 林春雄 二中 九三〇 吐鳳堂 三、八〇

藥物の生理的作用を説明す。

臨最新藥一覽表 出水仁吾 一中 一五八 南山堂 〇、五〇

同 追加 同 一中 一五二 南山堂 〇、四〇

藥名、組成分、醫治効用、用量、發賣所を載せたる一覽表。

生藥學 下山順一郎 一中 三〇六 蒼虬堂 一、九〇

隱花植物の生藥類、根類、球根類及葱根類、根莖類等。

△製藥化學 下山順一郎 二中 一七五 蒼虬堂 七、〇〇

近藤平三郎氏の増訂。

日本藥草採收栽培及利用法 沖田秀秋 一中 三二四 大倉書店 一、一〇

黃連、薄荷、日本產桂皮、除蟲菊等二十餘種の栽培法と利用法とを説きたり。

藥草栽培と其研究 河川兼吉 小中 二五二 松堂 〇、八〇

藥草三百餘種の栽培を説き、其効果を學理的に研究す。

○

近世醫藥寶典 堀内彌二 滿郎 一小 三二九 牛田屋 〇、九五

ボケット 家庭用處方と調劑術 糸左近 一小 五七三 芳流堂 〇、九五

「通俗處方全集」の改訂。
改正日本藥局方註解 下山順一郎 一中 一七七三 蒼虬 漸 六、〇〇

解釋は各藥品の來歴、製法、性状、實性反應、應用、貯法の諸項に分つ。
藥種商全書 山吉木川一 伴 一小 六〇四 藥業之友社 一、八〇

藥劑、藥品、法令の三篇に別つ。
臨床漢法醫典 井上香彦 一小 一四四 大正醫報社(京) 一、〇〇

著者多年の經驗に依り漢法醫の療病法、處方等を口述せるもの。
臨床新藥集 川口孝純 一小 七二六 吐風堂 二、二五

實地醫家の臨床的參考書。
明治の藥學發達史 藥事新聞社編 一小 二〇九 藥事新聞社 一、〇〇

明治年間藥學進步の光輝ある事蹟。
第十八工學 (工學ノ應用ニ關スルモノハ第二十二產業ノに工業ヲ見ヨ)

い 總 記

番 號

△理論 應用計算尺精義 野津正忠 一小 四三九 丸 善 一、五〇	△工 業 數學 深井宗吉 一中 六二二 老鶴園 三、〇〇	△技術 高等數學 大竹太郎 一中 三五八 電友社 一、八〇	△電氣 高等數學 入門 大河内治 一中 三五五 電氣工學講習會 一、三〇	△電氣 事業主任技術者資格試驗三級以下の愛驗者等に適す。	△機械 電氣實用數學 宮崎忠保 一小 二七五 敬文館 〇、七〇	△工 科の學生及實地從業家の適用例題及演習問題を多く出しそれを解釋す。	△應 用力學 第二編 田中不二 一大 二六七 丸 善 二、五〇	△解 析力學 中卷 重光 一 中 四一三 丸 善 二、〇〇	△質 點動力學之部。	製圖 圖便覽 松尾哲太郎編 一中 一四七 博文館 一、四〇
-------------------------------------	---------------------------------	----------------------------------	---	---------------------------------	------------------------------------	--	------------------------------------	----------------------------------	---------------	----------------------------------

中機 械 製 圖 法 後 藤 政 雄 一 中 三三四 博 育 堂 一、二〇
 機 械 製 圖 の 方 式 と 機 械 の 部 分 の 設 計 法 一 般 を 説 く。
 詳 用 器 畫 法 講 義 山 崎 靜 太 郎 一 中 三三五 尙 文 館 一、五〇
 中 等 程 度 以 上。

ろ 土 木

近 世 基 礎 工 學 長 崎 敏 音 一 中 二二四 高 田 書 店 一、三〇
 各 種 基 礎 工 事 を 網 羅 し 卑 近 の 算 式 を 平 易 に 解 説 す。
 近 土 木 學 要 覽 上、中 卷 長 崎 敏 音 二 小 一三一 八五 大 倉 書 店 四、五〇
 測 量、製 圖 法、工 業 數 學、材 料、力 學 並 構 造、施 行 法 等 に 分 る。
 新 土 木 工 學 全 書 第 四 卷 中 村 猪 市 信 一 中 五三〇 工 學 社 二、五〇
 本 卷 に て は 鐵 道、施 工 法、森 林 土 木、架 空 索 道 等 を 講 ず。
 △ 土 木 工 學 上 卷 川 口 虎 雄 等 一 中 五〇八 丸 善 二、五〇
 熊 本 高 等 工 業 學 校 教 授 諸 氏 の 講 述 な り。

△ 鐵 筋 混 凝 土 工 學 阿 部 美 樹 志 一 中 四二四 丸 善 二、五〇
 鐵 筋 混 凝 土 に 關 する 理 論 を 述 べ 又 其 應 用 を 示 す 爲 に 設 計 と 計 算 實 例 を 多 く 掲 げ たり。
 △ 實 地 應 用 鐵 筋 コ ン ク リ ー ト 工 學 瓜 生 康 一 一 中 五〇〇 博 文 館 二、三〇
 特 に 應 用 の 方 面 を 詳 述 せ り。

△ 鐵 筋 混 凝 土 ノ 理 論 及 其 應 用 上 卷 日 比 忠 彦 一 大 七六六 丸 善 五、五〇
 鐵 筋 混 凝 土 の 歷 史、應 用 の 範 圍 等 を 説 き、殊 に 其 算 法 に 關 して は 多 く の 圖 表 を 添 へ たり。

最 鐵 道 工 學 講 義 第 六、七、八 卷 坂 岡 末 太 郎 三 中 七八〇 裳 華 房 四、四〇
 車 輛 論、鐵 道 經 濟 論、鐵 道 力 學。
 △ 鐵 道 鐵 道 關 於 高 木 太 郎 一 中 三二二 共 益 商 社 一、五〇
 鐵 道 に 關 する 概 念 を 初 學 者 に 與 へ ん と す る も の 。

標 橋 梁 仕 樣 書 關 場 茂 樹 編 一 中 一六八 丸 善 一、二〇
 橋 梁 の 設 計、材 料 及 製 作 の 仕 樣 書 を 記 し 既 設 橋 梁 の 檢 査 或 は 修 理、改 造 等 に 關 する 概 略 仕 樣 書 を 附 加 せ り。

△ 治 水 岡 崎 文 吉 一 中 五九八 丸 善 二、七〇
 河 川 の 成 因 及 森 林 と の 關 係 等 を 説 き 治 水 の 方 法 を 詳 論 す。
 △ 水 力 土 木 工 事 設 計 計 算 之 棗 佐 々 木 恒 太 郎 一 中 二六六 丸 善 一、五〇
 桂 川 電 力 水 路 工 事 中 隨 時 記 録 せ し も の を 骨 子 と す。
 △ 理 水 及 砂 防 工 學 本 論 諸 戶 北 郎 一 中 二八八 三 浦 書 店 一、七〇
 砂 防 工 事 設 計 の 任 に 當 る 技 術 者 の 參 考 用 。

工事請負實務 如中 健三 一小 三五八 大倉書店 一、〇〇
 民法上に於ける請負の意義を論じ、請負者の心得べきあらゆる事項を簡明に説明せり。
 建築工事請負便覽 如中 健三 編 一小 五四〇 大倉書店 一、七〇
 工事請負者の豫算調製參考書。
 土木施行便覽 岡崎 保吉 編 一小 四四一 博文館 一、一〇
 現場經營施行、材料、器具機械及び計算表便覽。

は測量

△君大 測量學 君 島 八郎 二中 六七一 丸 善 四、六〇
 地形測量、路線測量、氣壓測量、三角測量、隧道測量、河川測量、海洋測量及寫眞測量。
 實曲線測量 必携 毛利 元照 一小 一九六 大倉書店 一、二〇
 面倒なる計算の勞なくして半徑の曲線も布設し得るゝ法。
 土木簡易測量法 小澤 啓太郎 一小 一四六 辰文館 〇、五〇
 設計 初學者の爲に各種の地形を簡易なる器械にて測量する方法を説く。

に機械

機械工學要覽 八田 志津馬 編 二小 三四五 工業評論社 一、三〇
 著者は學識と經驗とを有する人、機械工學に關する知識を網羅す。
 英和機械用語彙 中 村 豊 編 一小 二〇四 工友社 〇、四五
 對照 機械特に船用機關に關する用語を英和對照にて編纂せり。

機械製作法 秋月 源太郎 一中 二五八 大日本工業學會 一、〇〇
 一般普遍的の材料にて實際製作の方法を説きたり。

△表 機械設計及計算 樹田 喜一郎 一中 六八〇 信友堂 二、八〇
 機械を設計し計算するに當り必要なる公式、數表等を秩序的、實用的に排列す。

機械見取 武山 庄太郎 一小 一九四 工學書院 〇、九五
 簡單なる機械見取及機械製圖の好資料。

△機 構 學 丹羽 重光 一中 四〇二 丸 善 二、五〇
 機械各部の動き方を研究す。

△水 力 機 械 學 伊藤 萬太郎 二中 六〇六 丸 善 三、四〇
 水力學の一般と水車唧筒及水壓機を説く。



△瓦斯及石油機關 内丸 最一郎 二中 五一六 丸 善 四、四〇
 著者最近歐米に留學し彼地に於ける斯業の現狀に鑑み此書を改訂せりと云ふ。

瓦斯機關使用者の顧問 内山 大一郎 一中 一九〇 工學書院 一、五〇
 瓦斯機關の解剖説明、取扱の注意、故障の修理法等を説く。

△瓦斯 タービン 小野 信雄 一中 一七三 宮山房 一、二〇
 瓦斯タービンの構造、實驗、理論等を説く、行文明快。

△瓦斯發動機と瓦斯力發電所 永雄 節郎 一中 三八〇 丸 善 二、二〇
 發電所に用ゐらるゝ瓦斯石油發動機の重なるものを説述すること詳細なり。

ガソリン 發動機 點火法 奥泉 欽次郎 一小 三六九 極東書院 二、二〇

△汽 點火装置の電壓、高壓點火の装置、高壓點火に用ゆる磁石發動機其他。 罐 關口 八重吉 二中 六七五 弘道館 四、〇〇

汽罐の構造、作用及び我國に於て實驗せし事項。 縮機 關車 大辭典 今井芳磨等編 一中 七九三 工友社 鐵道機關車に關する術語を網羅して原語發音の五十音順に排列し譯名を附し一々之が意義構造上の解説及び取扱法等を詳説せり。

△サク シ ョ ン 瓦斯 内山 大一郎 一中 訂三七三 工學書院 一、八〇

實用 瓦斯 便覽 内藤 游 一小 三九四 善 二、三〇

△蒸 汽 タ ー ビ ン 内丸 最一郎 一中 訂三七二 善 二、八〇

著者最近二ケ年間歐米諸國に留學して得るところあり改訂増補第六版を出せり。 用蒸 氣 タ ー ビ ン 機 島谷 敏郎 一中 四二五 萬山房 二、二五

△船 汽 機 圖 集 汽罐 關口 八重吉編 二中 二四〇 大日本工業學會 一、〇〇

汽罐、汽機の兩圖集とす、初學者用。 ガソリン 自動機 自働 車 星 子 男 一小 二九四 モーター雜誌社 一、五〇

自動自轉車の種類、價格、構造等を詳細平易に説明す。 自動自轉車 奥泉 欽次郎 一小 三六二 モーター雜誌社 一、五〇

△自 動 艇 生島 莊三等 一中 五一六 大倉書店 三、〇〇

自動艇の構造及設計、發動器及推進機、快走帆及競争艇等を説明す。 航 空 機 講 話 田中 館愛橋 一中 一五六 富山房 一、〇〇

某所に於ける講演の筆記、航空機發達の状況、氣流の研究、發動機等。 飛行機 及 自働車 上卷 金井 武一 一中 四二七 千城堂 四、五〇

飛行機及自動車の機關部に關する諸問題を根本的に解決す。 飛行機之實地設計 金井 武一 一中 二〇四 日本飛行研究會 一、五〇

一般の人に向つて飛行機の原理、設計等に關する知識を與へんとするもの、發動機の故障及修繕法を附す。 飛行機 ルム プラー 及其機關 尾崎 行輝 一小 一三〇 國民書院 〇、四〇

ルム プラー 式飛行機及發動機等を解説す。 模型飛行機之研究 中川 健二 一小 四〇五 日本飛行研究所 一、五〇

各種の模型飛行機を圖解す。 ○ 快 行 十 年 吉田 禎治 一中 二七四 良明堂 一、一〇

飛行事業の概説及其歴史。

征

- 飛行船、飛行機、發動機、飛行術等に就て興味中心の説明を試みたるもの、繪多し。 二二四 武俠世界社 一、二〇
- 墜落の日まで附飛行機講話 星野米三 小中 三〇四 大成堂 〇、六〇
- 著者が米國飛行學校に入りしより大正三年秋東海道にて墜落負傷せるまでのことを叙す。
- 日記 米、ス、ミ、ス 小中 二一八 新橋堂 〇、八〇
- 著者の日本に於ける於ける飛行記事及印象記を収む。
- 飛行機ロオマンズ 倉富砂邱 小中 三三八 平和出版社 一、〇〇
- 日本最初の飛行以下今日に至る飛行界の出来事を記述す、文に興味あり。

ほ電氣

- 川電氣工學 中、下、卷 荒川文六 二中 一三〇九 丸善 五、〇〇
- 交流電氣鐵道、原動機一般、發電所及び變電所等に關する説明。
- 最新電氣工學通解 佐伯順太郎 一中 四三三 尙榮堂 二、〇〇
- 電氣工學の一般を通俗平易に解説す。
- 電氣工學 附機械工學編 工業研究會編 一中 四〇八 成光館 一、八〇
- 電氣工學の一斑を通俗に記述す。
- 電氣工學重要問題解答 今江島清角 一中 二五七 大日本工業學會 一、〇〇
- 磁界、靜電界、抵抗等に亘り各二十題乃至六十題位を収む。
- 電氣工學入門の栞岡義明 四中 四八四 稻妻會(大阪) 一、三八
- 言文一致體にて通俗的に電氣工學の一般を説明す。

電氣ポケットブック 若目田利助編 一小 一九一六 建築書院 五、〇〇

電氣工業力學(電氣工學初等) 建築書院編 小中 二二二 建築書院 一、五〇

電氣事業主資格檢定試験問題解説 電機學校 一中 三五〇 電機學校 〇、五〇

最新電氣の話 袴田集義 一中 三〇八 東亞堂 一、六〇

電氣の利用(常識叢書) 石井民司 一小 一二四 敬文館 〇、二〇

電氣通話 青柳豊三 一中 四〇二 大日本工業學會 一、六〇

電氣工業業 中澤重雄 一中 二二五 博愛館 一、二〇

電氣學の原理と工業的應用とを簡明に記述す。

○

現電氣事業法規 電氣新報社編 一小 四一九 電氣新報社 〇、六〇

電氣事業に關係ある法規を網羅す。

電氣法令集 電友社編 一小 四六四 電友社 〇、四〇

實地工學に應用したる **初等電氣磁氣學** 小林 薫 小中の 一六〇 以文館 〇、六〇
 靜電氣、電流、磁氣に關する一般の知識を得るに適當の書。
 △波動振動及避雷 (鳳氏交流工學理) 鳳 秀太郎 一大 五一八 丸 善 四、五〇
 電壓の非常昇騰、保護裝置等は特に力説せり。

誰にも 簡易モートルの製作及其取扱法 岡崎 順二郎 小中の 二〇四 以文館 〇、六〇
 出来る 實物圖解にて平易に電動機の構造、製作法、應用範圍等を解く。
 誰にも 小型發電氣の製作及其取扱法 大日本電氣研究會編 小中の 一八三 大日本電氣研究會 一、〇〇
 出来る 電氣學の一般を了解せしめ次に各種の小型發電氣作製法を説明せり。
 誰にも **電氣モートルの説明** 電氣モートル研究會編 一中 二二六 電氣モートル社 一、四〇
 分かる 電氣モートルに就ての通俗的説明。

蓄電池工學 高山 佐綱 一中 一九七 電友社 〇、八〇
 蓄電池に關する一般的の理論及應用を叙述す。
電氣機械及器具 加藤 靜夫 一中 四〇一 電氣工學講習會 一、五〇
 直流機、同期機、誘導電動機、廻轉變流機等を説明す。
 △電氣機械器具 大鷹 恒一 二中 四三六 電友社 二、二〇
 電氣機械器具の性質及取扱方等を圖解せり。

△電機設計法 中條 清三郎 二中 六三六 丸 善 三、七〇
 直流機、變壓器、交流機、誘導電動機に關する説明。

△内燃電氣着火裝置 金子 五郎 一中 一五八 大日本工業學會 一、〇〇
 電氣着火裝置の原理、構造、性質等を平易に解説す。
電線製造法 (工業叢書ノ内) 田中 宗一郎 小中の 四八四 博文館 二、〇〇
 主として重要な護謄被覆電線の製造法を叙述す。
 ×電熱器の作り方 (電氣及瓦斯叢書第一編) 小山 憲次 小中の 六一四 電氣及瓦斯社 〇、一五
 電氣を應用する熱器の作り方を通俗的に説明せり。

誰にも **實用電氣玩具製作法** 入舟 勝治 小中の 三六八 大日本電氣研究所 一、五〇
 できる 種々の電氣應用玩具製作法と、玩具用調劑法、用品類を説明せり。
 應用 **簡易電氣玩具の製作法** 帝國電氣學協會編 小中の 一三五 修學社 〇、五〇
 自在 中學初年級程度の人にも理解し得るやうに説明せり。

自家用發電所設備工事法 編 林 鏡二 一中 五〇三 電陽社 一、六〇
 發電氣機と其運轉を附す。
水力電氣工事編 (土木叢書ノ内) 井上 福一郎 小中の 三五三 建築書院 一、五〇
 著者の實驗に鑑み各種の實例を掲げ公式の應用より設計仕様等を明示し實用を旨として記載せり。

番 號

水力發電所及變電所之設計 朝倉元次 中 三一〇 大日本工業學會 一、〇〇
著者水力發電所及變電所の實地設計をなしたる經驗を基礎とし、作業者に講義せる材料に加筆せるものなれば所説平易、圖多し。

電力輸送(電氣工學初等叢書第二編) 建築書院編 小の 二五九 健築書院 〇、五〇
電力輸送の概念を平易に説明す。

配電法 勝守莞二 一中 二二七 電氣工學講習會 一、〇〇
中等以下の技術者に適するを目的とし意義周匝なり。

發電所及原動機 素木勲一 治中 四一四 電氣工學講習會 一、六〇
蒸汽發電所、瓦斯及石油發電所等を多くの圖又は寫眞を挿みて丁寧に説明せるもの。

×電燈(常識叢書) 石井七民 司小 一四四 敬文館 〇、二〇
一讀直ちに了解し得るやう通俗的に電燈を説明す。

△電燈及照明 福田豐 二中 七二四 電友社 二、八〇
電燈及照明の研鑽。

實地工學に簡易無線電信機の製作法 河喜多能直 小の 一一四 以文館 〇、五〇
應用したる簡易無線電信機の製作法 多少電氣學の知識ある者は直ちに製作するを得べしと云ふ。

×通俗無線電信 米村嘉一郎 小の 五四 電友社 〇、二〇
簡明に無線電信の何たるかを了得せしむ、著者は銚子無線電信局長なり。

通俗無線電信と無線電話 北村政次郎 中 一八二 實文館 〇、四五
津守英五郎 中 一八二 實文館 〇、四五
電氣磁氣、電波に關して略説し次に無線電信の送信受信装置、應用及無線電話に就て平易に解説せり。

△鳥瀉無線電信電話 鳥瀉右一 一中 七五三 實文館 三、五〇
無線電信及電話の沿革、原理等を詳述す、著者は斯界の權威なり。

無線電信及無線電話 英、ギブソン 中 二七四 文明書院 一、二〇
關澤三吉譯 中 二七四 文明書院 一、二〇
數多の圖を挿みて専門家以外の人にも無線電信、電信に關する一般的知識を得せしむ。

無線電信電話のはなし 横山英太郎 小の 二四三 電友社 〇、七〇
無線電信及電話の技術と事業の一斑を通俗的に述べ、某所の講演を骨子とす。

誰にも電話機の製作及通話法 西田順一 小の 一九二 以文館 〇、六〇
できる(通俗電氣學叢書第六) 學理を平易に説明し構造を簡明に解説す。

電話 若目田利助 一中 四〇一 電機學校 一、六〇
電話に關する理論及應用を詳説す。

電話通信詳解 康坊生 小の 一七八 兵事雜誌社 〇、五〇
兵庫用の電話及其通信法、戰術上の使用法、通信手教育に就て記述す。

△電話の理論と其應用 利根川守三郎 大 三八三 丸善 三、〇〇
此種の著書としては最も信據すべきものゝ一ならん、著者職を通信省に奉じてより十有八年、各地に轉任せるも未だ一日も電話事業を離れず、今は電氣試験所長たり。

番 號

電氣鐵道(電氣學校叢書第十卷) 電機學校編 中 三九七 電機學校 |
 軌道、歸線、電車線、車輛、電動機、制御器、電車内設備等を説明す。

建築

建築仕様見積 河津全七郎 中 三三四 大日本工業學會 〇、八五
 著者多年の経験を基礎とし丁寧に講述せるもの、初學者の好参考書たるを失はず。
 建築雜誌(趣味叢書) 黒田朋信 中 三二八 趣味叢書發行所 一、〇〇
 建築に關する著者の評論、感想を集む。
 住宅建築 建築世界社編 大 四六三 建築世界社 三、〇〇
 住宅の外観及室内の寫眞、諸大家の住宅に關する記事、間取圖、住宅設計圖例を收む。
 懸賞住宅設計圖案 佐藤功一編 中 一〇〇五 大倉書店 三、〇〇
 報知新聞社に應募したるものに他のものを加へたる大小百圖。
 西洋建築應用圖集 入口窓之部 近藤彰美 大 五〇四 大倉書店 一、〇〇
 實地應用の參考用集にて五六回を重ねて完結せんとすと云ふ。本巻には専ら窓口の部のみを收む。
 東京百建築 黒田朋信編 大 一四二 建築叢報社 三、〇〇
 明治初年より大正三年までに竣工したる、東京の各種建築寫眞百箇を收む。
 日本住宅の保全と諸什器取扱法 杉本文太郎 中 二二六 建築書院 二、〇〇
 記述平明、附録室内裝飾法心得あり。

美術建築圖譜 建築圖譜社編 大 四〇〇 建築圖譜社 五、六〇
 外國及日本の寺院、宮殿、官署、會社、銀行、其他一個人の住宅等總て美術的建築物の圖集。
 洋建築設計圖會 遠藤於菟 大 九〇三 大倉書店 二、三〇
 住宅、銀行會社向き等三十圖。

近世建築用材料 上卷 野呂長四郎 中 二七三 須原屋 一、〇〇
 專ら初學者の爲に編纂せるものにて記述平明。
 本邦産木材及石材 第一編 大藏省臨時建築部編 中 八七一 建築世界社 四、〇〇
 木材の調査種目、理學的試験及其成績等。

雜木最新家具製作法 木繪 恕一 大 八六四 博文館 七、三〇
 なら、ぶな、たぶ、くり等の木材を利用する家具製作法。
 室内裝飾家具製作圖 第一輯 木繪 恕一 大 一〇三 大日本工業學會 一、八〇
 主として一般洋風家具の製作圖法を考究し、進んで家具製作の改善に資せんとすと云ふ、本輯には桌子及椅子類、棚及箆笥類、各種臺類を收む。

と鑛業

鑛山測量必携 畑中健三 中 三八八 大倉書店 一、七〇
 實地鑛山測量家の携帶に便なる袖珍書なり。

△探 鑛 學 山口 義勝 二中 一〇九六 丸 善 五、八〇

△探 鑛 設計 内田 鯉五郎 一中 三一二五 博文館 一、七〇
捲揚、排水、運搬及通風設備等の設計を實例を加へて説明す。

○ 改正鑛業法規新釋 日本鑛業調査會編 一中 三六二二 廣文堂 一、八〇

鑛業 法 釋 義 阪本 三郎 一中 二七八九 丸 善 五〇
鑛業權、鑛業、土地の使用、鑛業警察、鑛夫、鑛業税、鑛業に關する救済、鑛業に關する罰則等の各章よりなる。

○ 英國 炭 坑 事情 君塚 淺次郎 一中 四二五三 君塚淺次郎(連) 二、五〇
主として英國炭坑の組織及其事務取扱事情等を述べ。

石炭 採 掘 法(工業叢書) 内田 鯉五郎 一中 三二八三 博文館 一、〇〇
土砂充填法及び採炭機の使用に就ては特に詳しく説明せり。

常 磐 炭 鑛 誌 山野 好泰編 一中 三〇七五 帝國新報社 二、五〇
常磐地方各炭鑛の沿革、現状を詳叙す。

○ 最 實 用 冶 金 學 武藤 弘太郎 一中 二四六三 大倉書店 一、五〇
斬新なる冶金法及燃料に就て其大體を説明す。

△鑛 産 物 工 業 分 析 法 船 木 勝三 一中 六一六四 富山房 二、五〇
金屬、酸等の分析法を詳細に説明せり。

鋼 鐵 製 造 術 上 卷 飯 島 慈男 一中 二五〇四 丸 善 一、八〇
製鐵所内職工養成所の講義を骨子とせるものなれば平易を旨とす、圖多し。

△最 新 簡 易 製 鐵 術 向 井 鐵吉 一中 二〇八四 丸 善 二、三〇
製鐵法と其作業方法及順序等を述べたり。

△鐵 及 鋼 の 組 織 並 其 應 用 宮 崎 茂三編 一中 三〇六四 大日本圖書 一、五〇
鐵及鋼の組織と其應用とを丁寧に圖解す。

△銅 鑛 製 煉 法 坪 井 美雄 一中 五〇二四 丸 善 三、〇〇
著者は小坂鑛山技師にして、内容は實例を引き來れるもの多く、實地に從事する人々の好參考書なり。

第十九 兵 事

い 總 記

軍 人 寶 鑑 高木 尙介編 一中 八〇六三 富山房 一、〇〇
詔勅を首とし陸海軍制の大要、武將烈士碩學鴻儒の箴言等を集む。

△最新兵 役 稅 論一名兵役の神髓 升田 憲元 一中 四〇一 東京堂 一、二〇
 兵役稅の利害得失を論ず。
 陸海軍出身案内 大導 寺 啓 小中の 三〇三 東華堂 〇、三八
 附録として陸海軍諸學校試験問題集及參考書を掲げたり。

壯 丁 讀 本 田 中 義 一 一中 一三四 丁未出版社 〇、三五
 軍事の精神と知識との大體を了解せしめんとするもの。

田 中 中 將 講 演 集 田 中 義 一 小中の 三五五 不二書院 〇、九〇
 國民と軍隊、在郷軍人心得、現役兵教育と壯丁教育等三十一篇を收む。

現 代 空 中 戰 山 中 峰 太 郎 一中 三五〇 文淵堂 一、二〇
 航空機相互の空中戰、天空對地上戰闘、對敵飛行論、夜間飛行、海戰と航空機等。

現 代 の 戰 略 及 戰 術 本 間 德 次 郎 一中 二九六 博文館 〇、七〇
 戰略及戰術の根本的意義を平易に詳述す。

處 世 孫 子 講 話 中 編 塚 原 蜻 一 中 二二三 服部書店 〇、七五
 一句づゝ詳解す。

名 將 之 戰 略 上 卷 岡 谷 繁 實 一中 五〇七 國民タイムス社 二、一〇
 北條、毛利、武田、上杉、織田、豊臣、徳川其他數十氏の戰略を蒐録す。

城 郭 之 研 究 (歴史講座 第三編) 大 類 仲 一 小 三一〇 日本學術普及會 〇、八〇
 著者の博士論文は城郭の研究なりしと云ふ、本書は歴史の方面的の研究なり。

戰 争 と 城 塞 (社會文庫ノ内) 大 類 仲 一 小 二四八 三省堂 〇、五〇
 戰爭に於ける城塞の價値を述ぶ。

列 強 大 要 塞 戰 松 久 浦 次 郎 小中の 三二〇 秀文堂 〇、七五
 旅順、セダン、巴里、セバストポール、ブレヅナ、青島の各要塞戰を叙す。

ろ 史 傳

大正三四年戰役 忠 魂 錄 海軍水交社編 一中 二五四 春陽堂 一、〇〇
 海軍戰死者

大正三四年役に戰死又は公務の爲に瘞れたる士官以上の人々の傳記。
 陸 海 軍 人 物 史 論 安 井 正 太 郎 一小 五〇九 博文館 一、二〇
 太陽誌上に掲載せられたる陸海軍人物評論を纏めたるもの。

陸 軍 現 役 將 校 實 役 停 年 名 簿 陸 軍 省 編 一中 一七八 小林又七 一、二〇
 陸軍 同相當官

大正五年七月一日調。
 陸 軍 豫 備 役 後 備 役 服 役 停 年 名 簿 陸 軍 省 編 一中 一八八 三秀舎 一、五〇
 陸軍 將校同相當官
 大正五年七月一日現在。

小從軍 敵軍 三敵年 濫川柳次郎 一小 九八〇五 甲陽堂 一、三〇
 從軍三年は日露戦役從軍中の隨筆集、小敵大敵は日獨戦役從軍の見聞録。
 戰場秘話 錦貫仁門 一小 三七三五 博文館 〇、四八
 三十七八年戦役に於ける興味多く教訓に富める戦歴談を輯録す。

獨逸 エムデンの奪戰 獨、ミヌツケ 小中 二二二五 如山堂 〇、七五
 青島を脱出して隨所に暴戻を擅にしたるエムデン號の奮闘振りを、其副艦長たりしミヌツケ大尉の手記したるものなり。

歐洲戦争日録評論 第二、三卷 三宅覺太郎 二中 一七六三 報効學會 五、〇〇
 千九百十五年一月より十二月末に至る日日の戦況を評論したり。

歐洲の動亂 附青島及印洋 惠美孝三 一中 四九六五 日本時報社 一、六〇
 歐洲動亂と最近國際問題、大戰亂の波動等を叙し最近大戰亂の進行を増補す。

歐洲動亂史論 吉野作造 一中 五七四四 警醒社 一、八〇
 今回の歐洲變亂の由来を知らしむるを目的とす。

自國を誤り 獨逸の主戰論 獨、ベルンハルデイ 一中 四九〇三 早稻田大學 〇、九〇
 世界に災せる 獨逸の第七軍團長たりし陸軍中將にして開戦の必用を絶叫す、故に此書は今回獨逸の大戦亂挑發の眞意、理由及根據等を詳にすべき無二の好資料なり。

戰線に立ちて 獨、ヘツケル 小中 二九二五 至誠堂 一、〇〇
 一名を獨逸の肉弾と云ふ趣味ある從軍記。

蹄 響長崎 武一中 三一〇五 厚生堂 〇、八〇
 騎兵聯隊の旗手として参加せる著者の青島戦記なり、武人としての文才を見るを得べし。

獨乙從軍記 瑞、ヘデイ、ン等 小中 二四〇四 大倉書店 〇、八〇
 日本には耳新らしき獨乙側の状況多し。

獨逸と次の戦争(時事叢書第八編) 獨、ベルンハルチ 小中 一三一三 富山房 〇、二〇
 原書より四章だけを抄譯せるもの。

露西亞の戦線より 大庭景秋 小中 三一四四 富山房 〇、九〇
 著者が新聞記者として露軍に従ひ其觀察を述べたるもの。

は陸軍

現代の戦争 寺田幸五郎編 小中 一五二五 現代之科學社 〇、四五
 現時の陸軍の事を平易に説明したり。

兵營の新兵の生活 池田福外 小中 三三八四 興成館 〇、六五
 裏面 趣味ある筆致にて兵營の眞相を描けり。

最新帝國陸軍の内容 寺田幸五郎 小中 二九六五 武藝社 〇、八〇
 解詳 陸軍の一斑を平易に解説す。

兵營生活 平井正道 小中 三一〇五 東亞堂 〇、六〇
 兵營生活の實情を述べ、著者は陸軍歩兵少佐なり。

に海軍

海上の威力 木村定太郎 一中 二五八三 嵩山房 一、二〇
 著者が海上生活中の感想を記し青少年に海事思想を鼓吹す。

海上の日本 川島清治郎 中 六八三 二 西社 二、三〇

雁の叫び 肝付兼行 小 三八四 弘學館 一、〇〇

主として海軍思想を鼓吹せる著者の講演集。

最新列強國海軍 鹿井千太郎 中 三九五 扶桑書院 一、五〇

最新列強海軍の政策、現状、兵數等を叙し日本海軍の將來を論ず。

少尉になるまで 中島武 小 三三五 畫報社 〇、五五

海軍兵學學校より少尉になるまでの自叙傳、見聞談。

ほ兵器

世界の武器(社會文庫) 青木保 小 二八〇 三省堂 〇、五〇

現代武器の各班に涉り之を通俗的に圖解したるもの。

鑑定刀劍辭典 清水桶村 小 六〇八 日進堂 一、八〇

秘訣 鑑定部類、刀匠部類に分ち、比較的古刀を詳説して新刀を簡にす。

刀劍一夕話 高瀬羽卓 小 三〇二 富山房 〇、八五

刀劍に關する雜誌集、問々著者の新主張を發表せるところあり。

縮刀劍鑑定備考 高瀬羽卓 小 二五四 富山房 〇、八五

初學者の爲に刀劍鑑定の秘訣を説けるもの。

珍刀劍研究 木阿彌光遜 小 一九七 日本刀研究會 〇、五五

刀劍の沿革、部分的説明、各流派の長所、刀劍の傳系及特徴等。

日本刀 木阿彌光遜 中 八〇〇 大倉書店 三、〇〇

刀劍の沿革、特徴、鑑定の要訣等。

第二十 美術 音楽

い美術

一總記

趣味叢書 黒田朋信編 小 四 趣味叢書發行所 一、二、四〇

第三、四編 日本美術史講話 黒田朋信 第五編 古美術行脚 黒田朋信

第七編 畫室にて 南薫造 第八編 ラスキンス抄 英、ラスキン

第九編 家と人と 山崎静太郎 第十編 青山よ 黒田朋信

第十一編 藝術家と藝術運動 森田龜之輔 第十二編 美術と社會 岩村透

美術叢書 美術叢書刊行會編 小 五 美術叢書刊行會 一、八〇

第一編 宗達と光琳 春山武松 第二編 圓山應舉 姑射良

第四編 池大雅 相見繁一 第五編 文展十年 青木小四郎編

美術叢書 向陵社編 小 五 向陵社 一、二、五〇

第二輯 西洋美術史 英、ブラウン 第三輯 埃及美術史 英、ベトリ

第四輯 日本美術史 英、ディック 第五輯 日本版畫史 佛、ザイドリツク

第六輯 印象派の畫家 佛、モークレー 第七輯 埃及建築史 英、山徹郎

第八輯 立體派及び後期印象派

米、エッディ 久米正雄譯

第九編

印度美術史

英、クイラスリ、蘇岩、武崎、武線、武郎譯

藝術解剖學 中村鉦太郎(不折) 一中 一八五四 日本美術學院 三、〇〇

裸體畫研究の基礎たる藝術解剖學にして、主に骨及筋に就て詳説す。

藝術之起源 芬、ヒル 本間久雄譯 一中 四五四 早稻田大學 一、八〇

藝術の製作乃至享樂が個人的生活の要素に對して如何なる關係あるかと云ふ問題を中心として研究論述せるもの。

泰西の繪畫及彫刻 繪畫編 洛陽堂編 二中 二〇二 洛陽堂 二、六〇

第一卷はジオットオ、マンテナリア、リオナルドオ、ミケランヂエロ等、第二卷はゴヤ、ドラクロア、クルベール、コロ、ミレ、ドミエ、マネー、ロートレク等の作品を集む。

泰西の繪畫及彫刻 第三卷 洛陽堂編 一中 一〇五 洛陽堂 一、六〇

後期印象派と稱せられたるセザンヌ、ゴッホ、ゴッガン及英國に於て注意せられたるジョーン等四家の作品。

泰西の繪畫及彫刻 第四卷 洛陽堂編 一中 六〇五 洛陽堂 一、六〇

本卷には現代の名家即ち佛のルドン、獨のホフマン、塊のクリムト、諸のムンク等の作品を集む。

泰西の繪畫及彫刻 彫刻篇 洛陽堂編 一中 九四五 洛陽堂 一、五〇

埃及、希臘の古代彫刻、文藝復興期に於けるミケランヂエロの作品及び現代のもの數十種を收む。

縮樗牛全集 第一卷美學 高山林次郎編 一小 八三二 博文館 一、二〇

及美術史 姉崎正治等編

美學上の研究、美術雜論及日本美術史を載す。

俗美學 講話瀧村斐男 一小 二五四 不老閣 〇、七〇

美の概念、材料、形式、表出等を平易に説く。

△佛教藝術の研究

東洋藝術論攷の改題。

平子鐸嶺 一中 七七〇 金港堂 二、五〇

番號

文部省美術展覽會圖録

文部省編 二大 四五〇 審美書院 一、三〇

印刷説明。

文展十年(美術叢書第五編) 青木小四郎編 一小 一二九 美術叢書刊行會 〇、四五

十年間の重なる圖録と審査員及秀逸作品の目錄を兼ねぬ。

美術辭典 石井柏亭等編 一小 九〇三 日本美術學院 三、〇〇

東西兩洋に亘りて美術に關する一切の事項を網羅す。

青山より(趣味叢書第十編) 黒田朋信 一小 四一五 趣味叢書發行所 一、二〇

美術に關する論説と隨筆とを蒐む一たび讀覽新聞に出でたるもの多し。

家と人と(趣味叢書第九編) 山崎靜太郎 一小 三三四 趣味叢書發行所 一、二〇

主として建築美術に關する論文を集む。

印象派及其前後、新印象派、ロダン附メニエ論、立體派の畫等を收む。

印象派及其前後、新印象派、ロダン附メニエ論、立體派の畫等を收む。

印象主義の思想と藝術(近代思潮叢書第五編)	高村光太郎	一小	四八	天	張	〇、五〇
印象主義の藝術上の諸問題を主とし思想的方面に及ぶ。						
畫室にて(趣味叢書第七編)	南 薰 造	小中の	三一三	趣味叢書發行所		一、二〇
數年前より數種の雜誌等に書きたる著者の美術に関する見聞、感想等を纏めたるもの。						
近世美術	木村 莊 八	小中の	四三六	洛陽堂		一、三〇
譯稿、紹介と感想の二篇に分つ、何れも美術、美術家等に關するもの。						
藝術の革命の譯と三人の畫家の評論等、	木村 莊 八編	小中の	六二一	洛陽堂		一、七〇
後期印象派論	佛、リュキスハイネフ 木村 莊 八譯	一中	一二八	書畫會		〇、八〇
數年前雜誌現代の洋畫の特別號として出せるものより主なる論文等を抜粋して單行本となせり。						
古美術行脚(趣味叢書第五編)	黒田 朋 信	小中の	三〇三	趣味叢書發行所		一、〇〇
古美術行脚記と古美術分布觀を収む。						
美術家と藝術運動(趣味叢書第十一編)	森田 龜之輔	小中の	三六五	趣味叢書發行所		一、二〇
巨匠ロダン、泰西畫界の最近運動、彫刻界の巨人ムニエの三篇を収む。						
美術と社會(趣味叢書第十二編)	岩 村 透	小中の	三四八	趣味叢書發行所		一、二〇
美術の對社會的問題に關する五六年来の論文を取纏めたるもの。						
美術と文學	英、ラヌスキン 澤村寅二郎譯	一中	六〇八	有朋堂		一、二〇
原著者の「近世畫家」第三卷全部を譯出したるもの。						
ラスキン抄(趣味叢書第八編)	英、ラスキン 澤村寅次郎譯	小中の	三七六	趣味叢書發行所		一、二〇
ラスキンの諸著書より繪畫、建築、彫刻に關する論文を抄譯す。						

二史傳

立體派及び後期印象派(美術叢書第八輯)	米、エツツク 久米正雄譯	小中の	二八〇	向陵社		一、五〇
後期印象派運動を叙述す。						
ロダンの藝術觀	佛、グセ 木村莊八重譯	小中の	四六〇	洛陽堂		一、五〇
ロダンの小傳を附す。						
ロダン論(佛、サイマンス著高村光太郎譯)を附す。	佛、グセ 吉川水淡譯	一中	一四六	日本洋畫協會		一、〇〇
日本美術史(美術叢書第四輯)	英、デイック 姑射良譯	小中の	二三一	向陵社		一、五〇
原書を舊日本の美術工藝と云ふ、日本の繪畫、彫刻、金屬作品、陶磁器、漆器等に就て説明す。						
日本美術史講話(趣味叢書第三、四編)	黒田 朋 信	小中の	六九六	趣味叢書發行所		二、二〇
搖籃時代より明治時代まで。						
日本美術年鑑 第三卷	日本美術年鑑編集部	小中の	一九四	畫報社		一、五〇
明治四十五、大正元年度の美術界の状態を叙述す。						
印度美術史(美術叢書第九輯)	英、クイマラスミ 蘇武綠郎等譯	小中の	二八四	向陵社		二、〇〇
印度教、佛教、回教に關する美術史。						
埃及美術史(美術叢書第三輯)	英、ベトリ 石山徹郎譯	小中の	二二二	向陵社		一、五〇
古代埃及の美術工藝を論じたるもの、百數十の挿圖あり。						

埃及建築史(美術叢書 第七輯) 石山徹郎等譯 小中 二二五 向陵社 一、五〇
 埃及の太古よりトレー王朝に至る建築其他の美術を論ず。
 西洋美術史(美術叢書 第貳輯) 石井直三郎譯 小中 三〇六 向陵社 一、五〇
 民族移動期を中心としてチュートン民族の美術と工藝を研究したるもの。

三書畫

イ總記

書畫鑑定法 平渡庄兵衛編 中 一三二〇三 書畫研究會 二〇、〇〇
 秩序的に鑑定の何なるかを論じ其方法を詳解す、著者二十年來の研究を積めるもの。
 △日本書畫骨董大辭典 池田常太郎編 大 一七八九 日本美術鑑賞會 一五、〇〇
 書、畫、骨董の三部とし、作家の略傳、種類、形狀、性質等を説明せり。

標註書畫別號集覽 杉原幸編 中 一三八四 書畫骨董雜誌社 一、〇〇
 一人にして三四或は十餘の別號を有する人々を網羅したり。
 日本書畫便覺 飯田米輝 小 四五六 大倉書店 一、一〇
 上古より大正四年に至る書家、畫家、文人等を網羅し鑑證に便す、索引あり。
 日本書畫落款印譜 杉原幸編 中 六〇四 松山堂 三、三〇
 古今書畫名家の名字、落款、花押等を蒐集し且其小傳を附す。

口繪畫

(一)總記

第十四回興畫會展覽會傑作集 興畫會本部編 中 六〇三 書畫會本部 一、〇〇
 日本畫、西洋畫を合せて六十の傑作を收む。

現代の日本畫 松本亦太郎 中 五二四 北文館 二、八〇
 日本畫の發達を述べ現時の日本畫を論評す。
 △東洋畫論集成 今關壽齋編 中 一二三一 讀畫書院 八、〇〇
 王維の畫學、秘訣、張彦遠の歷代名畫記其他數十種の書を和譯して編輯せるもの。

○ 浮世繪と風景畫 小島久太 中 四六八 文榮閣 三、〇〇
 ○ 浮世繪に於ける風景畫論。

○ 戰爭 落岡本一平 小 一〇〇三 甲陽堂 〇、三三
 歐洲大動亂勃發時代より青島陷落頃までの朝日新聞に連載せられたるもの。

探訪 畫 趣 岡本 一平 中の 二四三 甲陽堂 〇、六五 番
 著者の畫集、文集。
 漫畫 マツチの棒 岡本 一平 中の 二五九 甲陽堂 〇、六五
 と文 著者がマツチの棒に墨汁を浸して畫を書くは人の知るところなり。

歐洲 美術 通路 石井 滿吉(柏亭) 中の 六六四 東雲堂 三、八〇
 埃及、土耳其、伊太利、佛蘭西、英吉利、西班牙、伊太利、埃太利、獨逸、佛蘭西、白耳美、荷蘭、露西亞各國の通路記。
 現代の西洋繪畫 岡島 敬治 中の 二八四 丙午出版社 一、六〇
 西洋各國の繪畫史と現今の狀況とを紹介す。

(二) 史 傳

近世 繪 畫 史 藤岡 作太郎 中の 四四〇 金港堂 二、〇〇
 上古以來繪畫の變遷を叙述す。

日本 近代 畫 家 在 世 年 表 和田 萬吉 中の 四八四 丸善 二、二〇
 永祿二年より大正二年に至る三百五十餘年間の我が國畫家の在世年代を示す爲に、年々其年の年齢順によりて排列す、蓋繪畫
 賞翫者の絶好參考ならん。

日本 版 畫 史(美術叢書) 佛、ザイドリッツ 中の 一九三 向陵社 一、五〇
 蘇武 綠郎 譯 墨摺版畫と色摺版畫を論ず、挿畫數十圖あり。

浮世 繪 の 諸 派 原 榮 中の 二七四 弘學館 二、〇〇
 寛永元年より明治廿五年迄を五期に分ち各時代の畫家を論ず、挿畫三十枚。

古 代 錦 繪 畫 家 名 辭 書(附 價 格 覽) 鹽田 久次郎 編 中の 四四四 慶文堂 〇、三〇
 明應頃より明治に至る畫家を集め各其作畫の價格をも記載す。

池 大 雅(美術叢書) 相 見 繁 中の 一〇二 美術叢書刊行會 〇、四五
 簡單なる評傳及逸事。

宗 達 と 光 琳(美術叢書) 春 山 武 松 中の 一〇八 美術叢書刊行會 〇、四五
 宗達と光琳を簡明に論述す。

圓 山 應 舉(美術叢書) 姑 射 良 中の 一〇八 美術叢書刊行會 〇、四五
 簡單に應舉の傳記を掲げ其時代畫風等を論ず。

印象派の畫家(美術叢書) 佛、モークレール 中の 二四八 向陵社 一、五〇
 印象派の畫家と其作品とを論ず。
 エル、グレコ(繪畫叢書) 木村 莊 八編 中の 二〇五 洛陽堂 〇、八〇
 エル、グレコの評傳なり、多くの繪を挿む。
 ボ テ イ チ エ リ(繪畫叢書) 木村 莊 八編 中の 一八四 洛陽堂 一、〇〇
 ボ テ イ チ エ リの評傳し代表的作品數圖を挿めり。

名畫のロマンス 石井滿吉(柏亭) 小中の 二三八 日本美術學院 〇、九五
 十數種の名畫と其筆者の逸話、傳記等を集む。
 レオナルド(繪畫叢書 第三編) 木村莊八編 一小 二二〇 洛陽堂 一、〇〇
 レオナルド及ゴッソキオの評傳。

(三) 畫法

×幼稚園 實用圖畫指針 松田茂 一中 二四一 明誠館 一、二〇
 家庭學校 兒童に實用圖畫を指導する參考用書。
 學校通俗畫 手本 大竹昌春(竹舟) 小中の 二二二 甲陽堂 〇、五〇
 各種繪畫の起源を示し解説を加へ卷末に二百圖を載せて其畫法を親切に説明せり。

鉛筆 補習 鉛筆畫譜 第二 石井滿吉(柏亭)等 一大 一二五 日本美術學院 〇、八〇
 柏亭、弘光氏等の鉛筆畫十二枚を收む、一々解説あり。
 新洋畫の手ほどき 倉田重吉(白羊) 一中 八四三 文盛館 一、三〇
 模寫、寫生、彩色畫、圖案に就ての平易なる説明。
 寫生新說 石川欽一郎 一中 一八四 日本美術學院 一、三〇
 寫生の準備、出かける方面、描き方、畫面の構成、調子の纏め方、色彩と感じ等。

ハ 書

楷書 恰好論 諸井春畦 一中 二七〇 博文館 一、二〇
 楷書の恰好形體を論じ精神を重んずべきことに及べり。

假名之 栗山内香溪編 一中 四〇三 文盛堂 〇、二五
 各體假名字手本。

行草手紙字書 佐藤壽雄(梅園) 一中 一六八 大倉書店 〇、五〇
 男女の書翰用語及日用文學を行草體に揮毫す、偏冠構字集は便利なり。

書道 十字法 小里散陸(箕水) 一中 一九八 成美堂 〇、八〇
 著者の新に研究せる十字二法を叙説す。

草字 彙物集 高量編 一中 一〇〇八 帝國圖書普及會 三、二〇
 支那にて刊行せられたる草字彙を翻刻せるもの、文字と文章の研究を附す。

手紙と書式 中村春堂編書 一大 四〇三 辰文館 六、四五
 手紙、短冊、扇面、はがき、懸詠草、横詠草、懷紙、色紙、結納目錄の書式手本。

ペン習字手本講話 後藤朝太郎編 小中の 一七五 泰山房 〇、八〇
 上篇に於てペン習字を講じ下篇に手本を示せり。

最新式ペン習字法及手本 三浦浩東 小中の 一一八 香誠堂 〇、八〇
 ペン習字の必用と其書き方とを説明す。

隸書 海書道研究會 小中の 二七二 文盛堂 〇、八〇

四圖案

應用カッタ集 第一輯	ウキンドウ畫報社編	一大	一〇〇五	ウキンドウ社	一、二〇〇
種々のカット四百九十六種を収む。					
天廣告應用圖案集	上地逸太郎(天逸)	一大	九〇四	六合館	二、〇〇〇
廣告畫、雜誌の表紙等の參考圖案集なり意匠斬新。					
非水圖按集	杉浦朝武(非水)	一大	五二四	文淵堂	三、五〇〇
著者が從來圖書、雜誌、廣告等に試みたる各種圖案五十枚百八十七圖を収む。					
非水の圖案	杉浦朝武(非水)	一大	五〇五	星文館	四、五〇〇
各種の圖案五十圖を収む、自然より學べるもの多しと。					
輪廓のみの圖案法なり、考案者數十名。	鹿島英二編	二大	七七五	深田圖案研究所 (名古屋)	四、〇〇〇

五寫真印刷鑄金古錢

寫真のうつし方	三宅克己	一小	一八九五	阿蘭陀書房	〇、七五
説明懇切、初學者の好手引。					
寫真寶鑑	秋山徹輔	一小	六一〇四	小西本店	一、〇〇〇
寫真術上の學說、技術、處法、寫真機用法の説明を掲ぐ。					

印刷術中、下巻	矢野道也	一中	七二七	丸善	三、七〇
凹版術、平版術、寫真應用製版術及色刷術を詳説す。					

日本鑄工史稿(一)	香取秀直	一小	一八六	甲寅叢書刊行所	〇、五〇
江戸鑄物師の話、江戸鑄名譜及年表。					

古錢價額年鑑	山邊久太郎編	一中	二六五	前羽商店	〇、八〇
古錢數百圖に鑄造年代、神武天皇紀元、大正五年より何年前なるや、標準價を記入す。					
古錢大觀	中橋掬泉	三中	一二八	朝陽舎	一、五〇
上巻を日本之部、下巻を友那及安南之部とし外に和漢繪錢集を附録とす。					
漢古錢通	未脱銅吳齋編	一小	三四五	朝陽舎	〇、四五
日本支那の歴代古錢を集め、時價を詳記せり。					

ろ音楽

近代音樂精髓	大田黑元雄	一小	二〇三	音樂と文學社	一、〇〇
現代の文明を背景としたる音樂、歌劇等を論ず。					
最近の科學音樂の原理	田邊尙雄	一小	五〇七	老鶴閣	二、〇〇
より見たる音樂と音階のことを、平易の文章にて説明せり。					
西洋音樂史大要	田邊尙雄	一小	七二三	十字屋樂器店	〇、三〇
音樂史の梗概を記し音樂家肖像及一覽表、術語曲名、和英對照表を附録とせり。					

通西洋音楽講話 田邊尚雄 小の 三九四 岩波書店 一、三〇

音楽印象と感想 大田黒元雄 小の 一九六 音楽と文學社 一、〇〇
著者の倫敦滞在中に得たる印象を基としたる音楽に関する論文集。

歌舞音曲考説 高野辰之 小の 五九二 六合館 一、八〇
田樂史、女歌舞伎、室町時代の小歌、近松研究の手引、淺間淨瑠璃考等何れも多年の研究を経たるもの。

近世邦樂年表 江戶長唄及大陸摩 東京音楽學校 大の 二八三 六合館 一、五〇
江戶長唄の創始時代に始り慶應三年に終る。

西洋音楽史綱 富尾木知佳 小の 七〇四 共益商社 三、五〇
東京音楽學校に於ける著者の講義を基礎とす。

バッハよりシエーンベルヒ 大田黒元雄 小の 四〇四 山野樂器店 一、五〇
バッハ以下六十名の音樂家の評傳。

音程教本伴奏譜 福井直秋 大の 七八三 共益商社 一、〇〇
前著音程教本の伴奏譜にして平易簡明に調和したるもの。

近世俚謡歌曲集 東京上野音樂會編 大の 四六四 盛林堂 一、〇〇
維新前後流行のよきこい節より最近流行のゆめのよ節までも收む。

唄と三味線 中川良平(愛水) 小の 四五六 艮山書店 〇、九〇
三味線の由來、聲調等及地唄、長唄、説教節、河東節、一中節に就て説明し且其例を擧げたり。

新選琴唄全集(邦樂全書) 中川良平(愛水)編 小の 六三六 いろは書房 一、五〇
琴唄の由來に關する詳細なる歴史を掲げ琴の使用法を略説し、本文には現にうたはるゝ琴唄の殆んど總てを網羅せり。

箏曲集 第二編 東京音楽學校編 大の 九〇三 大日本圖書株式會社 〇、九〇
三つの船、雲の上、松むし、榮ゆる宮、薄霞、友千鳥、早春の典、椿づくし。

長唄名曲集 小谷青楓 小の 一七五 いろは書房 一、二五
歌詞は全部假名として節廻しの一斑を示し、口三味線を以て前弾き合の手を書き入れたる。

第廿一 諸 藝

い 謡曲 能樂

風方謡曲辭典 正田章次郎(梅華)編 小の 四七二 東亞堂 一、五〇
秘訣 謡曲本を本體として風方を精密に解説せり。

謡曲大辭解 皇學書院編 中の 八〇四 いろは書房 三、五〇
犬井貞恕著謡曲拾葉抄に校訂を加へたるもの。

謡曲二百番 井上頼一 小の 一四一 博文館 二、五〇
謡曲の格調、節奏等を説き高砂以下百數十番を收む。

番號

- 謠 以 樣 奧 義 第三卷 齋藤芳之助編 一中 一〇八 能樂通信社 〇、九〇
- 本卷には梅若萬三郎氏の木賊以下八篇を收め各頭註を附す。
- 謠 稽 古 の 心 得 坂元三郎(雪鳥) 小中 二八四 甲陽堂 〇、七〇
- 懇切に謠稽古に就て心得べきことを説く、嘗て雜誌「能樂」臨時號として出せるものを基礎とす。
- 謠 曲 口 傳 寶生九郎 一中 二五六 能樂通信社 一、九〇
- 謠曲に關する種々の談話を筆記せるもの斯界に遊ぶ人の味ふべき節多し。
- 謠 曲 指 針 小田護一(稷堂) 一中 四〇七 文歐堂 二、三〇
- 初學者の親切なる手引書。
- 謠 曲 手 ほど き 正田梅香 小中 三七五 東亞堂 一、二〇
- 初心者の道しるべなり。
- 謠 曲 の 研 究 瀨尾武次郎 小中 二三四 金櫻堂 〇、七〇
- 謠曲の類型を一括して著者の感想と批評を記す。

○

- 能樂私論(現代文學叢書) 第三十八編 坂元三郎(雪鳥) 一小 二一四 春陽堂 〇、二五
- 能樂に關する論文を集む。
- 能學 諸流 座 右 寶 鑒 横井春野 小中 三三四 南北社 一、〇〇
- 能學の沿革を叙し現行諸流の大體に通ぜしむ。
- 能 狂 言 之 研 究 野村八良 一小 一六四 光風館 〇、六五
- 國文學史の方面より能狂言を研究す。

ろ 演 劇

番號

- 演 劇 叢 話 關根只誠 小中 四〇四 廣文堂 一、五〇
- 芝居年浪草、松のみどり、中澤むら千鳥、雀のさきがけ、河竹のふたよ等を收む。
- 演 劇 評 論 小宮豊隆 小中 四四八 日月社 一、〇〇
- 演劇に關する論議を集む。
- 演 劇 文 庫 第一編 演藝珍書刊行會編 小中 四二一 演藝珍書刊行會 一、七〇
- 三座例遺誌、夏の富士、多話戲草、俳優世々の接木、役者用文章直指箱の五書を收む。
- 演 劇 論 集 小山内薫 小中 四三五 日東堂 一、一〇
- 著者が歐洲觀劇旅行より歸りたる後發表したる文章廿三篇を收む。
- 教 化 と 演 劇 坪内雄藏 小中 三〇六 尙文館 一、〇〇
- 劇は教化機關なりや、ショー其人及び其作、教化の目的と文藝協會、何故に新しき劇を欲するか? 大仕掛の娛樂等の諸篇を收む。
- 西 洋 芝 居 土 產 坪内士行 小中 五〇四 富山房 一、四〇
- 七年間英米に於て見聞したる劇壇の現狀を紹介す。

は 遊 藝 娛 樂 武 藝 運 動 遊 戲

一 生 花

- 獨習生 花 秘 傳 集 華道實習會編 小中 一九九 辰文館 〇、四五
- 自在 櫻花、朝顔、水仙、紅葉、蘭其他の生方を平易に説明す。

古流花道講義 中澤理水 二 三二〇 大倉書店 一、三〇

最新各種の生花法を説くこと詳密、附録生花圖譜には數十圖あり。
實験挿花水揚法 小林治兵衛(蠶洲) 一中 二七二 花同會 一、三〇

水揚に困難なる植物二百餘種を選び之を四季に分ちたり。
專敬流生花のしをり 專敬流花道獎勵會編 一中 一三二 研文館 一、〇〇

生花の歴史、生花立華の方法等。
插花の趣味 遠山椿吉 小中 一六三 如山堂 〇、五〇

活花の本領、歴史、美術としての活花、茶の湯と活花、花道の流派、藝術、教授法、應用、發展、花の表情、活花の風流等を系統的に、素人にも解るやう記述したるもの。
投入花の寫眞、圖畫を挿みて對照に便にす。
投入花の 栞種子 蘇堂 小中 一八二 實業之日本社 〇、八〇

多くの圖を挿みて拋入盛花の變遷、花形等を説明せり。
實地盛花瓶華秘法 小乾林 勉 一中 一三六 晋文館 〇、九〇

二 茶 道

井伊大老茶道談 中村勝麻呂編 二中 二六〇 筈文社 一、五〇

入門記、茶湯一會集、披間之辨、閑夜茶話等を收む。
茶室構造法圖解 杉本文太郎 一中 一六四 建築書院 二、五〇

茶室の構造に就て其配置、空氣と光線、棟と屋根等の注意を述べ實例を多く掲ぐ。

番 號

△茶之湯釜圖錄 香取秀眞 一大 一〇〇 東京鑄金會 一、〇〇

古來有名なる茶の湯釜の圖六十八種の寫眞及七十八種の模寫を掲げて説明を施し且鑄工の歴史傳記を載せたり。
通茶の湯早まなび 田中鼎 一中 三九九 茶禪房 一、〇〇

初學者に授くる講義體。
東都茶會記 第三輯 高橋義雄 二中 四八九 筈文社 一、五〇

向島ビクニツク茶會、波多野氏初陣茶會等大正四年中の茶會記事を編輯す。
臍 茶 高橋義雄 小中 一四〇 筈文社 〇、三〇

三 圍 碁

圍碁講義 雁金準一郎 五中 一二六 博文館 〇、八〇

第一、二編圍碁手ほどき第三編圍碁手筋第四、五編圍碁碁定石。
圍碁戰解 野澤竹朝 一中 二二八 星文館 一、二〇

嘗て讀賣新聞に掲載せし素人の打碁、三十二局を選び著者の評を加へたるもの。
圍碁大斜百變 上巻 野澤竹朝 一大 九七 富の日本社 〇、七五

大斜碁碁定石の利害得失を研究す。
圍碁策妙手 小林健太郎 吉中 一三三 圍碁雜誌社 〇、七五

讀者に成るべく考案せしむる爲、問題と解説とを分類せり。
圍碁三世石立集 三編 井上保申編 一中 二〇三 萬歲館 〇、八〇

圍碁中の定石

中の定石とは置碁中六子以上の碁に於て左右の中央にあるものを云ふ、其捌き方を説明せり。
 圍碁 爭要義 第一卷 胡桃正見編 一中 一五八 大阪屋 〇、五〇
 秘訣 碁界新報社 〇、五〇
 布石、定石通解の書は多けれど戦争に關する碁書少し、本書の如きは同好者の良参考書ならん。
 石の死活と定石の活用 鈴木爲次郎 一中 三三四 廣文堂 一、二〇
 新らしき手筋を説明し之に圖解を加ふ、石の新戰略にして一手能く全局を計り得ると云ふ、定石の活用も多面より解説せり。
 奇美談 碁吉田俊男 一小 二四三 尙榮堂 〇、四〇
 碁界の珍談奇談を輯む、著者も斯界の人だけあつてなかく面白し。
 現今 戰朝報社編 二中 四四〇 朝報社 二、〇〇
 萬朝報に連載せられたる名家の對局を編めるもの。
 短期 道橋本藤三郎 一中 二二五 弘學館 〇、八〇
 初學の人に了得せしむるやう平易に碁道を説明せり。
 常識 碁道大觀 森田幸次郎 二中 四一三 研文館 一、五〇
 碁道的一般を説明す、附録として練習カードあり。
 新案 碁定石活論 上卷 巖崎健造 一中 八四五 方圓社 〇、六五
 上卷に收むる所總説及び小目小桂馬懸りの部とす。
 互先 碁石詳解 雁金準一 一中 一四二 圍碁雜誌社 〇、七五
 詳細なる互先定石の研究なり、一々圖譜に依りて説明す。
 新式 圍碁寶典 第二、三、四 鈴木爲次郎 三中 二八〇 大阪屋 一、九〇
 戦争之部、布石之部、打碁之部によりて講述す。

番號

新圍碁定石講話

鈴木爲次郎 一中 七八四 大阪屋 〇、五〇
 圍碁の基礎を作す法則たる定石を講述す。
 新圍碁 碁全集 鈴木爲次郎 一中 二五四 大阪屋 一、〇〇
 圍碁に關する一切の科目即ち定石、布石、詰物、浸分、打碁を網羅す。
 獨圍 碁定石早合點 井上保申編 一中 六二五 萬歲館 〇、四〇
 初學者の爲に定石の大意を了解せしめんとす。
 圍碁 發陽論 井上因碩 一中 一三三 萬歲館 〇、七五
 本書一名「不斷櫻」と云ふ、曾て時事新報に掲載されし外、未だ刊行せられざりしを今回上梓したるもの。
 圍碁 布石攻合法 中川龜三郎 二大 一六八 大阪屋 一、二〇
 六十餘篇に就て陣立、攻防收束等を説明す。
 置碁 布石要訣 雁金準一 二中 二四二 星文館 一、二〇
 二目より六目に至る布石の要訣を説く。
 名圍 碁妙手競 吉田菊子編 一中 八八四 尙榮堂 〇、五〇
 諸大家の對局碁數十番を收め、本因坊秀哉外二名の經歷等を附す。
 聯珠斜引先手必勝法 三上雄石 一中 一〇五五 萬歲館 〇、七五
 一名を五目ならべ秘傳と云ふ。

四將棋其他

小野名 古今將棋手合 小野五平編 一中 七八六 博文館 一、八五
 人講評 古人の手合七十番今人の手合六十一番を收む。

小野將 碁速 成 小野 五平 小中の 三九四 東亞堂 一、〇〇

將 碁 必勝法 濱井松之助編 小中の 一七四 大阪屋 〇、五〇

六段渡瀬莊治郎原作六段木見金次郎講解。

將碁 陣立くづし法 土居市太郎 小中の 一四六 萬歳館 〇、五〇

陣立くづしの變化を説明す。

名人 詰將棋 妙手選 將棋新報社編 小中の 一〇八 大阪屋號 〇、三五

古今の名人大家の詰將棋より正格、奇法、曲詰等凡そ百局を抄録す。

小倉百歌 留多の研究 石井茂二郎 小中の 二五〇 栗原書店 〇、六〇

丁寧親切にかかるたの早取法、配列法等を説明せるもの、著者は斯界の驍將なり。

トランプ 必勝法 藤原 薫 小中の 一〇五 富文館 〇、二五

トランプに關する一般的知識を與へ其必勝法を説く。

トランプの遊方 無名氏 小中の 七七三 文影堂 〇、二五

簡明にトランプの遊び方を説明せるもの。

番號

撞球 指南 南玉乃一熊 中の 三〇一 民友社 一、五〇

初心者にもわかりやすく詳細圖解す、著者は斯界の先達なり。

獵銃 銃鑑 附獵犬の血統 中山三保太郎 小中の 二二六 榮美堂 一、八〇

獵銃の各部を圖解し又血統正しき獵犬に就て詳説せり。

活動寫眞の原理及應用 權田保之助 中の 四五三 老鶴閣 一、五〇

歴史、理論、取扱法、種類、應用に就て詳述し機械等の圖を多く挿入せり。

五 劍術 柔術其他

劍道 高野佐三郎 中の 四五二 劍道發行所 二、五〇

劍道の教習、術理、史傳を説くこと詳密なり、著者は高等師範學校の劍道師範たり。

劍道 極意 香川 輝 中の 二八九 大正書院 〇、九五

主として伎倆の均等なるものに就て述べ、特に女子に斯道を磨かしむべしと論ぜり。

劍法 秘訣 千葉 周作 小中の 二六〇 千葉勝太郎 一、二〇

北辰一刀流を開き江戸の大道場として聞えたる玄武館主千葉氏の遺稿なり。